

志木市「地区まちづくり会議」  
活動実践報告書

地区まちづくり会議【第2期】

任期 平成28年7月1日～平成30年6月30日

## 「地区まちづくり会議」の活動に感謝！

私は、市長就任の折に、地域の皆様と市職員とが市政の課題を共に共有できる仕組みとして「地域担当制」を導入し、市内7地区それぞれに住む皆さまと、市職員による「地区まちづくり会議」を平成26年7月から2年の任期でスタートいたしました。



第一期「地区まちづくり会議」の皆様には、『地域のことは地域で解決する』という崇高な理念のもと、各地区の良い点はさらに伸ばし、課題は解決に結びつけるため、積極的に取り組んでいただきました。こうした「地区まちづくり会議」の活動をきっかけに、縁あって出会った皆さまは、新たなコミュニティを組織され、それぞれの地域のために現在もご活躍いただいております。

このような第一期の皆様の後を受け、平成28年7月から平成30年6月までの2年任期で、7地区の市民委員76人、地区担当職員35人、計111人による第二期「地区まちづくり会議」がスタートし、第一期の実績を継承しつつも独自の視点により、各地区の夢のあるまちづくり活動を展開していただきました。

上宗岡地区、中宗岡地区、下宗岡地区、本町地区、幸町地区、柏町地区の6地区では、地域で生まれ・育ち、これまで住んできた方々と、新たに本市に越して来られそれぞれの地域に住まわれた方々との関係が、地域の課題ととらえ、互いのコミュニケーションを深めるとともに、自分たちの住む地域はどのような所で、どのようなものがあるのかを再確認・新発見していただくため、どの地区も大変趣向を凝らしたイベントを実施していただきました。館地区では、地域に住む方々の生活をさらに向上させるため、地域内にある8つの街区の管理組合と町内会との共有の課題等を協議・検討する場を創出するため、関係者一同が会する「ニュータウンまちづくり懇談会」を設置していただきました。懇談会は既に機能しており、地域内の防犯カメラ設置や交通問題について、積極的な話し合いを持たれております。

本活動実践報告書に掲載させていただきました成果とご提言は、皆様がこれまでに費やしてこられた貴重な時間とエネルギーの証であることから、今後の市政運営に十分活かしてまいる所存であり、とりわけ、地区まちづくり会議活動で実践いただきました市民の皆様と市職員とによる市民協働のあり方は、2020年に到来いたします「市制施行50周年記念事業」の実施に、しっかりと受け継いでまいります。

このように、私が提唱しております「市民力」が活きるまちづくりは、皆さまのお陰をもちまして、確実に具現化していただきました。これまでの皆様のご労苦に対し、改めまして感謝申し上げます、活動実践報告書に寄せる御礼のあいさつといたします。

誠にありがとうございました。

平成31年2月

志木市長

香川 武文

# 目 次

## 内 容

I	地区まちづくり会議とは.....	1
1	目 的.....	1
2	設置理由と役割.....	1
①	設置理由.....	1
②	主な役割.....	1
3	内 容.....	1
①	組 織.....	1
②	任 期.....	2
③	活 動.....	2
II	各地区まちづくり会議からの実践報告.....	3
1	上宗岡地区まちづくり会議.....	3
(1)	上宗岡地区まちづくり会議委員構成.....	3
(2)	第2期上宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色.....	4
(3)	上宗岡地区の課題について.....	6
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	9
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言.....	17
(6)	まとめ.....	21
2	中宗岡地区まちづくり会議.....	24
(1)	中宗岡地区まちづくり会議委員構成.....	24
(2)	中宗岡地区まちづくり会議のプロフィールや特色.....	24
(3)	中宗岡地区の課題について.....	26
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	27
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言.....	45
(6)	まとめ.....	49
3	下宗岡地区まちづくり会議.....	51
(1)	第2期下宗岡地区まちづくり会議委員構成.....	51
(2)	第2期下宗岡地区まちづくり会議のプロフィールや特色.....	52
(3)	下宗岡地区の課題について.....	54
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	55
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言.....	62
(6)	まとめ.....	65
4	本町地区まちづくり会議.....	71
(1)	本町地区まちづくり会議委員構成.....	71
(2)	本町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色.....	72
(3)	本町地区の課題について.....	78
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	78
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言.....	85
5	幸町地区まちづくり会議.....	91

(1)	幸町地区まちづくり会議委員構成.....	91
(2)	幸町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色.....	91
(3)	幸町地区の課題について.....	92
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	93
(5)	夢ある地区のまちづくりに向けた提言.....	101
(6)	まとめ.....	107
6	館地区まちづくり会議.....	110
(1)	館地区まちづくり会議委員構成.....	110
(2)	館地区まちづくり会議のプロフィール及び特色.....	111
(3)	館地区の課題について.....	112
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	114
(5)	夢のある地区まちづくりに向けた提言.....	120
(6)	まとめ.....	124
7	柏町地区まちづくり会議.....	126
(1)	柏町地区まちづくり会議 委員構成.....	126
(2)	柏町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色.....	127
(3)	柏町地区の課題について.....	128
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について.....	131
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言.....	143
(6)	まとめ.....	147
III	資料編.....	149
1	各地区まちづくり会議開催状況.....	149
(1)	上宗岡地区まちづくり会議開催状況.....	149
(2)	中宗岡地区まちづくり会議開催状況.....	150
(3)	下宗岡地区まちづくり会議開催状況.....	151
(4)	本町地区まちづくり会議開催状況.....	152
(5)	幸町地区まちづくり会議開催状況.....	153
(6)	館地区まちづくり会議開催状況.....	154
(7)	柏町地区まちづくり会議開催状況.....	155
2	地区まちづくり会議推進本部会議開催状況.....	156
3	地区まちづくり会議リーダー会議開催状況.....	156
4	地区担当長連絡会議開催状況.....	157
5	研修会等の開催状況.....	158
6	地区まちづくり会議スタート式・中間報告会・活動実践報告会.....	158
(1)	地区まちづくり会議スタート式.....	158
(2)	地区まちづくり会議中間報告会.....	159
(3)	地区まちづくり会議活動実践報告会.....	159
7	要綱・規程.....	160
(1)	志木市地区まちづくり会議設置要綱.....	160
(2)	志木市地区担当職員設置規程.....	163
(3)	志木市地区まちづくり推進本部設置規程.....	166

# I 地区まちづくり会議とは

## 1 目的

志木市では、『市民の声がしっかりと市役所に届く仕組み』を実現するため、市内を7地区【上宗岡・中宗岡・下宗岡・本町・幸町・館・柏町】に分け、市民の皆さんと市職員がいっしょにまちづくりを考え、推進するため、平成26年7月にそれぞれの地区に任期2年による「地区まちづくり会議」を設置しました。

(第1期の後を受け、第2期の皆さんが活動しました。)

## 2 設置理由と役割

### ① 設置理由

- ・市民の声が市にしっかりと届く仕組みの実現
- ・市政の課題を共有できる仕組みの構築
- ・新たな市民力の発掘
- ・市民と市職員がともに汗をかく

### ② 主な役割

定期的に会議を開催し、地区のまちづくりについて話し合い、また、まちづくり活動を実践します。

- ・地区住民自らによる課題の発見とその解決
- ・市民協働による地区まちづくり事業の実施
- ・地区の夢のあるまちづくりの推進（まちづくり施策の提言）

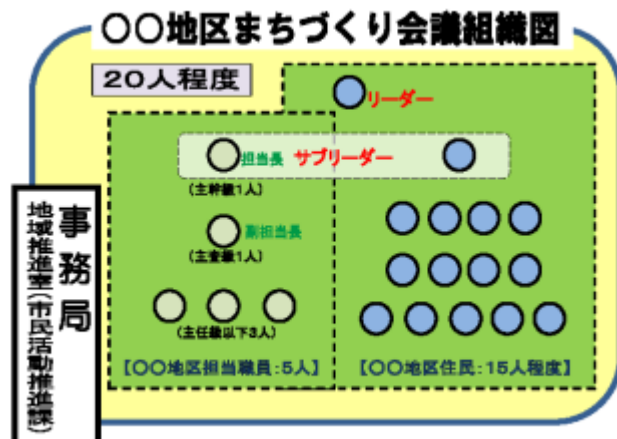
## 3 内容

### ① 組織

各地区20人程度で構成されています。また、本事業を円滑に推進するため、市民生活部市民活動推進課内に地域推進室が設置され、事務局となります。

住民委員…1地区15人程度

職員委員…1地区 5人



② 任 期

任期は、平成28年7月1日から平成30年6月30日までの2年間で、次による活動を実施しました。

1年目：地区の成り立ちなどの特性による、課題の抽出及び解決方法の検討

2年目：（1）地区の課題を解決に結びつけるための事業の実施

（2）活動実践報告書（課題解決の提言含む）の提出

③ 活 動

定例の会議については、各地区においてより参加しやすい日時を協議し、月に1～2回の頻度で開催しました。

また、地区の再確認、再認識となるよう『まち歩き』を実施しました。事業の実施や活動実践報告書作成のため、担当者を選任し、必要に応じて作業日を設けるなど、準備を行い展開しました。

## Ⅱ 各地区まちづくり会議からの実践報告

### 1 上宗岡地区まちづくり会議

#### (1) 上宗岡地区まちづくり会議委員構成

表 1-1 委員名簿

N o.	選 出 区 分		氏 名	備 考
1	第1号委員	住民委員	抜井 貴之	リーダー
2			八木 由子	サブリーダー
3			羽賀 佳和	
4			細田 雅也	
5			小林 博和	
6			松永 義晃	
7			松澤 裕司	
8			新田 次郎	
9			小田野 真依	
10			野別 茜	
11			池ノ内 瑛梨	
12	第2号委員	職員委員	成田 樹哉	サブリーダー
13			古田 真由美	
14			吉岡 理絵	
15			近藤 一貴	
16			畠山 敏輝	

表 1-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選 出 区 分	人 数	男 性	女 性
第1号委員	11人	7人	4人
第2号委員	5人	3人	2人

(2) 第2期上宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆活動拠点 ハイデンス集会所 e t c…

◆上宗岡地区のプロフィール及び特色

志木市の北東部に位置しており、西側には新河岸川が流れ、地内には農地と住宅地が混在している地域です。それ以外には本当に何も無い物静で緑豊かな上宗岡ですが、何も無いゆえにお寺や神社、公共施設や学校が多く存在しています。特に、『しきの伝説』が数多くあります。

2018年2月28日現在

世帯数	3,587 世帯
人口	8,444 人

伝説に関しては宗岡地区に11の伝説がありますが、そのうち約半分の6つの伝説がこの上宗岡にあります。

しきの伝説（上宗岡地区）

- ① こどもの好きなお稲荷様
- ② 羽根倉浅間神社（はねくらせんげんじんじゃ）の縁起
- ③ 観音前のいわれ
- ④ 鶴巻（つるまき）の池
- ⑤ 腹切り場
- ⑥ 八どんとむじな橋

詳細は志木市ホームページ

（ホーム > 市のあらまし > しきの伝説 > しきの伝説（宗岡地区））

<http://www.city.shiki.lg.jp/index.cfm/53,0,295,846.html>

お寺や神社、伝説が多く残っている古き良き地域であり、また条件が良ければ富士山も見えるので、散策に訪れてはどうでしょうか。



図 1-1 上宗岡から見える富士山



我が上宗岡地区まちづくり会議の構成委員は、一般公募者11名・市役所担当職員5名の16名で、20代から50代までの年齢で構成されており、比較的年齢も近い集まりでした。

まずは会議の5ヶ条を制定し、円滑に物事が進むようにしました。

### 会議の5ヶ条

- ① 会議は1時間30分とする
- ② 思い思いの意見を言い合う
- ③ 優しい“つつこみ”!
- ④ ゆる〜く! 楽しく!
- ⑤ 人の話は最後まで聞く!

5ヶ条により市民や市役所職員との垣根を取り払い、若い人も発言、発案できるようリーダーがまとめ、誰一人欠けることなく、みんなで協力し合いながら事業等について話し合うことができました。



図 1-2 新年会&誕生日会 (成田サブリーダー) の様子

(3) 上宗岡地区の課題について

第2期上宗岡地区まちづくり会議では、日常の生活の中で感じている地区の課題について活発に議論を行ってきた。

(ア) 課題の発見

- 平成28年7月 全体研修会においてブレインストーミング
- 平成28年9月 地区まちづくり会議にて  
ブレインストーミングからの課題の再検証
- 平成28年11月 委員による「まち歩き」の実施
- 平成28年12月 「まち歩き」から課題の再検証

(イ) 課題の具体化

会議の中では地区の課題について様々な意見が出され、課題を項目ごとに分類し、それらの内容について議論を深めていった。

(平成28年12月～平成29年3月)

上宗岡地区の課題については、「コミュニケーション」「交通関係」「飲食店関係」「防犯関係」「その他」という形で分類した。

① コミュニケーションについて

- ・新しい住宅が建ち始めており上宗岡に引っ越してくる人がいるが交流がない。
- ・子ども会への加入状況などについてもわからず、地域との繋がりが希薄である。  
⇒☆回覧板などを手渡しするなど、顔を合わせ接点を作る必要がある。  
☆市役所を巻き込んで「向こう三軒両隣」のようなシステムを作れないか。  
☆例えば「挨拶をしましょう。」など標語や、防災意識を高める掲示物・看板を設置する。
- ・宗岡第二小学校付近は、住宅と工場が入り混じっている印象であり、工場で働く人たちは災害など発生した際には近くの小学校に避難することなど地域の横の繋がりがどのように知っているか、不明である。  
⇒☆地域住民に対し、防災の意識調査等を行う。

② 交通関係について

- ・道幅が狭く、歩行時、自転車利用時に通行しづらい場所が多い。  
⇒☆子どもの学年ごとや高齢者の目線で見えた道の危険度マップを作成してはどうか。
- ・カーブミラーが設置されていない箇所があり、見通しが悪く事故が発生する可能性がある。

- ⇒☆カーブミラーを設置してもらえるように提言をする。  
ただし、まちづくり会議のメンバーの意見のみであると偏りが生じる可能性があるので、学校や町内会等に協力や意見を求め、どの場所に設置してほしいかを要望する。
- ・国道463号に架かる羽根倉歩道橋は冬季に凍結する場合がある。その歩道橋は、宗岡第二小学校の通学路にもなっており、子どもなどが通行する際に危険である。
- ⇒☆学校の先生が歩道橋に立っており、歩道橋を通行する子どもの安全は確保されていると考えられるが、より安全に通行できるように関係機関に要望する。

### ③ 飲食店について

- ・人を収容できる飲食店が少ない。  
⇒☆まちづくり会議として何かをすることは難しいため、出店してくれることを期待する。
- ・静かな店舗や座敷がない店舗が多く、子ども連れでは来店しにくい。
- ・いい飲食店はたくさんあるが、利用・認知されていない。  
⇒☆「子ども連れ歓迎」のような表示を飲食店がしてくれると入店しやすい。

### ④ 防犯関係について

- ・夜になると住宅地など国道を曲がった場所で暗く人通りが少ない場所がある。
- ・主要道路や羽根倉橋周辺の混雑を避ける抜け道など想定外に交通量が多い場所や子どもの登下校路の一部に照明が設置されていなく、見通しが悪い横断歩道があり、危険である。
- ・はじめ団地付近は、全体的に照明が少ないため夜になると暗く物騒である。
- ・このような街灯、道路灯の管理管轄があまり認知されていない。  
⇒☆感応式照明の設置について市に補助金を出してもらえるように提言を行う。  
☆「玄関灯を点けよう」という呼びかけやキャンペーンなど啓発活動を行う。

### ⑤ その他について

- ・各町内会ではお祭りなどのイベントを行っているが、地域に住む人の高齢化も進み、地域交流の担い手が少なくなっている。
- ・担い手の減少、商店街の変化などに伴い、消えてしまったイベントもある。
- ・地域のイベントに参加する人は高齢者が多く、若年者が少ない。

- ・地域の組織、係などで交流に温度差があり、意識や認知されていないものもある。
  - ・住人は休日、市外のショッピングモールなどを利用もするため、驚くほど静かな場所もある。
- ⇒☆若い人が地域のイベントに参加する人が少ないので、若い人が興味・関心を持てるイベントを考えていく必要があるのではないか。  
 ☆高齢者が元気になれるようなイベントを実施してはどうか。

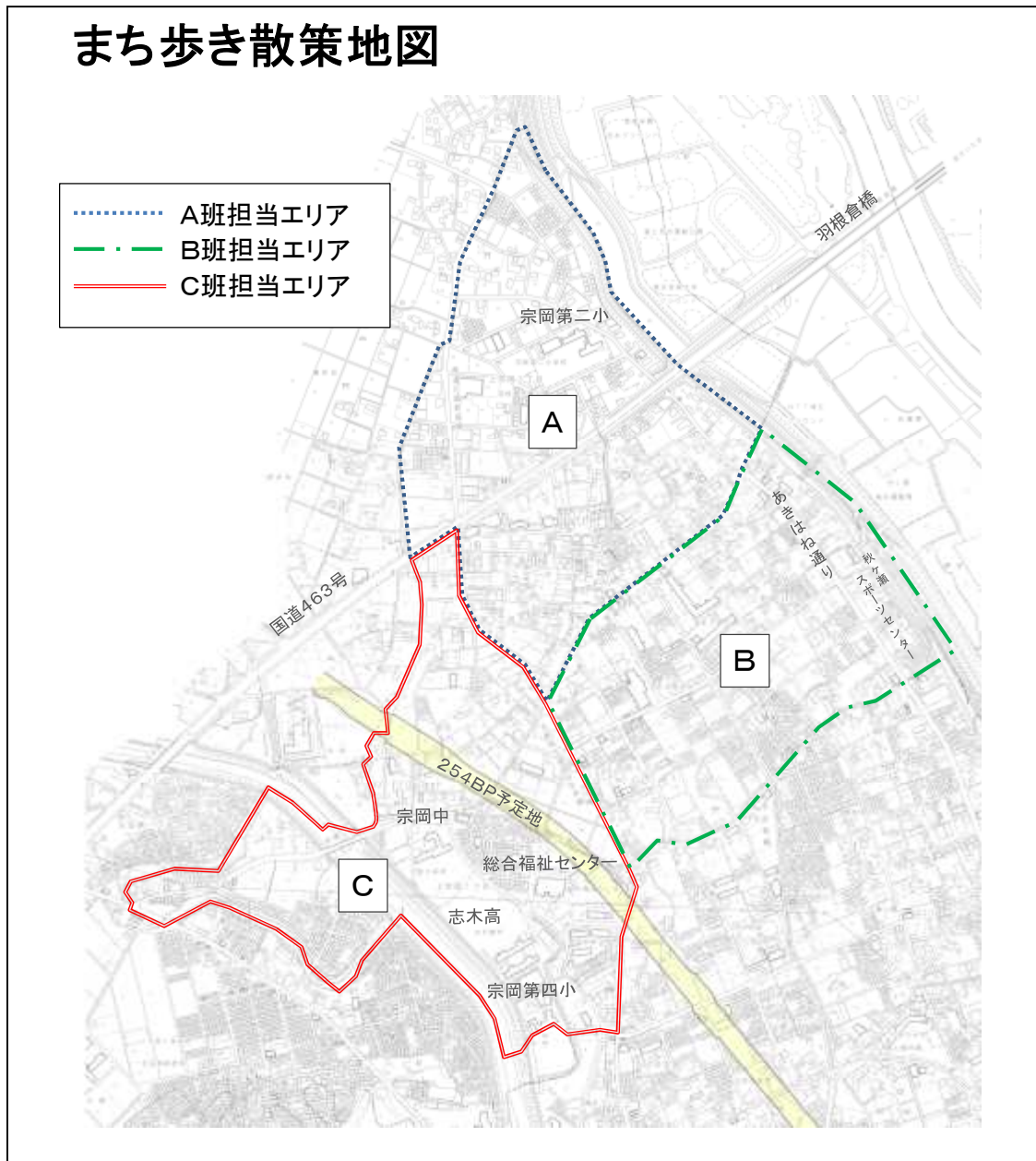


図 1-3 まち歩き散策地図

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

**事業コンセプト・手法**

上宗岡地区の現状と課題について議論を重ねた結果、住民同士のコミュニケーションの希薄化やコミュニケーションを通じた防災、防犯に対する意識の向上などが大きく取り上げられた。

このことにより、住民同士のコミュニケーションのきっかけづくりのため、イベントの開催にあたり、主催者と参加者という関係性ではなく、参加者同士でコミュニケーションがとれる場を構築することを目的としたイベントを実施する。

**内容**

かみってる!? 上宗岡ハロウィン祭り

～おばけと一緒に繋ぐ地域と防犯・防災意識～



【表】



【裏】

図 1-4 かみってる!? 上宗岡ハロウィン祭りポスター

イベントの開催については、チラシ及びポスターを作成し、学校から児童、生徒に配布して頂くとともに地域に根付いた、コミュニティ掲示板を通じて、地域住民に広く告知した。

## スケジュール (全体)

前日の準備を全員で行い、当日は、班ごとに行動する計画とした。

上宗岡地区多もづの会  
かみってら！下 宗岡ハロウィン祭り

日付	時間	内容	場所	観望	心算簿	投票・取組	取組	高輪	三ツ山・中ノ山	スナーク	宗岡地区 多もづの会	立教大学 どりいむ・ぼっくす	宗岡 区民会	演説	警備	清掃
10月25日	14:00~	準備準備	宗岡第二小学校													
	17:00~															
	19:00															
10月26日	8:00															
	7:00															
	8:00															
	9:00															
	10:00															
	11:00															
	12:00															
	13:00															
	14:00															
	15:00															
	16:00															
	17:00															
	18:00															
	19:00															
10月27日	8:00															
	12:00															

図 1-5 全体スケジュール

宗岡中学校及び宗岡第四小学校の楽器の搬入搬出にトラックを所有する近隣の協力者に依頼した。

### ○ ステージ出演依頼

- ・宗岡第四小学校
- ・宗岡中学校
- ・地元のチアダンス スイートスター
- ・立教大学 どりいむ・ぼっくす
- ・十文字学園女子大学 プラスちゃんクラブ
- ・地元のダンス EKDS

上宗岡ハロウィン祭り

14:00 観客券 授受(宗岡中学校、宗岡支部)  
※ゆるゆる集合

14:05 各場・演奏(宗岡第四小学校)

14:25 チアリーダー(スイートスター)

14:40 大演奏(立教大学、どりいむ・ぼっくす)

14:50 プラスちゃんクラブによるパフォーマンス  
(十文字学園女子大学、プラスちゃんクラブ)

16:05 演奏(宗岡中学校、宗岡支部)

16:45 ダンスパフォーマンス(EKDS)

17:00 イベント終了

図 1-6 タイムスケジュール

### ○ 地元の幼稚園、保育園に塗り絵の作成を依頼

- ・足立みどり幼稚園
- ・おおのみち保育園
- ・こどもの家中宗岡保育園
- ・ステラ志木宗岡保育園

## 結果（事業効果）

当日は、台風の接近に伴い悪天候となり、雨天の形で実施し、雨天では実施できない、消防などの催しについては、中止となった。

雨天にも関わらず、予想を上回る人数が来場し、大盛況であった。

悪天候によって、狭められた会場に多くの来場者があったことから、仮装の効果もあり、来場者同士のコミュニケーションやスタッフと来場者のコミュニケーションなど、想定を上回る効果があった。

◇ イベントの開催状況の写真。

・ステージ



図 1-7 志木市出身のお笑い芸人「ヤセ騎士」さんと中学生



図 1-8 ボランティアによる司会進行



図 1-9 宗四小の楽器演奏



図 1-10 宗四小の合唱演奏



図 1-11 チアリーディング

・プラスちゃんクラブ



図 1-12 プラスちゃん



図 1-13 ハロウィン衣装

・どりいむ・ぼっくす



図 1-14 どりいむ・ぼっくす



図 1-15 バルーンアート

・貸衣装、フォト



図 1-16 ステージ会場



- ・手作りランタン
- ・フェイスペインティング



図 1-18 ランタン会場



図 1-17 手作りランタン

シールやリボンでデコレーションすてきなハロウィンランタンの出来上がり♪



図 1-19 フェイスペインティング

- ・飲食ブース



図 1-20 宗中ボランティアと共同作業♪



図 1-21 飲食ブース

- ・くじ引き



図 1-22 ピエロとスパイダーマン♪

◇ 協力団体

- ・宗中学区 おやじ仲間クラブ



図 1-23 ブース



図 1-24 おやじ仲間クラブ

- ・安全運転管理者協会



図 1-25 ブース



図 1-26 安全運転管理者協会

## 事業予算

### 事業収支

収入：補助金	952,651円
雑収入	37,852円
合計	990,503円
支出：会場設置費	493,156円
会場運営費	447,099円
その他	50,248円
合計	990,503円

## 反省点、問題点、苦労した点

### 1) イベント開催までの道のり

#### 【きっかけ】

まちづくり会議では、住民同士のコミュニケーションの希薄化について話し合われ、防犯や防災に関する住民への意識付についても同時に議論された。

このことから、日常ではない、仮装をしたハロウィン祭りによって、様々なコミュニケーションのスタイルを構築することができるのでは、との意見からハロウィン祭りの開催に至った。

#### 【準備】

今回のイベントを実施するため、まちづくり会議のなかで、その進め方を議論した結果、各委員の得意分野を生かしながら、実施することが成功の鍵との意見から、委員を各分野に担当わけし、各委員が責任をもって、イベントを実施することが重要であるとの意見があった。

当日までの間、各委員は、担当ごとの準備と会場づくり全体の準備に追われ、数日間、夜遅くまでの作業となったが、全員で力を合わせて協力し合う姿は、まさしく強力なコミュニケーションの構築であった。

#### 【当日】

当日から翌日にかけて台風が接近したため、大荒れの天気となり、翌日には、災害対策本部が設置されるなど天候には恵まれなかった。また、翌日には衆議院議員選挙が控えており、混乱した開催日程となった。

悪天候の中での実施であるため、まちづくり会議のメンバー全員が集客の困難な状況になると考えていたが、予想以上に大勢の集客があった。

体育館は、ステージとアリーナの一部を利用した、演奏、合唱、ダンス、パフォーマンスなどがタイムスケジュールに沿って実施され、大変多くの観覧者が訪れた。

また、アリーナで実施された貸衣装、撮影ブース、パフォーマンス、カップー、

あらちゃん、プラスちゃんについても大変盛況であった。

さらには、2階ギャラリーで行われた、ランタン制作コーナー、フェイスペインティングについても、宗岡中学校のボランティアの協力を得ながら、多くの人に体験していただき、大変好評であった。

体育館の外では、おやじ仲間クラブによるフランクフルト販売、ポップコーン販売、わたあめ販売、チケット販売コーナー、くじ引き、安全運転管理者協会並びに朝霞警察署によるパトカーの展示と交通安全啓発物資の配布・自転車運転マナー向上活動などが実施され、多くの人が訪れ、大型のテントの下で行列を作って、大変好評であった。

## 2) 反省点・問題点・苦勞した点

- 反省点・・・北側入口からの入退場としていたが、正門・東門からの来場があった為、厳密な集客人数が把握出来なかった。
- 問題点・・・まちづくり委員が各ブースに分かれての来場者対応であった為、全体・他のブースの状況が分からなかった事。
- 苦勞した点・・・メイン会場が雨天時の体育館へ変更！からの作業が連日続いた事、学校施設(体育館・会議室等)を汚さない為、前日に床養生を全面に行った事。
- 総括として・・・多方面の数多くの皆様にご協力を頂き、今回のイベントが開催できました事を『感謝申し上げます、ありがとうございます』今後もこの様な上宗岡独自のイベントが開催され、一人ひとりの絆が深まる事をご祈念申し上げ総括とさせていただきます。

## 今後について

今回のハロウィン祭りを通じて、多くの集客が見込め、参加者同士のコミュニケーションが生まれることが分かった。

このことから、子どもを連れてお宅を訪問するような小規模なハロウィンイベントでも同様の効果が得られることが期待できるが、そもそも地域に関心を持たない層や関心をもっていない層が存在している。まずは、地域に関心を持っているが、行事に参加しない層を地域の行事に参加する仕組みをつくるとともに参加する本人の参加意欲、意思が重要であると考えます。

このようなことを踏まえ、将来的には、地域の行事に参加しない層が自ら行事を主導するような活気のある地域の構築を目指すため、今回構築されたコミュニケーションのネットワークを最大限に活用して、ハロウィン祭りの効果と地域住民のコミュニケーションの重要性を上宗岡地区の住民に広く伝えていきます。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

◎ 課題を解決に結びつける方法や手法

上宗岡地区は、新しい住宅が建ちはじめ、長く居住している人と上宗岡に引っ越してくる人との交流がないことや、住宅と工場が入り交じっている特徴があげられました。

また、工場で働く人たちは災害などが発生した際の避難所や経路などを知らないなど、住むにあたって知りえるべき情報共有がされていないことがわかりました。

これらは、地域との繋がりが希薄化しているために起こるものであると我々は考えます。

よって、課題解決のため、以下の通り4つの面から提案します。



図 1-27 会議の様子

(ア) ゴミ置き場の有効活用

ゴミ置き場は各地区各所にあり、特に大きな設置費用もかかりません。また誰もが利用する場所なので、多くの人が目にすることができます。

案A：ゴミ置き場に掲示板を設置

「挨拶しよう上宗岡」などの文言を掲げるだけで効果があると思われます。

朝、土手を散歩している人たちが自然と挨拶を交わすように、ゴミ置き場での挨拶運動が始まれば素敵です。

また、地域のイベント情報や不審者情報など情報共有の場としても活用することで、地域コミュニケーションの強化と防犯対策につながります。さらにハザードマップを掲示すれば防災意識も高まります。

案B：ゴミ置き場に花を植えよう

誰もが毎日のように使う場所で、散らかりやすい場所だからこそ、綺麗なものと雰囲気が変わり「こんなところにお花が！」というように、近隣同士での話題づくりにもなります。

また、管理が行き届いている表れにもなり、犯罪減少にも効果があると思われます。



図 1-28 宗岡中学校の花壇

(イ) 上宗岡ならではのイベントの開催

上宗岡ハロウィン祭りを開催して、天候が雨にも関わらず、多くの方に来場していただくことができました。

今後もイベントの大小を問わず、定期的を開催することが、地域のにぎわい創出に必要であると考えます。

#### 案A：ハロウィン祭りの開催継続

お祭りのターゲットを子供に絞ることで、その両親や祖父母の来場も見込む。地域の飲食店、スーパーに協力を依頼し、食材を低価格でご提供いただくとともに、お店の集客につなげます。

また、若年層にはボランティアで参加してもらうことで、イベントを通じて交流することで多くの人との輪が広がります。

春、夏とくらべてお祭りのイベントが少ない秋に開催することは「秋のお祭りといえば上宗岡！」という新たなイメージを浸透させることができます。



図 1-29 宗岡地区の各リーダー



図 1-30 香川市長とおばけ



図 1-31 宗岡中学校吹奏楽部の演奏

#### 案B：青空市場の開催

月に一度、上宗岡で野菜や果物、地元の特産物などを販売する市場を開催することで、地産地消、地域の活気づくりにつながります。

市役所で月に一回開催している「アグリシップ志木」が市内各地区を毎月循環するのも良いと考えます。

#### 案C：SNS を利用した情報発信

SNS を活用してイベント情報など、ポジティブな情報共有を盛んにすることで、自分の住むまちに関心を持つようになり、地域のつながりも深くなります。

(ウ) 254バイパス開通に向けて

2030年頃には上宗岡地域内に254バイパスが開通する予定であり、他の地域からの車の往来が増加すると思われます。

これを機に地域の発展と幹線道路近隣に住む住民ができることを考えます。



図 1-32 一般国道254号和光富士見バイパス平成29年11月末現在の進捗状況—埼玉県 HP

#### 案A：ファミリーレストランの誘致

上宗岡にはファミリーレストランがなく、家族で食事をする、仲間内でお茶をする場所が少ないのが現状です。

幹線道路が通ることによって近隣住民だけでなく、他の地域からの客足が望めるためファミリーレストランの誘致がしやすくなるのではと考えます。

#### 案B：環境美化活動の実施

幹線道路沿いは殺伐とした雰囲気になってしまいがちです。

そこで、環境美化活動として側道や歩道の清掃活動、花を植えるなど活動の有志をつのり、住民で行います。

道路周辺をキレイにすることによりドライバーに対して、ごみのポイ捨て防止「ノーポイ運動」促進につながります。

#### 案C：マラソン大会の開催

バイパスを利用したマラソン大会の実施を検討します。

宗岡地域開通記念として年に一回開催し、短距離・短時間でのコンパクトな大会で低コストに抑え、ジョギング感覚で国道の真ん中を走れるという、話題性のあるイベントとして盛り上げます。上宗岡だけでなく、志木市全体のPRにもなります。

(エ) 子供たちが安心して遊べるまちづくり

今住んでいる子供たちが大人になり、この町を出て行ったとしても、結婚して子供ができれば、また帰ってきたい、ここで子供を育てたいと思ってもらえるような町にします。

案A：こども110番の家増加

上宗岡各地区各所に、こども110番の家を設置します。

マンション、アパートなら各階に、地元企業なら全てに協力を仰ぎ、「日本一こども110番の家が多い町」を目指します。



案B：自然を残そう

宅地開発もいいですが、子供は自然のなかで遊ぶのが一番と考えます。

今ある緑や花を大切にしながら、花の種を配る

など、子供たちが自然に触れる機会を増やします。

図 1-33 荒川堤外、宗岡第二小学校ふれあい田んぼ

案C：地域が目

不審者情報を減らすには、地域の監視の目が必要です。

地域ぐるみで見守る体制を敷くことで、子供が自由に遊べる場所をつくることができます。

◆ 将来の地域のあるべき姿

地域の発展は大事なことです、あえて発展をさせずに古き良きものを後世に伝えるのもまた「まちづくり」と考えます。幸い宗岡地域には田んぼや畑があり、子供たちは学校で稲作の体験授業が受けられます。

ますます便利になる世の中であって、この地域は大人も子供も自然と向き合えるような、変わり過ぎない町であり続けることがこの地域の理想の町の姿であるといえます。

理想の町にするために、まずは何より、今住んでいる方が、自分の地域に愛着を持ち、より関心を持ってもらえるよう、小さなことから持続して活動することが大切であると考えます。



## (6) まとめ

- 志木市地区まちづくり会議の一員として、上宗岡地区だけではなく、他の地区委員さん、いままで面識の無かった市職員さん（特に若手の方々）と一緒に話し合い、議論、意識の共有を行い、有意義な時間を過ごす事が出来ました。
- 上宗岡地区では地域のコミュニケーションの不足が、話題に度々上がりました。踏み出す1歩、そして次に進む1歩を着々と重ねる。これが、大事なのでしょう。この第二期が、自分にとっても、地域にとっても、「通過点」であることを祈ります。
- 上宗岡地区まちづくり会議に参加し、市民の方と意見を交換する中で、市民の目から見た地区の特性を知ることができ、新たな発見と出会いをもらえた。市民の方と一緒に交流しながら協力して市をよりよくするために動くことは大事であると改めて感じた。
- ハロウィン祭りを開催できたことが印象深く心に残っています。何度も打ち合わせを重ね、台風が迫る中での開催でありながらも、多くの方に来ていただけてほっとしました。地域の方と協力して何かを成し遂げるといことは、なかなか出来ることではないこととおもいます。
- イベントについては、事前にいろいろ準備したにも関わらず天候不良により変更を余儀なくされた部分はありますが、委員の皆さんの努力と人脈で、多方面の協力も得られることができました。あの時の達成感とはまらないものでしたし、一度きりで終わらせてしまうのは本当にもったいない気がします。
- まち歩きで、気にしてまちを歩くと、通う場所や通る道は決まったものが多く、知らない道やお店など新しい発見がありました。会議では、メンバーの方々が様々な世代、立場から幅広い意見、考えを次々に出しており凄まじい熱気を感じました。上宗岡には、こんなに地元を愛している人がたくさんいるんだと感じました。
- 地区まちづくり会議に参加して、このまちで また新たな仲間と呼べる方々のご縁をいただきました。市民と市役所職員ではなく、『仲間』と思い活動できたことも嬉しかったです。
- ブレインストーミングを通じた課題の抽出については、結果だけが鮮明となり、抽出した過程については、置き去りにされているように感じた。このようなことから、“なぜそのような結果に至ったのか”という視点が合意形成の過程においては、重要であると考え、ブレインストーミングの結果を尊重しつつ、現状と課

題、解決策、具体的な手法、と3つにわけて、ひとつずつ、整理することとした。様々な意見を集約する上で必要となる合意形成の一つの手段として、ひとつずつ丁寧に整理することが参加者の理解を深める有効的な手法であった。このようなことが、参加者相互間の理解を深め、信頼関係が構築され、有意義な会議となった。

- 子供が生まれるのを機に上宗岡に越してきて17年余り、この土地に不便さを感じたことはあまりなく、逆に便利と感じたこともあまりありません。ただそんな程よい田舎感が住みやすさであり、いいところでもあるのかなあ〜。と再認識させられたようなこの2年間でした。そんな上宗岡が好きなんですけどね(笑)
- 日常では関わることのない市役所側の職員たちと事業の作り込みが出来たのは本当に良かったです。今後もし多団体での事業をするときがあれば、成功したことだけではなく、失敗し反省した経験も糧にして活動をしたいと思っております。
- 同じ上宗岡地区に住まれる委員の皆さんを始め、市役所担当職員の皆さんと終始良い関係で2年間過ごさせて頂き、感謝の言葉一言であります。今後の地域発展に布石を投げられたかどうかは分かりませんが、楽しく和気あいあいと語り合えた事は私自身の“宝”となった事は確かであります! 2年間ありがとうございました。
- まちづくり会議参加前と参加後で、外出時に今までよりは町内を気にしてよく見るようにはなりました。全てを踏まえ、このまちづくり会議に参加し、新たなことが見えてきたのが自身にとってプラスとなりました。
- 町づくり会議に参加し、町の活性化につながるか毎回話し合い、イベントを企画、運営、初めてのことでどのようにしたらよいかわからず大変でしたが、学ぶこともあり、自分には良い経験になりました。特にハロウィン祭りでは、思っていた以上に多くの方が参加してもらい一番の思い出になりました。
- ハロウィン祭りに向け、色々と準備して動き、当日は朝から雨が降る中、沢山の人が来て楽しんでいってくれ、本当にやってよかったと思えました。毎年続けていくと言うことは誰がやるだの問題は多々あるけれど、毎年出来たらまた地域の人達の楽しみも増えるのではないかな〜と思えました。
- 市民と職員が一緒になり、上宗岡が抱える課題について考えることができ、有意義な時間を共有できたと思えます。会議の中では紆余曲折ありましたが、まちづくり会議で実施したハロウィン祭りが上宗岡のつながりを広げる一助になり、より良いまちづくりの礎になれば幸いです。この2年間とても貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

○結婚を機に上宗岡に住むこととなりました。縁もゆかりも友人もなく、ただ寝に帰ってきてるだけでしたが、今回まちづくりに参加させて頂き、上宗岡の良いところがたくさん見えてきて偶然住んだまちですが、とても大好きな場所となりました。

## 2 中宗岡地区まちづくり会議

### (1) 中宗岡地区まちづくり会議委員構成

表 2-1 委員名簿

役 職	名 前	備 考
リーダー	久保 大地	市民委員
サブリーダー	高田 裕道	市民委員
サブリーダー	細谷 高史	職員委員
	内田 義明	市民委員
	小松崎 拓海	市民委員
	小松崎 正由	市民委員
	近藤 訓	市民委員
	齋藤 聡子	市民委員
	棚田 瑞恵	市民委員
	樋口 美智子	市民委員
	宮島 彰子	市民委員
	佐野 由美子	職員委員
	行川 一久	職員委員
	大村 一生	職員委員

### (2) 中宗岡地区まちづくり会議のプロフィールや特色

#### ア 委員の構成

- ① 世代は20代前半から70代にわたります。  
20代、30代、40代、50代、60代、70代それぞれに委員の年齢が分布します。
- ② 男性は9名、女性は5名です。
- ③ 当初15名だったが職員委員の都築康幸さんが県に出向したため委員退任しました。
- ④ 任期中の2017年に樋口美智子さんがお亡くなりになりました。  
2017年12月開催の中宗岡ウォークラリーは樋口さんの提案を元に計画しました。
- ⑤ 最終的に13名で活動をしました。

#### イ 活動拠点

主に宗岡公民館と市役所会議室で行ないました。懇親会は中宗岡の各飲食店です。

ウ その他特記事項

① 事業コンセプトや課題が定まる前、中宗岡地区まちづくり会議は町内会との連携を深める活動を行っていくことに決定しました。

※町内会にまちづくり会議の理解を十分にさせていただくため、まずは5町内の町内会長へのあいさつから開始しました。

5町内とは、中宗岡地区を活動範囲とする「ニューハイツ町内会」「上木町内会」「宗岡三区町内会」「宗岡四区町内会」「宗岡五区町内会」のことで

す。

② 町内会には中宗岡地区まちづくり会議の現況を活動報告として回覧配布をしました。

③ この活動により町内会からの協力が得られやすい環境を醸成できました。



図 2-1 町内会回覧用活動報告第1号

図 2-2 町内会回覧用活動報告第2号

(3) 中宗岡地区の課題について



図 2-3 町内会回覧用活動報告第 3 号

ア 現状分析に基づく対応策、課題抽出のプロセス

- ①ブレインストーミングを実施しました。
- ②その結果、中宗岡地区住民相互で顔見知りになるきっかけ作りの場を提供する事になりました。
- ③中宗岡まちあるきを開催！（フィールドワーク）

2016年11月13日（日）PM 1:00～PM4:00

中宗岡地区を委員全員で歩き、地域に存在する課題や見所を発見する試みです。



図 2-4 中宗岡まちあるき行程図

イ 会議で議論した現状、課題、問題点等

- ① 中宗岡地区の激しい人口増加による新旧住民の乖離があります。
- ② 世代間交流のできる場が少ない。
- ③ 住民相互のコミュニケーションできる場が少ない。
- ④ 新しく中宗岡地区に住む人にとって既存コミュニティに関わる方法がわかりづらい所がある。
- ⑤ 公園の有効利用ができていない。

表 2-2 全体研修会中宗岡地区演習結果

中宗岡地区まちづくり協議会												
地域	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区
地域	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区
地域	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区
地域	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区
地域	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区	中宗岡地区

ウ 事業にはならなかったが会議で議論を重ねた課題

① 道路照明灯管理番号の防犯利用

中宗岡地区は夜暗くなる場所が多く緊急時に自分の居場所がすぐ特定できるようにできないか。

② 道路照明灯管理番号のレクリエーション利用

新しく道路照明灯の管理番号を割り振った番号をレクリエーション利用できないか。

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

ア 事業コンセプトや手法

① 事業を実施する前に地域コミュニティや住民を巻き込んで地域活性化を図るプロジェクトプランナー「青木伸暁（あおき のぶあき）」さんに講義を依頼しました。

② 講義後の会議で事業を実施する前に事業の背骨となるコンセプトをしっかりと作りこむことにしました。

③ その結果、中宗岡地区まちづくり会議で行う事業を統括するコンセプトは「たすけ愛」に決まりました。このコンセプトを元に事業を実施しました。

④ 新しく中宗岡地区に住み始めた人も以前から住んでいる人もお互いが出会わなければ地域力が育つことはありません。「たすけ愛」とはその出会いを創出することで中宗岡地区の住民同士の交流が進み「市民力（地域力）」向上を図るものです。

⑤ いろいろな意味をもつ「たすける」といろいろな意味を持つ「あい」を愛でつなげます。

# たすけ ♥ あい

助ける (救助する)	会い (人が集まる)
援ける (負担を軽くする)	逢い (1対1で会う)
佐ける (不十分な所を補う)	遇い (偶然あう)
扶ける (助け養う)	合い (共助、共生)

「たすけ」る と 「あい」を「愛」でつなげる。

両者の相乗効果で住民同士がさまざまな場面で「たすけあえる」ようなきっかけ作り（会う場を作る）

つなぐ役割をする愛を ♥ で表現。

○ 事業1：せせらぎ☆七夕まつり

図 2-5 中宗岡地区コンセプト

ア 事業コンセプトである「たすけ愛」を実現するための手法

① イベント場所を一箇所集中型に設定しました。

一箇所にイベント内容を集中させ、地域の方々に集まりやすくしました。  
(参加者同士が助け合える関係作りを重視)

② なぜ、蛍なのか。七夕飾りを実施したのか。

50代より上の世代は昔、中宗岡地区で蛍を見たことがある方が多く  
40代までの人は、中宗岡地区で蛍を見たことがある人が少ない。

→蛍を介して若い世代と高齢者世代の交流を図ることを目的としました。  
七夕飾りは市の事業で七夕まつりがなく、蛍の成虫時期に合わせて実施しました。

③ 宗岡地区完結型イベントの実施  
<場所>

せせらぎの小径の新しい活用法の  
提案今までメインイベント会場と  
して使用されることのなかった場  
所(新しい利用価値の発見)の有効  
利用を提案する趣旨です。



図 2-6 竹とんぼづくり

<物>

蛍を展示するテントに使う遮光カーテン

→宗岡中学校PTAさんより無償貸与いただきました。

蛍を展示する水庭に使う大型バケツ

→宗岡第二中学校さんより無償貸与いただきました。

蛍の止り木&七夕飾りで使用する笹と竹

→宗岡四区町内会長の小日向さんより無償譲渡いただきました。

その他で不足した資材(テント等)、消耗品を地区外から調達しました。



④ イベントスタッフは主に中宗岡地区で活動する地域団体さんに依頼  
しました。

今回は「まちづくり」であり「まちおこし」ではないということで企画  
設定しました。

「まちおこし」であれば企画に磨きをかけてスタッフを市外から招待して  
イベントをすれば目的は果たすこと  
ができます。

しかし、「まちづくり」の視点で事  
業を実施しようとするイベント  
スタッフも地域で活動する人に協  
力を依頼する必要があります。その  
スタッフとまちづくり委員で協働  
して事業を実施し新旧住民、地域  
間、世代間交流を図りました。  
(たすけ愛の趣旨に沿う)



図 2-7 こままわし



<ご協力いただいた団体>

資材、材料提供

宗岡四区町内会会長、宗岡中学校PTA、宗岡第二中学校

イベントスタッフ

宿組若連、宗中学区おやじ仲間クラブ、志木市消防団有志、チームシエスタ

昔あそびスタッフ

あそびの市場、NPO エコスタイル スタッフ総勢 52名、富士下でホテルを見る会

この中には上宗岡地区まちづくり会議委員、まちの担い手育成塾在籍など、地区や制度を越えて助け合いのできたイベントとなりました。



図 2-8 宗中学区おやじ仲間クラブ



図 2-9 イベントスタッフその1



図 2-10 イベントスタッフその2

⑤ 世代間で「たすけ愛」交流を促進するため前夜祭を開催

社会福祉法人ルストホフご利用者と北美保育園園児とのコラボ企画を開催しました。

せせらぎ☆七夕まつりが開催される2日目の6月15日午前中に開催しました。

会場はルストホフ2Fホールを提供いただきました。

七夕かざりを孫世代と祖父母世代で共同制作しました。

孫世代 →北美保育園園児

祖父母世代 →社会福祉法人ルストホフ（ブロン事業）御利用者

「願い事」や「輪つなぎ」などを共同で制作 →笹に共同で飾りつけ



図 2-11 セタかざりの制作

⑥ 広報

a. チラシ・ポスターの制作

A4 6000枚制作

町内会回覧配布 (5町内)

宗岡地区内小中学校全児童生徒配布

中宗岡地区保育園幼稚園全児童配布

A3 100枚制作 (ポスター掲示)

b. ホームページ・SNS

「中宗岡地区まちづくり会議」HP

<https://www.shiki-nakamuneoka.com/>



図 2-12 せせらぎ☆セタまつり

## イ セせらぎ☆七夕まつりの内容

### ① 日時

2017年6月17日（土）PM4:00～PM9:00

### ② 場所

せせらぎの小径最南端 志木市中宗岡5-8

### ③ 会場配置

右図のような会場配置を計画しました。  
特に人が行き交う動線を注視しました。  
プロの警備員は道路と接する北側と南側に  
1名ずつ配置しました。  
道路使用許可と占有許可を取得しました。

### ④ 蛍鑑賞会（PM7:00～PM8:45）

今回はゲンジボタルを200匹購入しました。



図 2-13 会場配置図

### 体験型展示方法の採用

→テント2張の中に蛍を放ったことで来場者の目の前を蛍が飛び交う演出です。

→テントの中に止まり木として竹林を立て蛍生息の雰囲気を出す演出をしました。

→蛍に直接触れることができる環境を創出したことで満足度を高めました。

来場者を分散するため蛍ジオラマを設置しました。

最大待ち時間50分。予想以上の待ち時間が発生しましたが予定通り終了できました。

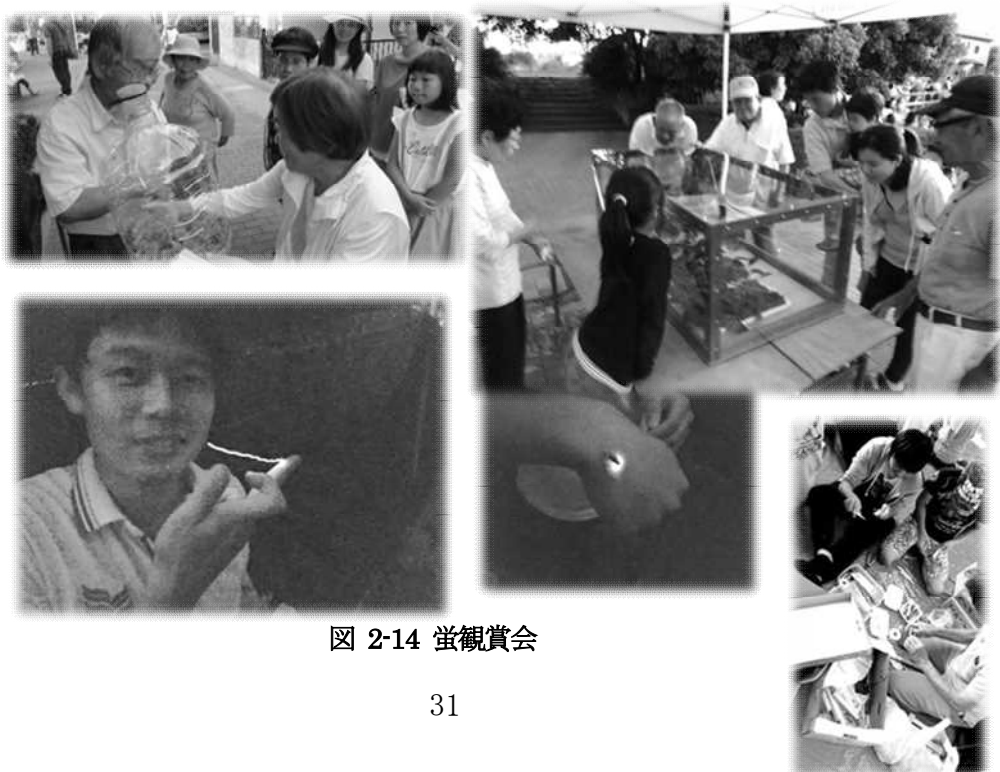


図 2-14 蛍観賞会

⑤ 昔あそび (PM4:00~PM6:30)

竹とんぼ作り&コマ回しを実施しました。

→児童中心に家族と地域の方々同士でふれ合える場の提供を趣旨としました。

夜暗くなる PM6:30 には会場を撤収しました。



図 2-15 七夕かざり展示

⑥ 七夕かざり展示 (PM4:00~PM9:00)

前夜祭で共同制作した七夕かざりをせせらぎ☆七夕まつりで展示しました。

→世代を越えたつながりを示すことができました。

この七夕かざりは  
**社会福祉法人ルストホフ様**  
 と  
**北美保育園様**  
 の共同制作です  
 2日前の6月15日に会場で制作しました

中津地区まつくり会館では、市民の皆さま、人と人をつなぐ活動を積極的に行っています。  
 その活動の一環として、貴会館とのつながりを通して、一緒に制作することで楽しい思い出を作ることができたのではないかと考えました。  
 「ふすまつくり」と「北美保育園」にご依頼させていただいたところ、ご依頼いただきました。  
 世代・年代を超え、一緒に作業をする中でたくさんの方の笑顔が溢れ、とても素敵な思い出となりました。  
 ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。  
 ありがとうございます。  
 中津地区まつくり会館 一岡

⑦ 七夕かざり制作 (PM4:00~PM9:00)

終始、来場者が世代を越えて七夕かざりを楽しんでいただきました。

ウ 結果

せせらぎ☆七夕まつりは1500人以上ご来場いただきました。

会場から退場いただくときに満足度調査を実施しました。

<満足度調査>

有効回答数 348 人

イベントの退場者に感想を5段階でアンケート集計しました。

→満足度 92.2%

→たいへんよくできました+よくできました

97.9%の方が前向きな評価がありました。

表 2-3 来場者アンケート集計表

評価	回答数	構成比
たいへんよくできました	321	92.2%
よくできました	20	5.7%
ふつう	5	1.4%
がんばりましょう	2	0.6%
残念でした	0	0.0%
合計	348	100.0%



エ 反省点、苦勞した点、問題点、今後について

① 竹とんぼ

・予想以上の来場者で早く材料切れ



図 2-16 蛍鑑賞会

② 蛍鑑賞会

- ・開始時間の明示（チラシ、看板等にて）
- ・テント外の蛍鑑賞エリアである虫かごエリアの拡大の必要性
- ・明るい時間の蛍展示スペースの確保
- ・イベント後、ホタルはペットボトルに小分けして保育園、高齢者施設に配りました

③ 会場

- ・水道の確保、コンビニ・ドラッグストアの案内板の固定必要性（風の影響が強かった）
- ・関係者車両、自転車の駐車、駐輪スペース不足、簡易トイレの設置必要性
- ・横断幕を張る土台の是非（賛否両論あり）
- ・近隣の田んぼに入り込んでしまう方がいたので、すずらんテープ等で立ち入らせないようにする工夫の必要性
- ・行列の誘導や緩和、歩行者と自転車との行き交いの配慮の必要性
- ・行列の緩和に蛍の生態を展示したジオラマも有効利用
- ・イベント翌日、会場を再度、掃除したこと。大変でしたが近隣住民に好印象

○ 事業2：中宗岡ウォークラリー

ア 事業コンセプトである「たすけ愛」を実現するための手法

① イベント場所を一箇所に集中させず中宗岡地区全体に設定（会場外展開型）

今までお互いを知らない人が顔見知りとなり、たすけ愛のできる環境を作るきっかけ作りを趣旨としました。

ウォークラリー参加者には宗岡小学校正門前の信号待ち時に機械的に整列いただくことで見知らぬ人同士と一緒にウォークラリーコースを歩いて回れるように配慮しました。

また、会場の外にイベントを設定することによりイベントスタッフ間の交流、イベントスタッフと参加者間の交流、参加者同士の交流を活発にさせるよう促しました。

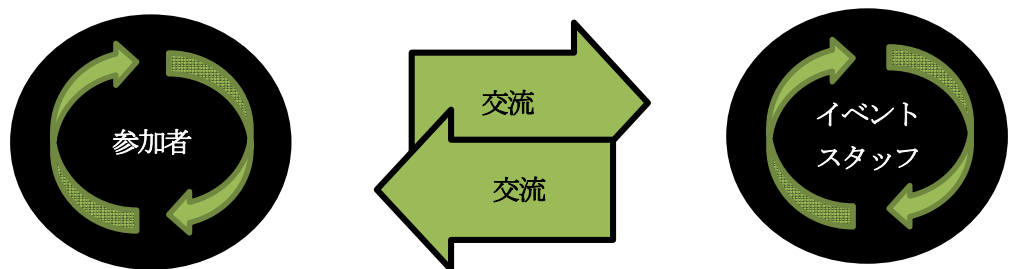


図 2-17 参加者間の交流イメージ図

- ② 中宗岡地区の歴史と文化芸能を地区住民に深く知ってもらう試み  
 ほかの宗岡地区でも歴史的には中宗岡地区は新しくできた村としてスタートしました。そのため上宗岡地区や下宗岡地区とは異なる歴史を歩みました。  
 その歴史という視点から中宗岡地区をもっと知っていただくという趣旨から中宗岡という点をフォーカスして「中宗岡のあゆみ」展示パネルや宿組狐童連披露、宿組囃子連保存会、中組囃子連の披露を展示しました。
- ③ 中宗岡地区完結型イベントの実施  
 前回のせせらぎ☆七夕まつりよりも参加依頼をする団体をさらに拡大しました。  
 中宗岡地区の力を結集して、地区住民全体でまちづくりを実現できるように企画設定しました。

<イベントスタッフ>

- ・ 備品提供 ニューハイツ町内会
- ・ 会場スタッフ (宗岡小学校、宗岡第四小学校、ドラッグストア・セキ、かすみ児童公園)  
 上木町内会、宗岡三区町内会、宗岡四区町内会、中組若連、宗小おやじの会、志木市役所職員ご有志、志木市議会議員ご有志、チームシエスタ
- ・ ウォークラリーコース警備スタッフ (給水地点込)  
 宿組若連、宗中学区おやじ仲間クラブ、高齢者あんしん相談センターあきがせ、志木市役所職員ご有志、志木市議会議員ご有志、志木市役所水道施設課、上宗岡地区まちづくり会議委員、下宗岡地区まちづくり会議委員、チームシエスタ
- ・ 昔あそびスタッフ あそびの市場、NPO 法人エコスタイル

<文化芸能披露団体>

宿組狐童連、宗岡小学校トランペット鼓隊、宿組囃子連保存会、中組囃子連

<会場提供協力学校>

宗岡小学校、宗岡第四小学校 イベントスタッフ総勢 146名

④ 広報

a. チラシ・ポスターの制作

→A 4 10,000枚制作

町内会全戸配布(5町内) 宗岡地区内小中学校全児童配布

上宗岡地区+中宗岡地区保育園幼稚園+本町地区1幼稚園児童配布

→A 3 100枚制作(ポスター掲示)

b. ホームページ・SNS

「中宗岡地区まちづくり会議」HP

<https://www.shiki-nakamuneoka.com/>

⑤ イベント後の懇親会実施

イベントスタッフとして参加いただいた方と中宗岡地区まちづくり委員で、イベントの打ち上げ&懇親会をソラシド・キッチンにて実施しました。参加者47名。

イベント後もスタッフ間で懇親を深めることで、その後もお互いが顔見知りになり、次のまちづくりも世代を越えて行う環境を醸成する趣旨です。

# 中宗岡ウォークラリー

2017年 12/16(土) 13:00~16:00  
会場：宗岡小学校 参加費：無料

中宗岡の魅力を発見

同時開催  
狐 童  
お囃子  
吹奏楽  
コマ回し  
竹とんぼ  
歴史展示

カバルの魅力を  
活かす  
活くも  
来るか!

私たち、中宗岡地区まちづくり会議は、皆さんの願いを実現するための組織です。「新旧住民のつながりを強めたい」「世代を超えた交流の場が欲しい」そんなご要望を叶やすべく、今回ウォークラリーを開催いたします。また、宗岡小学校体育館にて、中宗岡の伝統や文化、歴史にふれる種しや蕎あそびを通じて世代を超えた交流ができる屋内プログラムも同時に開催します。カバルも登場しますよ!

ウォークラリー

参加者全員にカバルのオリジナルシールをプレゼント!

事前申し込みは不要です。都度希望の方は当日12:00~13:30の間に宗岡小学校校舎の受付にお越しください。宗岡小学校をスタート＆ゴール地点として、歩いて1時間程度で中宗岡を1周するコースです。グループごとにクイズやキーワードを考えたり、カバルのオリジナルスタンプを集めたり、楽しみながら歩いていただければ嬉しいです! ゴールするとカバルのオリジナルシールが12ポーズ集まります。ぜひ、ゴールまでがんばってください!

クイズ  
中宗岡に関する知識がグループの戦いで力を発揮できればお楽しみ!

キーワード  
いくつもの言葉を組み合わせるとおもしろいキーワードが浮かび上がってきます!

スタンプ  
4ヶ所のチェックポイントで、カバルのオリジナルスタンプを集めよう!

体育館プログラム

同時開催  
竹とんぼ作り  
コマ回し

宗岡地区まちづくり会議  
宗岡小学校

図 2-18 中宗岡ウォークラリーチラシ表

# 中宗岡ウォークラリーMAP

宗岡第四小学校  
2周目のクイズは、大人にはちょっとむずかしい!?

第2チェックポイント  
いろは橋下の広場  
クイズの答えはほのぼのな気持ちもOK! コールに……

第3チェックポイント  
いろは親水公園  
クイズの答えはほのぼのな気持ちもOK! コールに……

第4チェックポイント  
かすみ児童公園  
ゴールまであと少し! カバルのスタンプがもらえるよ!

スタート＆ゴール  
宗岡小学校  
ウォークラリーの受付、ゴール後の集まり場所、スタート&ゴールは、休校日と天候により変更の可能性があります。

第1チェックポイント  
ドラッグストア・セキ  
カバルのオリジナルスタンプをゲットしよう!

イベント詳細

日程：2017年12月16日(土)  
時間：12:45~16:00  
会場：宗岡小学校  
費用：無料  
申込：事前申込不要・当日受付  
★ウォークラリーの受付は12:00~13:30  
交通：志木駅東口よりバスで約10分「宗岡小学校」  
★駐車場は使えません  
徒歩または自転車でお越しください  
(駐輪場あります)

進行スケジュール

12:00 ウォークラリー受付開始  
12:45 開会式・出発準備  
13:00 ウォーキングスタート  
13:20 ランベットの集まり  
13:30 実行終了  
13:50 朝顔獅子舞  
14:00 朝顔集まりスタート  
14:30 朝顔獅子舞  
15:10 朝顔集まり  
15:20 朝顔獅子舞  
15:50 閉会式 16:00 解散

カバルのオリジナルシールをプレゼント!

「まちづくり会議」とは  
宗岡地区まちづくり会議がまちづくりを推進するための事業として平成26年に発足しました。今回のイベントは、第2期のメンバーで企画・運営いたします。人と人をつなぐ役割をめざし「たすけあ」というテーマで活動してまいります。ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。  
中宗岡地区まちづくり会議ホームページ  
shiki@nakamuneka.com  
shiki@nakamuneka.com

図 2-19 中宗岡ウォークラリーチラシ裏



イ 中宗岡ウォークラリーの内容

① 日時

2017年12月16日(土)

PM1:00~PM4:00

② 場所

ウォークラリースタート&ゴール

→宗岡小学校 校庭

文化芸能展示会場

→宗岡小学校 体育館

③ 宗岡小学校 会場配置図

宗岡小学校はスタート&ゴール

会場警備はボランティアスタッフ

に依頼しました。

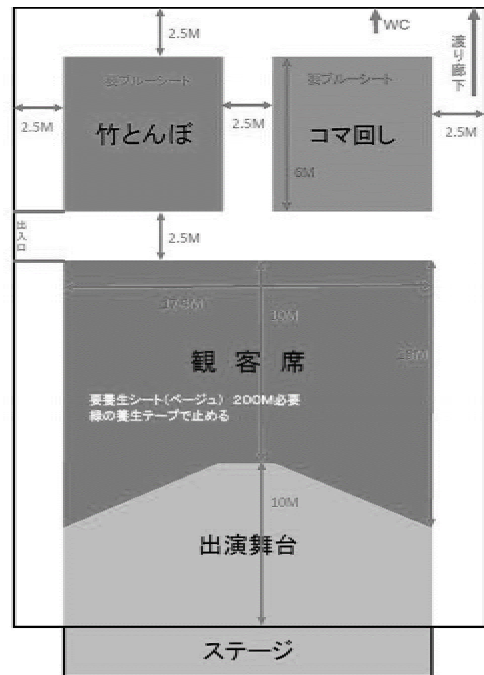


図 2-20 宗岡小学校体育館会場図



図 2-21 宗岡小学校校庭会場

④ ウォークラリー会場図

中宗岡地区全体が会場

コースはウォークラリー経路図をご参照ください。

<ウォークラリーコース>

- 宗岡小学校
- ↓
- せせらぎの小径
- ↓
- ドラッグストア・セキ
- ↓
- 郷土排水機場
- ↓
- 富士下橋
- ↓
- いろは親水公園  
(給水ポイント)
- ↓
- 宗岡第四小学校
- ↓
- かすみ児童公園
- ↓
- 宗岡小学校

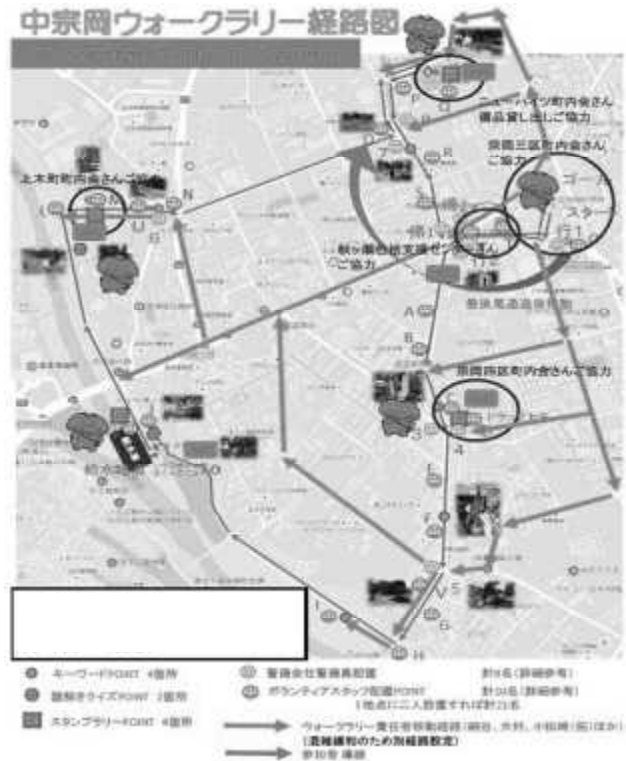


図 2-22 ボランティア・警備員スタッフ配置表  
危険箇所には警備会社警備員 計 8 名  
会場外ボランティアスタッフ 計 56 名

⑤ スタンプラリーポイント

中宗岡を歩くことを楽しんでいただくために、幼児でも高齢者世代でも楽しめるように計4箇所のスタンプラリーポイントを設置しました。

図  
2-  
2  
スタ  
タ



スタンプラリーポイント

⑥ キーワードポイント

キーワードを考えながら楽しんで歩けるようにキーワードポイントを設置しました。



図 2-24 スタンプラリーキーワードポイント

⑦ なぞときポイント

キーワードのほかに謎解きをしながら歩くことで、わからないところを参加者同士で話し合いながら親交を深められるように配慮しました。



図 2-25 なぞときポイントその1



図 2-26 なぞときポイントその2

⑧ ウォークラリーMAP

ウォークラリー参加者向けにウォークラリーMAPを当まちづくり委員とご家族で制作しました。

裏面にはキーワードを当てはめるクロスワードと謎解きクイズの記載があります。キーワードも謎解きクイズも当まちづくり委員で



考えました。

図 2-27 ウォークラリーMAP

⑨ 給水地点

いろは橋下の広場では志木市が誇る最新鋭の災害対策用加圧式給水車で2,000リットルの給水を行ないました。



図 2-28 給水地点その1



図 2-29 給水地点その2

⑩ 志木市の公式キャラクター「カパル」を活かしたイベント作り

カパルにイベント出演を依頼したほか、ウォークラリー参加者には4枚合わせる宗岡の地図が完成するカパルシールをプレゼントしました。カパルシールは当まちづくり委員が制作し、公社で印刷していただきました。



図 2-30 カパル登場



図 2-31 カパルシール

⑪ 宿組狐童連の演舞展示

天明の大飢饉（1783年）で大被害に翻弄された当時の宗岡村住民の葛藤とその打開をテーマにした演目です。これを校庭と体育館で異例の同日2開催しました。

200年以上前に起きた飢饉が現在にも色濃く影響を与えていることを展示しました。



図 2-32 宿組狐童連の演舞

⑫ 宿組囃子連、中組囃子連のお囃子展示

農村として長い間生活してきた宗岡村住民の心を癒し、抛りどころとなってきました。長い間、生活と一体になってきた中宗岡村のお囃子を展示しました。



図 2-33 宿組囃子連、中組囃子連のお囃子

⑬ トランペット鼓隊披露 (右写真)

現代芸能の合奏演奏、宗岡小学校トランペット鼓隊に宗岡第二中学校吹奏楽部有志、地域のご有志。現代の中宗岡地区で勢いのある団体の演奏を展示しました。



図 2-34 トランペット鼓隊披露

⑭ 企業協賛 (左イメージ)

この中宗岡ウォークラリーではドラッグストア・セキさん、岩塚製菓さんに多大なるご協力をいただきました。



図 2-35 来場者プレゼント

⑮ 中宗岡地区の歴史に特化した「中宗岡のあゆみ」パネル展示  
 他の宗岡地区と異なり独自の歴史を歩んだ中宗岡地区の歴史をわかりやすいパネルにして展示。当まちづくり委員が制作・監修しました。

The panel '中宗岡のあゆみ' is a comprehensive historical overview. It starts with the Edo period (江戸時代初期まで), detailing the region's early settlement and administrative status. The middle section (江戸時代初期～中期) discusses the region's role in the Edo shogunate and the impact of the Meiji Restoration. The '明治時代～昭和初期' section covers the period of village mergers and the establishment of Nakamunakami as a village. The final section, '昭和20年以降', details the post-war period, including the merger into '志木市' (Shiki City) in 1955 and subsequent administrative changes.

図 2-36 「中宗岡のあゆみ」

## ウ 結果

- ① 中宗岡ウォークラリーはウォークラリー参加 171 人。体育館で行なわれた文化芸能展示には延べ 200 人を超える方の御来場をいただきました。スタッフも合わせると 500 人以上が参加したイベントになりました。
- ② 個別的に後日聞き取り形式でアンケートを実施しました。

### <参加者のおもな意見>

- ・歩数や競争ではなく楽しみながら中宗岡を歩くということが斬新だった。
- ・今度は周りの人たちにも声掛けして参加したい。
- ・横にいた知らない高齢者の方と回ったが話をずっとしながら歩いて楽しかった。
- ・寒い時期なので、参加しようかどうか迷ったが参加してよかった。
- ・中宗岡に狐童や囃子があることをはじめて知った。知れてよかった。
- ・中宗岡にはこんな歴史をたどって来たことに驚くことばかりです。
- ・トランペット鼓隊の評判は前から知っていたので演奏を聴けて嬉しかったです。中宗岡にはこんな歴史をたどって来たことに驚くことばかりです。
- ・こどもが竹トンボからはなれずずっと楽しんでみたいでよかった。
- ・コマ回しもいろいろな人でやると楽しい。

### <不参加者のおもな意見>

- ・開催が土曜日というのは子供たちに習い事があって参加しづらい。
- ・インフルエンザ流行期のイベント開催は参加しづらい、させづらい。
- ・開催時間が 13:00 からというのは昼に近いことから参加できるか微妙な時間。
- ・給水車見かけたので来たが途中参加になってしまうので不参加になりました。

## エ 反省点、苦勞した点、問題点

交流をテーマにするといろいろな人とふれあうことが多くなります。

そこから考えれば、イベントの日程を風邪等が流行する時期より前に設定してもよかったとも思いました。開催曜日にしてもお昼開催であれば土曜日よりも日曜日に開催すればもっと多くの来場者があったかもしれないと後になって思い至りました。

他に苦勞した点として下記があげられます。

- ・参加人数の設定や参加形式を選択
- ・イベントのカパルシール作成
- ・中宗岡ウォークラリーMAPデザイン作成

- ・体育館会場の電源確保（発電機の要否の検討を含む）
- ・スタッフ、協力者の暖の取り方

この中宗岡ウォークラリーでは中宗岡地区で活躍している多くの地域団体に快くご協力いただきました。結果的には私たちが地域の方々に助けられることとなりました。

「まちづくり」についての一つの姿を示すことができたと自負しています。

最終的には委員同士と中宗岡地区住民の方々が顔見知りになり協力し合えるイベントを実施できて大変満足しています。

## ○ 事業決算

表 2-4 事業決算表

収入の部

科目	決算額	説明
補助金	10,000,000	志木市夢のあるまちづくり事業補助金
利息	1	
合計	10,000,001	

支出の部(せせらぎ☆七夕まつり)

科目	決算額	説明
報償費	51,080	協力団体(6団体)
消耗品費	68,040	蜚
	56,854	イベント用消耗品
食糧費	34,529	お弁当、お茶
印刷費	9,140	イベントチラシ
	2,400	イベントポスター
	7,500	コピー代
通信運搬費	11,340	年間ホームページ管理料
保険料	18,340	イベント参加者、スタッフ保険料
委託料	38,880	イベント警備
	4,860	一般廃棄物収集運搬処分費等
使用料	2,240	会議室使用料等
合計	305,203	

支出の部(中宗岡ウォークラリー)

科目	決算額	説明
報償費	128,000	協力団体(8団体)
	10,000	ヤセ騎士さん
消耗品費	280,629	イベント用消耗品
食糧費	66,664	お弁当、お茶
印刷費	18,240	イベントチラシ
	2,580	イベントポスター
	7,110	中宗岡ウォークラリーマップ
	12,650	中宗岡のあゆみ展示パネル
保険料	21,000	イベント参加者、スタッフ保険料
委託料	129,600	イベント警備
	5,400	一般廃棄物収集運搬処分費等
使用料	5,620	会議室使用料等
合計	687,493	



(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

ア 提言1『中宗岡地区まちづくり連絡協議会』創設を提言します。

地域団体活動を活発化～活気ある地域を作るために～

① 中宗岡地区で活動する地域団体の世代構成

町内会役員さんは60代の方が中心 おやじの会さんは30代～50代で構成されています。各若連さんは10代～40代で構成、囃子連さんは小学生～60代より上の世代、狐童連さんは20代中心に構成されています。地域団体の活動が活発になれば中宗岡地区の全世代の方に働きかけることになり、活気ある助け合いのできる地域を作れます。

② 中宗岡地区で活動する地域団体の強みと弱み

今回の事業実施でわかった中宗岡地区の強みは熱意を持って先方と接すれば、その熱意に真摯に応えてくれる土壌が中宗岡地区にあるということです。

ただ、熱意だけでは地域団体の活動を継続することはできません。地域団体の弱みとしては活動拠点と活動資金、信用力、人手の不足です。これを補うものとして『中宗岡地区まちづくり連絡協議会』を提言します。

③ 『中宗岡地区まちづくり連絡協議会』メンバー構成

中宗岡地区で活動する団体のメンバーと中宗岡地区住民、市職員で構成します。

④ 概要

市役所または地域団体がイベント等を実施するため実行委員会設置を依頼します。その依頼を受け連絡協議会でその妥当性、不足資源を協議します。妥当と判断された場合、その不足資源を市役所に補助を申請し、協力を依頼します。

その後、実行委員会を設置し、連絡協議会が所有する地域団体情報を開示します。市役所側からはこの不足資源を供給いただきます。

そして、参加していただいた団体には実行委員会が報償金を支払います。この制度で資金を得ながら、これを活動資金の一部として地域団体が活動を行い、笑顔あふれるお互い助け合える活発な地域を作ることができると考えます。

⑤ メリット

市民と職員協働の事業実施には他の仕事、本業を抱えている市民、職員にとって、かなりの負担になります。特にスタッフ確保については大変な作業になります。

この負担を軽減し安定的かつ円滑な事業実施を図ることができます。

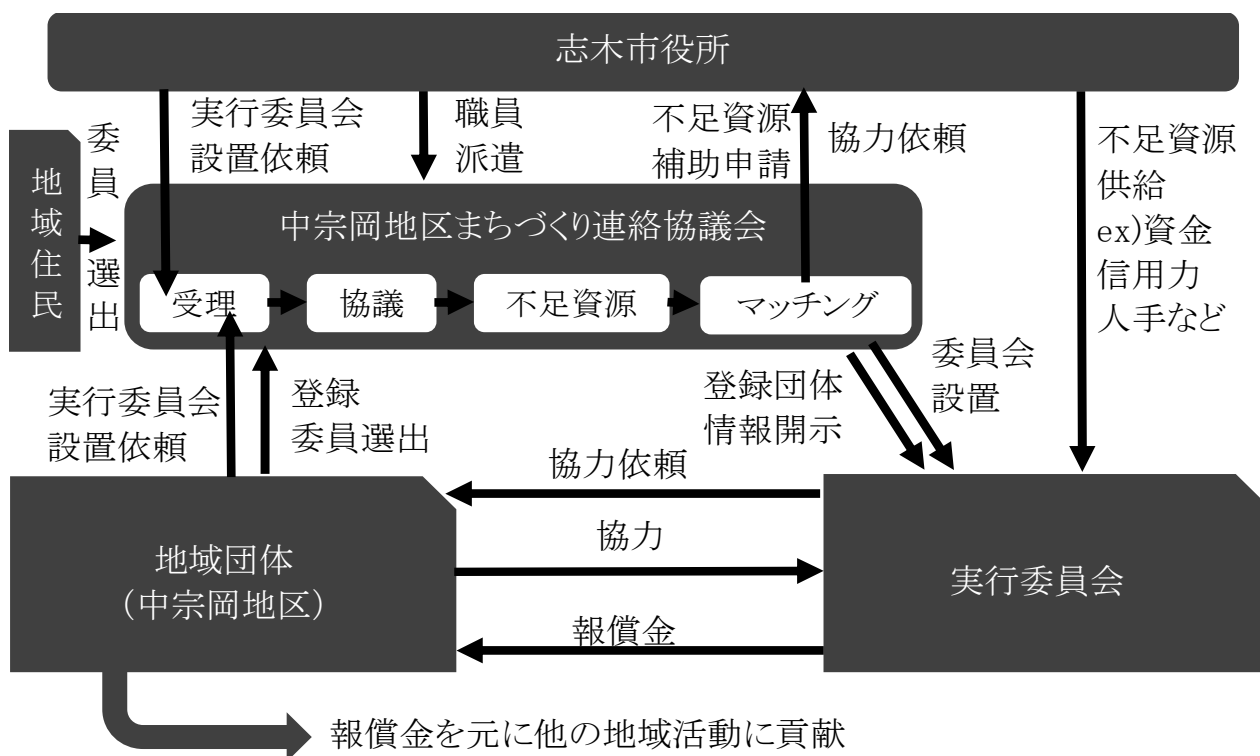


図 2-37 中宗岡地区まちづくり連絡協議会イメージ図

⑥ 市民と職員の協働の視点

まちづくりの視点から実行委員会は市民と職員で構成することが必要です。

主に市民で構成する連絡協議会に市職員をメンバーに受け入れることで、市民活動と市役所の行政サービスの協働を図ることができ、柔軟な対応ができると考えます。

⑦ 実行委員会設置～委員会方式の採用で継続性を確保～

a. まちづくり会議の最大の課題

第2期のまちづくり会議が発足して、中宗岡地区まちづくり会議でまず当たった壁は第1期との継続性、関係性をどのように考えるかでした。

事務局サイドは無関係とのスタンスでしたが継続性を意識せざるを得ません。

おそらく似た事業を今後行なうときも新しく参加する方も同じ問題に直面します。内容のある議論を行なう為にこの課題をクリアにする必要があります。

b. 継続性の確保

中宗岡地区まちづくり会議では、上記の課題をクリアするためまちづくり会議で結果の出たもの、継続して行なう必要や価値のある事業については別に実行委員会を設置することが解決できると考えます。委員会

方式を採用することで継続性を確保する必要があると考えます。

c. 具体例1：蛍鑑賞会実行委員会創設～観光資源と市民活動という両面から～

- (1) 中宗岡地区まちづくり会議では蛍鑑賞会について実行委員会を創設して毎年継続して開催できるようにすることを提言します。

地域団体から実行委員会の設置が要請されれば『中宗岡まちづくり連絡協議会』の申請、依頼に基づき市が必要な援助をすることを提言します。

- (2) 格段に良いコストパフォーマンス

予算30万円程度で宗岡地区だけで1,500人超の来場が見込めます。

- (3) 市民と職員協働の視点

蛍鑑賞という志木市の新しい観光資源だけに焦点を当てるのではなく、市民活動の視点が必要です。

- (4) 注意事項

環境保護の視点から展示に使った蛍の子供が次の年に展示されているという蛍の「命のサイクル」という視点が長く続ける上で必須です。

d. 具定例2：ウォークラリー実行委員会創設～健康福祉と市民活動という両面から～

- (1) 中宗岡地区まちづくり会議ではウォークラリーについて実行委員会を創設して毎年、継続して開催できるようにすることを提言します。

- (2) コストパフォーマンスと地域団体の結集

会場を大きく広げることから多くのスタッフ配置が必要となり費用がかさみます。しかし、『中宗岡まちづくり会議連絡協議会』のシステムに乗せることにより費用を抑えることができます。地域団体から実行委員会の設置が要請されれば『中宗岡まちづくり連絡協議会』の申請、依頼に基づき市が必要な援助をすることを提言します。

- (3) 市民と職員協働の視点

健康福祉の点だけに焦点を当てるのではなく、市民活動の視点でイベントスタッフを全て志木市内の地域団体メンバーと市役所職員で構成する協働のスタンスを前面に押し出すことが必要です。

イ 提言2：公共性を帯びた地域活動を行なう団体へ市が積極的にサポートすることを提言します。～活気ある地域を作るために～

① 地域団体の中には市の機能の一部を担っている公共性を帯びた団体があります。その団体については市からのサポートが特に必要であると考えます。その団体の活動は継続的かつ反復的に行なわれ地区住民にとって不可欠なものとなっているからです。その公共性を帯びた団体に市が資金や活動拠点、人的なサポートをできるシステムを構築することを提言します。

② 「公共性を帯びた地域団体」の条件

- (ア) 国、県または市からの委嘱を受けている
  - (イ) 活動が継続的である
  - (ウ) 反復的に活動している
  - (エ) 地区住民にサービスを提供している
- という条件が必要と考えます。

③ サポートの内容

- ・事業実施の市職員の協力
- ・活動内容、活動実績を市にフィードバックするシステムの構築
- ・事務局となる活動拠点の提供（事務所の設置）
- ・事業で必要な経費支給
- ・事業の活動人員の資金として、人員一人当たり最低賃金同等の報償金の提供

④ 地域団体と市の協働

活動内容の決定は地域団体に一任。資金や活動拠点、人手、信用力など活動について「地域団体と市の協働」に基づく市の積極的なサポートが必要であると考えます。

具体例1：子供達の放課後活動支援事業「放課後志木っ子タイム」の受託地域団体

ウ 提言3：道路照明灯管理番号の防犯・防災利用

中宗岡地区まちづくり会議ではLED設置に伴い新しく番号を割り振られた道路照明灯管理番号を防犯・防災利用することを提言します。

① 現在の中宗岡地区の課題

中宗岡地区は浄水場のように重要な施設がある一方、田畑も多く目印になる建物が少ないのが現状です。この現状で緊急通報時に警察や消防に自分の位置を詳細に伝えるのが難しいことが会議でも課題の一つとして挙げられました。

② 緊急通報時に警察や消防は通報者の居所をGPS等で把握できるか

2017年夏以降に私は消防、警察に緊急通報を1回ずつする機会がありました。この経験から、携帯電話等では通報者の居所が確定できていない事

実が判明しました。

現状は電話での質疑応答で場所を割り出しているのが現状です。

③ 道路照明灯管理番号を伝えることで居所をすぐに特定

志木市内に網目のように配置されている道路照明灯管理番号を警察・消防に伝えることにより緊急時の事件、事故の場所をすぐに特定することができます。これにより初動で素早い対応を可能にし、安心のできる生活を住民に提供できると考えます。

(6) まとめ

○ リーダー 久保大地

この2年、全力で走らせていただきました。任期の終わりに近づき、まちづくりとは何なのかと考えました。私は『人と人を繋げること』だと今、確信しています。中宗岡地区まちづくり会議に協力していただいた皆さんには、心より御礼と惜しみない感謝を申し上げます。ありがとうございました。

○ サブリーダー 高田裕道

地域や市内外問わずたくさんの方々にご協力いただいて「たすけ愛」のコンセプトを実現することができました。活動を通じて「まちづくりとは、人づくりであり出会いをつくること」なのではないかと感じました。素敵なお縁をたくさんつないでいただいて、まちづくり会議に感謝しています。ありがとうございました。

○ サブリーダー 細谷高史

市民の方と協働して1からイベントを立ち上げるという他では得難い経験をさせていただきました。熱意を持って参加された委員の皆さんには、感謝の言葉しかありません。ありがとうございました！

○ 近藤訓

私にとっては二度目のまちづくり活動でしたが、一期目も二期目も若い方々の豊かな発想と、行動力にはただただ感心させられました。

今期の2つのイベントには中宗岡のみならず、近隣町内会や様々な団体の方々が実行委員としてご協力頂き、それ自体が大きな成果と、心から感謝致しております。

○ 齋藤聡子

志木歴15年。友達100人、知り合い1,000人。目指せ顔見知り1万人！まだまだ凄い人っているんだな、と感動するばかりの2年間。仲間に恵まれ、楽しく活動ができました！

- 棚田瑞恵  
2年間、それまで気づかなかった中宗岡の魅力をたくさん知ることができました。  
会議欠席が続く時もありましたが、イベント1つ1つが思い出です。ありがとうございました。
- 宮島彰子  
薦められまま始めたまちづくり。普段では聞く機会がなかった様々な話や地域の情報、宗岡の歴史など貴重で有意義な時間を過ごすことで徐々に楽しくなっていました。  
何より役所職員の方々と身近になれて、面白かったです。まちづくりでの経験や意見が市政に生かされたら幸いです。
- 佐野由美子  
イベントに、高齢者のかたから小さい子どもさんまで、多くの方が参加され、交流を通して、あらためて人と人のつながりや、温かさを感じることができました。また、志木市のことを、心から愛し、本気で考え、企画した委員のみなさんと行動を共にできたことは、生涯の思い出となりました。ありがとうございました。
- 行川一久  
この2年間を振り返ると、心の準備もなく代打で参加となり、不安でいっぱいでしたが、活動もほとんど出席できて、楽しみながらイベントができました。これもみんなが、出来ることを補いあって、たすけあいながら活動したお陰です。感謝！
- 大村一生  
「せせらぎ七夕まつり」「中宗岡ウォークラリー」は多くの方々に協力していただき、実施することができました。第2期中宗岡まちづくり会議で学んだ「たすけあい」の気持ちを忘れずに、今後も地域活動に関わっていきたいです。

### 3 下宗岡地区まちづくり会議

#### (1) 第2期下宗岡地区まちづくり会議委員構成

表 3-1 委員名簿

No.	選 出 区 分		氏 名	備 考
1	第1号委員	住民委員	笠井 由佳	リーダー
2			清水 一敏	サブリーダー
3			木下 武久	
4			小林 正行	
5			鈴木 和雄	
6			為井 俊充	
7			抜井 杏美	
8			野浦 康亘	
9			濱 鋼	
10			福田 百合子	
11			吉村 寿美子	
12	第2号委員	職員委員	吉野 政幸	サブリーダー
13			栗原 穂波	
14			木谷 美公	
15			金子 健太郎	
16			小林 俊貴	

表 3-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選 出 区 分	人 数	男 性	女 性
第1号委員	11人	7人	4人
第2号委員	5人	4人	1人

(2) 第2期下宗岡地区まちづくり会議のプロフィールや特色

下宗岡地区は、志木市の南東部にあり、朝霞市に隣接しています。荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の南部に位置し、緑と水に囲まれた自然豊かな地域です。

毎年7月に開催される、下ノ宮八坂神社夏祭りは、御輿渡御や民謡流しなど盛大に開催され、下宗岡の夏を彩る行事となっています。

また、12月大晦日に開催される「だるま市」も年越しには欠かせないものとなっています。



図 3-1 下ノ宮八坂神社夏祭りその1



図 3-2 下ノ宮八坂神社夏祭りその2



第2期下宗岡地区まちづくり会議は、男性委員11人、女性委員5人で構成され、全7地区で唯一の女性リーダーを中心に、70歳代から20歳代までと幅広い年齢層の市民と職員が、宗岡六区区民会館等で毎月会議をしながら進めてきました。

今回の下宗岡地区まちづくり会議イベントでは、開始予定時刻の近くまで、参加者の姿がまばらだったため、スタッフ一同肝を冷やしましたが、イベントが始まると続々と参加者が集まり、老若男女新旧住民が一丸となり、各ブースは大いに盛り上がりました。

イベントの実施にあたっては、町内会、婦人会、FFC、中学生ボランティアなど、地域の方々にご協力いただき、あらためて下宗岡地区住民の底力、温かさ、優しさ、そして地域への熱い思いを実感しました。



図 3-3 下宗岡の位置



図 3-4 まち歩きの際の風景その1



図 3-5 まち歩きの際の風景その2

(3) 下宗岡地区の課題について

平成28年7月3日に開催された第2期まちづくり会議スタート式以降、月一回以上のペースで会議を開催すると共に、まち歩きの開催や、委員への地区の現状や課題、問題点などのアンケート調査を行ったところ、下宗岡地区にはまだ、多くの農地が存在すると共に、その農地の宅地化開発により、新住民が増えてきている状況が見えてきました。その中で、新住民と旧住民の間には、コミュニケーションなどを図る機会が少ないことが課題であると考え、『新旧住民の融和』を目標とし、『下宗岡だよ！全員集合』をスローガンに掲げました。



図 3-6 会議中の様子その1



図 3-7 会議中の様子その2



図 3-8 平成28年当時撮影



図 3-9 現在

#### (4) 課題を解決に結びつけるための事業について

会議では、『新旧住民の融和』に向けて何を行えばよいかなどを模索していきました。第1期からの花壇事業やラジオ体操事業などを継続することで周辺のつながりを考えました。しかし、それぞれの継続事業でも改善していく点や課題が多く、事業ごとの改善を行うこと、また、新しい事業を立ち上げ、継続していく手法などについてまとめました。

##### ① ラジオ体操事業

ラジオ体操は、新旧住民の交流と健康増進を目的として、第1期の事業に選定され、平成27年9月より毎週土曜日6時30分NHKのラジオ放送に合わせて開始しました。

平成28年6月、第1期メンバーの任期満了時、ラジオ体操を第2期事業に継続してほしいとの希望があり、第1期メンバーが中心となって同好会の形で継続し、第2期の事業計画検討の結果を待ちました。

第2期事業を検討した結果、ラジオ体操の運営は同好会のまま継続し、その支援をすることとなりました。具体的な支援として、参加者募集のチラシを作成し、広報と共に下宗岡地区の全戸に配布しました。その他には、参加者に飲料を配るなどメンバーを集めるきっかけづくりを行いました。

平成30年4月14日までに土曜ラジオ体操は全107回実施し、延べ1,813名の参加をいただきました。なお、平成30年7月以降の活動については、同好会メンバーで相談して決めていきます。

提言としまして、住民の交流と健康づくりの場として手軽にできるラジオ体操を志木市全体に広げるとともに、最終的にはNHKラジオ体操の巡回放送を招致できれば最高だと思います。



図 3-10 ラジオ体操その1



図 3-11 ラジオ体操その2

## ② 花壇事業

本事業は第1期から続く事業で、小学生や中学生の通学路にあたる赤野毛排水路の脇にある花壇を整備し、四季折々の花を植栽することで、通行する人々の目を楽しませると共に下宗岡をより明るく楽しくすることを目的に実施しました。

主な活動は、小・中学校の入学式前に地元の園芸業者から提供いただいた花を植えると共に、夏にはFFCからいただいたヒマワリの種を植え、見事な花を咲かせました。また、花を植える面積を拡張すると共に、水路との境目にあるフェンスを傷めないようにするための改修も行いました。なお、日ごろの管理には、第1期委員や近隣の方にも協力をいただくと共に、ボランティア募集のチラシを作成し、ラジオ体操のチラシと一緒に配布して周知を図りました。

また、第2期では、花壇を継続していく仕組み作りについても検討し、市の制度を活用しつつ、地元の園芸業者の協力を得ることで、任期満了後も有志により活動を続けていきたいと考えています。



図 3-12 平成29年4月の花壇



図 3-13 平成30年4月の花壇その1



図 3-14 平成30年4月の花壇その2

③ キャンドルナイト

下宗岡だよ！全員集合 <sup>キャンドル</sup> ～ハートに火をつけて～

本事業は、下宗岡地区に住む「新旧住民の融和」を目的とし、第2期下宗岡まちづくり会議の集大成ともいえるイベントとして、「下宗岡だよ！全員集合 ～

<sup>キャンドル</sup>ハートに火をつけて～」を開催しました。

計画を進める中で一番注力した事は、目的でもある新旧住民の融和を念頭におきながら、参加をする全ての人に対し下宗岡の良さを知ってもらう事でした。

第2期 下宗岡まちづくり会議 主催イベント (共催:志木市)

# 下宗岡だよ！全員集合！

～ハートキャンドルに火をつけて～

日時: 11月19日(日) 小雨決行

開会式: 13:00

場所: 宗岡第二中学校

会場① 校庭・体育館  
会場② 254モデル道路 (イベント後半に移動します)

司会・進行 ヤセ騎士 (ヤセナイト)  
宗岡第二中学校卒業生

入場無料だよ!!

たるとんたるとん

イベント内容・タイムスケジュール・会場周辺地図は裏面をご覧ください。

facebook フェイスブックでも随時ご紹介します! [第2期下宗岡まちづくり会議](#)

お問い合わせ  
下宗岡地区まちづくり会議 MAIL: [shimomuneoka2@city.shiki.lg.jp](mailto:shimomuneoka2@city.shiki.lg.jp)

図 3-15 下宗岡だよ！全員集合 <sup>キャンドル</sup> ～ハートに火をつけて～ チラシ

## 事業内容

### ア 校庭

宗岡第二中学校の校庭を利用し、第1期まちづくり会議と同様「だるまさんがころんだ」を行い、ゆるキャラも参加して約100名で開催することが出来ました。さらに地元婦人会のご協力をいただき、地元の食材を利用した豚汁を振舞いました。



図 3-16 開会式



図 3-17 ラジオ体操



図 3-18 志木あらちゃん



図 3-19 カッピー



図 3-20 だるまさんがころんだ



図 3-21 豚汁調理の様子



図 3-22 豚汁ブース



図 3-23 豚汁で身も心も温まります

## イ 体育館

スライドを使って下宗岡の歴史を学びました。その後地元の子供たちによる音楽やダンスを発表し、下宗岡の特色を知ってもらうと同時に、大人も子供も楽しめる時間となりました。



図 3-24 宗岡第二中学校吹奏楽部その1



図 3-25 宗岡第二中学校吹奏楽部その2



図 3-26 講演会その1 (深瀬 克氏)



図 3-27 講演会その2



図 3-28 EKDS ダンスステージその1



図 3-29 EKDS ダンスステージその2



図 3-30 EKDS ダンスステージその3



図 3-31 EKDS ダンスステージその4

#### ウ 国道254号線予定地

近隣の国道254号線予定地では、参加者全員で4,500個のキャンドルナイトを実施しました。実施にあたり、事前に幼稚園や保育園、小中学校にお願いして未来の夢を紙コップに描いてもらいました。当日は、地元中学生のアイデアを基にレイアウトを考え、感動と達成感の共有、地元愛や仲間意識の高揚に繋げることができました。



図 3-32 キャンドルナイト準備その1



図 3-33 キャンドルナイト準備その2



### 各事業を通じて得られたこと

全ての事業に対して目的を重視し効果や成果を見通した内容を心掛けた事により、多くの人の笑顔と共に地元の暖かさや、住みやすさを感じていただけたと思います。このような地域限定の事業をきっかけに、下宗岡に対する愛着や誇り、住民同士の顔が見える地域性を活かした防災防犯にも繋がる事を期待したいと思います。まちづくり会議で議論を重ねる中で、メンバー全員がそれぞれの立場や役割に責任感を持ち、協力し合いながら本事業が開催できたと考えます。



図 3-34 火をつけている様子



図 3-35 下宗岡 LOVE



図 3-36 キャンドルナイト点灯

## (5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

「まちづくり」は「人づくり」である。

第2期の下宗岡地区まちづくり会議を運営していくにあたり、我々の会議体は決してイベントを行う事を目的とせず、この会議体をきっかけに永続的に事業やイベントを行っていきける組織や地域をつくって行くことを主眼に置いて会議活動を行ってきました。

同時に、第1期下宗岡地区まちづくり会議が行ってきた各事業の趣旨をしっかりと理解したうえで、ただ継続をしていくのではなく、予算や組織母体の援助なく、第1期の活動に理解を頂けた地域の方々とOBの方たちでしっかりと協力をしていながら事業を推進してきました。

第2期下宗岡地区まちづくり会議は「新旧住民の融和」を目的に掲げ活動を行ってきました。下宗岡地区は地元愛に満ち溢れた地元民が多い反面、いわゆるベッドタウンと呼ばれる地域でもあり、新しい住民が地域と繋がることのできるきっかけが必要な地域です。しかし、大きな事業としては年に一度の夏祭りしかなく、新旧住民の融和はおろか、新しい住民が地域に対して愛着を持つことのきっかけをつくることすら難しい地域であります。

我々会議体の使命は、新旧住民、老若男女が隔たりなく簡単なきっかけを通じて一同が集まり、心を一つにできる、例えば同じ作業を行い、同じものを同時に見聞きし体感し感動するなど、全員が同じ価値観を共有できる場を提供することであると考えました。

そして、そのことが、住民に対して地域への愛着と誇りを見出し、更には地域に対して受動的な感覚から能動的な意識へと変化していただくことで、地域に活気が満ち溢れていくのであると考えました。まさに「まちづくり」をきっかけとした「人づくり」、住民の意識変革を行う事で夢のある自慢の地域の創造を掲げて活動を行う事が出来ました。

### 課題を解決に結びつける方法や手段

きっかけが地区まちづくり会議であっても、新旧住民の融和を目的に組織の後ろ盾や人材、予算等を気にすることなく以後も継続して行っていける、更には共同作業を通じた一体感や感動を受ける手法として、第1期で行った「だるまさんがころんだ」と新たに「キャンドルナイト」を手段としてイベントを行ってきました。

当日は、小さなトラブルはありましたが、事業報告書にも記載した通り大成功を収めた事業となりました。同時にまちづくり事業の大目標が「感動」と地域の

「一体感」を作り上げることでありと再認識した事業にもなりました。この事業は継続してこの下宗岡地域で行っていくべき事業であることは私達の会議体の共通認識です。

先にも記したとおり、この地域に一番必要な「一体感」を作り上げるためにも、今後のそれぞれの特色に特化した実行委員会等の組織の立ち上げが必要であると感じます。第1期・2期を通じて作り上げたコネクションや地域住民との輪を絶やすべきではありません。また、ラジオ体操や花壇等継続されてきた事業を終わらせるべきでもありません。更には、「だるまさんがころんだ」や「キャンドルナイト」は下宗岡地域の自慢となるイベントへと変貌する可能性を秘めたある程度認知もされているイベントとなったと確信しています。

以上を踏まえて、第2期下宗岡地区まちづくり会議では、3つの提言をいたします。

- ① 各事業の継続
- ② 各コミュニティのネットワーク化
- ③ 市役所職員の地域・各団体への積極的な主体的な参加

各事業の継続(①)は上記に記載した通りの他に、我々の会議体にノウハウが残っており地域の役に立ち一番の効果を発揮できます。また、あえて行政から離れることでより効率的な事業の方法も模索が可能であり、事業への携わりもしやすい業況が作れるのではないかと思います。

各コミュニティのネットワーク化(②)は第1期・2期で感じた大きな問題の一つでもあります。この下宗岡地域であっても地域のため・子どものために全力で誇りをもって活動している団体がいくつもあり、それぞれが各自の日程で各自の指定した場所で事業を行っています。もしそれらの団体が協力し合い強みを出しながら効率的に事業を押し出すことが出来るのならば地域への発信、住民・子どもへの効果は倍増するのではないのでしょうか。しかし、各団体の誇りがあると同時に、こだわり等の観点から他団体との交流がうまくいっていないことも事実です。しかし、実際各団体に所属しているメンバーひとりひとりはいくつもの団体に所属している人も多く、全体の中で誰かが主体的に旗振り役になるなどの調整協議会やそれらのコミュニティをネットワーク化させることが非常に重要であると認識しています。

市役所職員の地域・各団体への積極的な主体的な参加(③)について、この度の第1期・2期の各まちづくり会議の大成功の裏には主体が行政であるという事よりも、各会議体に行政職員が垣根を越えて会議に参加いただけたことがあったからだと確信しています。

行政職員の皆様が等身大の我々地域や住民の人間性・価値観を見て感じていただき、本気で議論が出来たこの機会は本当にありがたい出来事でした。様々な形で地域のため子どもたちのために活動している各団体には行政の職員の力を本当に必要としています。今回行政の職員の携わりがまちづくりを今までの倍以上で

進めることが可能である実証でもあったと感じております。継続事業として立ち上がった各団体、また、お祭りや子どもの為の事業への積極的な参加を心より願っております。

#### 提言からの期待できる効果

志木市には「市民力」という言葉があります。まちづくり会議から人や事業が離れてからがこの「市民力」の成果が試されてきます。

まちづくり会議が旗振り役となり、「市民力」実現のために、コミュニティをネットワーク化することによって、一人ひとりに「市民力」が備わる。それによって、まちづくり会議のように様々なコミュニティが生まれ、他地域の人にも「市民力」が増える。

「市民力」+「市民力」+・・・＝「志民力」

→より良い志木市の完成！！



図 3-37 高台からの風景



図 3-38 キャンドル文字

## (6) まとめ

まちづくり会議の2年間を振り返って

### I 一番楽しかったこと

- ・イベントでたくさんの方々の協力を得られ、たくさんの方々の笑顔が見られたこと。
- ・まちづくり会議を通して多くの方と関わったこと。
- ・まちづくり委員になったからこそその知り合いがたくさんできたこと。(地域の方、役所の方、他の地区の方など)
- ・イベントなどで、地域の住民と会話したり、共に活動できたこと。
- ・ラジオ体操参加者が受付ボランティアをしてくれたこと。
- ・五区町内会長他10名が応援に来て手伝ってくれたこと。
- ・婦人会の応援(五区)があったこと。
- ・毎回の会議で「下宗岡を良くするために！」と議論を交わし、自分の住んでいる町について深く考えられたこと。
- ・委員とともに会議やイベントが楽しくできたこと。
- ・イベントでは天気にも恵まれ、盛況だったこと。
- ・市の職員とまちづくりメンバーが協力していろいろ予定通り実施できたことがよかった。
- ・イベントに多くの人が集まってくれ、豚汁やポン菓子などを美味しいと言って食べてくれたこと。また、地元の食材を少しでも知ってもらえたこと。
- ・千人鍋で食べた豚汁が寒い中おいしかった。
- ・全く力不足で役立たずのリーダーだったのに、みなさんが温かく支えてくれたこと。
- ・下宗岡まちづくり会議メンバー、そして多くのボランティアの方が、イベントに参加してくれた人と「共に」作りあげたキャンドルナイトが一番楽しかったです。
- ・キャンドルナイトは私たちが目的として掲げていたテーマを体現化したイベントだったと思うし、みんなで作り上げたという達成感を感じることが出来ました。
- ・キャンドルナイトに多くの人を観覧しにきてとても良かった。
- ・キャンドルナイトに多くの人に来てくれたこと。
- ・テストで行ったキャンドルの試点灯。
- ・子供たちが思い思いに絵を描いてくれた紙コップを見られたこと。
- ・下宗岡の歴史、人、多くのことを知る機会になった。
- ・「協働」して築くことの楽しさや、大切さを学んだ。

- ・事業実施に向けて全メンバーと議論し、自分達の技術や知識を出し合いながら協力していく時間が一番楽しかった。

## II 一番苦勞したこと、努力したこと

- ・下宗岡まちづくり会議のテーマであった「新旧住民の融和」を果たすためには、どういった方法を用いれば子供からお年寄りまで数多くの人に足を運んでもらえるかというイベント内容を決めるのがとても苦勞した。
- ・始めの頃、会議の方向性や進め方があいまいで何も決まらず悩んだこと。
- ・ボランティアで手伝って下さった方々に、指示をだしたり、イベント当日の流れを把握してもらうためにわかりやすく説明しなければならなかったのが大変でした。
- ・イベントに向けての会議でたくさんの意見が出たなかで、的を絞っていくのに苦勞した。
- ・提言に向けての会議や作業（これから苦勞すると思うので…）
- ・苦勞しても喜んでくれる人がいるとは限らず、いかに人を集めるか、どんな事を町の人は期待しているのかを見極めるのは難しいと思った。
- ・毎回同じメンバー全員集まって話し合いをすることが皆さん仕事をしているので大変だと思った。
- ・当日の参加者がどのくらい集まるか心配したが、開始時にはほとんど関係者のみで焦った。（五区町内会の防災訓練日の朝スピーカー付軽トラで町内を回る方法をやれば良かったと反省しています）
- ・まちの事やイベントに、興味を持ってもらうには何をしたらよいか考えること。
- ・会議の最初の方は、参加者も少なく不安になった。
- ・宗岡の昔について資料を集めたり、地図を探したりしたこと。
- ・体操も3年目に入ったが継続の大事さと難しさを感じています。
- ・自分の意見も出しつつ、みんなの意見を引き出すこと。また、一人でも多くの人に参加してもらえるようにしながらも、参加できなかった人にも情報共有をすること。
- ・年齢の差があり、どのように接するべきか悩んだこと。
- ・2期目のまちづくり会議として、1期より具体的な活動をする必要があり、志木市まちづくりの「形」の様なものをつくることに注力をしました。
- ・苦勞した事は特に無いのですが、事業実施に伴う目的や目標を明確にすることは大切であり、メンバーの気持ちや思いを一つにする事に努力をしてきたと思います。
- ・暗くなってキャンドルにいったが良くできていた割に人があまりいなく時間も短い時間で終わりもったいない感じだった。

### Ⅲ 自身の担当した部分について良かったこと、苦労したこと

- ・ボランティアの方たちもたくさん来てくれて、すごく助かりました。地域のつながりを感じられたのがすごく良かったです。
- ・受付を担当しましたが、リストバンドを渡すタイミングを逃したり、受付を通らずに会場へ行ってしまう方がいたり、人数把握の方法を改善すべきだと思った。
- ・イベント当日に会議メンバーと連絡を取る手段がなく、確認したいことを迅速に聞くことが難しかったので、連絡手段（ex インカムなど）を整備しておく必要があったと思った。
- ・体育館を担当しましたが、ダンスで関係者がたくさん来て派手に行いにぎやかでしたが、時間の関係で他の物については苦労した割にあまり人気がなかったのが残念でした。
- ・初めての参加だったので何をやっていいのかわからず戸惑った。
- ・イベントを行う場所が宗二中と254道路と少し距離があったのでキャンドルの準備を手伝いつつ、自分の担当場所にも目を配るというのが大変でした。
- ・だるまは盛り上がってたし、体育館もたくさんお客さん来てくれたし、キャンドルはステキすぎた。
- ・ほとんど皆さんに協力することが出来ず大変申し訳なかった。
- ・「全体を見る」ということで準備から当日まで細かい担当は外して頂いてましたが、一通り全ての催し物を見ることができました。
- ・床席が狭すぎた。
- ・だるまと吹奏楽の並行進行は失敗だった。
- ・地図や掲示物はほとんど見てもらえなかった。（掲示場所や、紹介の文言を足せばよかった？）
- ・木の実は詰め合わせにして配布数も少なく、希少性を出した方が良かったか？
- ・ダンスのおかげで盛り上がってよかった。
- ・イベントでは校庭を担当したが、午前中は風が強く、だるま用のカラーコーンが倒れてしまい心配したが、本番では風も弱まり無事に開催できたのはよかった。ただ、如何せん人の集まりが悪くて開会時間が遅れ、体育館イベントにも迷惑をかけてしまった。
- ・豚汁やポン菓子配る際に、地元の野菜ですとかお米ですと伝えると驚く人もいつつ、みんなが美味しいと言って食べてくれたのが良かった。FFCさんや第1期の小野寺委員にもご協力いただけると良かったのではないかと思う。
- ・会場作り等、又豚汁等計画どおりに出来たのはよかった。
- ・夜になってしまい、後片付け等が市役所の皆様をお願いする形で恐縮しています。
- ・だるまさんがころんだの時間に受付にキッズが来はじめ自転車駐車場整理で見ることが出来ず残念でした。

- ・体育館の状況も全く見る事が出来なかった。
- ・夏の時期に行ったらもっと長い時間人がきたのではないかな。
- ・キャンドルの火が風によって消えたり倒れたりしたものを何度も直すのは大変だった。
- ・担当場所から移動ができないため、他の担当の様子を見る事ができなかった。
- ・開始時間がずれたことによって、司会者も体育館発表の開始予定時間に間に合わず、発表開始まで時間繋ぎに苦慮した。
- ・体育館イベントの開始時間がおくれたことで、キッズダンス参加者の出待ち時間が長くなってしまった。
- ・発表者に持ち時間がわかるように、卓上ベルを鳴らして終了5分前などの合図をするなどする事で時間超過が防げた。
- ・会場設営の養生テープなどは多めに準備しておくべきだった。
- ・体育館のイベントにキッズダンスが参加したことで、集客数が多くなったと思う。
- ・キッズダンスのステージを最後にしたことで、他の発表時間も賑わっていた。
- ・まちづくり会議で2回目の「だるまさんがころんだ」として1回目の反省点を含め内容や時間、回数、目的を明確にして事業実施に至りました。
- ・一番の苦労は、全体の流れの中で「だるまさんがころんだ」は事業の客よせの意味もあり、メインの「キャンドルナイト」への動員や人の移動に注力したことです。
- ・体育館に1日中いたので他のイベントを見る事ができなかった。

#### IV 2年間を振り返って思うこと

- ・今回でまちづくり会議終了ということですが、継続は力なりという言葉通り続けてほしかった。
- ・下宗岡まちづくり会議に参加したきっかけは自分自身下宗岡で育ったにも関わらず下宗岡について何も知らなかったところからでした。会議を重ねていくうちに下宗岡の良さに気付けた一方、下宗岡の課題も見えてきて、少しでも下宗岡が住み良いまちになったらいいなという思いで活動してきました。一人では不可能に近いことも、メンバーの皆さんと協力することで形にすることができ、イベントなどを通じて、下宗岡に住む人々やそれ以外の方々とも繋がる事ができて参加して本当によかったと思っています。下宗岡に住む人たちに下宗岡の良さだったり、住民同士が交流するきっかけづくりに少しでも関わることができて、とてもいい経験になりました。
- ・メンバーの皆さんと交流が出来たことに感謝しています大変ありがとうございました。
- ・初めは「本当に私が委員で大丈夫なのか？」と不安もありました。地域のため



に下宗岡のために何ができるだろう…と。みんなで話し合っているうちに向かう方向が決まり、メンバー全員が楽しく笑いのたえない会議が増えました。お役にたてたのかどうか正直わかりませんが、個人的には子どもたちがこれから暮らしていく下宗岡がステキな町になるように考えるいい機会になりました。とても学びのある有意義な、またとても楽しい2年間でした。

- ・まちを盛り上げるのは難しい。
- ・大変なことは多かったが、協力し、何かを成し遂げる経験はよかったと思う。
- ・各団体同士が交流するとそれだけでも広がると思う。
- ・各団体に溶け込みやすい雰囲気作りも大事。
- ・野口さんに声をかけていただいていたので参加でしたが、それによって多くの方とかわることが出来、良かったと思います。
- ・第2期のまちづくり会議ということで、より大きな期待がかかる中、自分としては初めてのまちづくり会議であり、上手くいかない、出来ないことも多かったが、皆さんの協力をいただくことで何とかここまでこられたと思います。やはり、委員だけでも16人と多くの人に関係すると情報発信や情報共有をいかにうまく出来るかが大切だと思いました。
- ・2期目の委員ですが今回も市役所の皆様、地区の近いメンバーと知り合えていろいろな物の見方考え方のあることが解りました。その見方考え方を一つに収斂させることの難しさ、そして立案準備実施できたことの喜びを感じた有意義な2年間でした。
- ・最初は、2年間は長いと思いましたが、イベントの準備などを行っていたらあっという間の2年間でした。1期から引き継いだ花壇やラジオ体操などもメンバーの方たちと協力して実施したことで、大きな達成感がありました。
- ・1期目も担当した立場として、2期目のまちづくりもより進化した内容にしたいと思いました。2期スタート時では仕事等で参加できなかった事申し訳なく思います。志木市メンバーと市民メンバーの集いからうまれる新しい意見や考え方は新鮮で、町内会や地元の集りでは考えられないことが多くあったと思います。この様な体制で行う会議を密に行う事で、役所、市民全体の市民力が高まると思います。
- ・下宗岡の歴史や、現在までの様々な沿革を知ることができ、感慨深いものがありました。また、会議やイベントを通じて、メンバーの皆さんのやる気や下宗岡の豊かな人間力に驚かされましたし、何より下宗岡を良くしたいという熱い思いを強く感じました。

第2期下宗岡まちづくり会議  
リーダーより一言



図 3-39 香川市長 作

下宗岡地区の問題点や良い所などを考えていく中で、今回は「新旧住民の融和」をテーマに掲げることになりました。

新しい家がどんどん建ち、新しく来た人が、昔からこの地域に住んでいる人との交流を持てるように行ったイベントでしたが、多方面の方のご協力により、本当にたくさんの方の笑顔を見ることができました。とても嬉しかったです。

ラジオ体操や花壇の活動も、これからも継続していけるとより良いまちづくりが出来ると思います。

第2期まちづくり会議としての活動は終わりますが、これからも下宗岡地区がますます素敵な街になるように、ここで得た繋がりを大切にしながら盛り上げていけたらいいなと思っています。

委員の皆さんとのまちづくり会議の2年間、楽しかったです。本当にありがとうございました。

#### 4 本町地区まちづくり会議

##### (1) 本町地区まちづくり会議委員構成

表 4-1 委員名簿

No.	選 出 区 分	氏 名	備 考	
1	第1号委員	住民委員	山口 和秋	リーダー
2			清田 由美	サブリーダー
3			阿部 聡志	
4			伊得 洋行	
5			小川 勝則	
6			加藤 美弥子	
7			神田 清治	
8			佐藤 聡子	
9			塩野 万世	
10			須崎 徳照	
11			野原 公子	
12			三浦 真一	
13	第2号委員	職員委員	杉田 明子	サブリーダー
14			大熊 弘美	
15			大野 弘道	
16			西出 慎吾	
17			森田 真一	

表 4-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選 出 区 分	人 数	男 性	女 性
第1号委員	12人	8人	4人
第2号委員	5人	3人	2人

## (2) 本町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

### ◆ 活動拠点 いろは遊学館

### ◆ 本町地区のプロフィール及び特色

本町地区は、東武東上線志木駅の東口を含む交通の利便性が高いエリアで、志木市の中心市街地が形成されており、志木市の玄関口となる部分を担っています。旧ダイエーとららぽーと跡地に大型マンションが建設され転入者も多く、志木市の中で最も人口が多い地区となっています。

また、本町地区には田子山富士塚をはじめとする志木市の歴史を伝える国登録有形文化財や県・市指定文化財が点在しています。

本町地区まちづくり会議のメンバーは、20代から70代の人まで幅広い年齢層で構成され、本町生まれの本町育ちの生粋の本町っ子や自宅購入に伴い転入して来た人など、バックグラウンドも様々なメンバーの集まりで、それぞれの得意分野を生かしながら、話し合いを進めて行きました。

当初、住民委員13人、職員委員5人が任命されましたが、残念なことに、引越により住民委員が1人減り、17人のメンバーで活動を行いました。



図 4-1 会議の様子



図 4-2 まち歩き田子山富士塚にて（敷島神社）

## 【本町地区を知ろう！どんなまち？】

《メンバーによるまち歩きの実施》

実施日：平成28年9月11日

参加者：地区住民委員11人、職員委員5人

実施理由：経歴も年齢も地区とのかかわり方も様々な委員が、本町地区まちづくりという難しいテーマで活動して行くのには、先ず本町地区がどのような特徴を持っている地区なのか。メンバー全員が認識することが第一、というメンバーの一致した考えから、本町地区のまち歩きが計画実施されました。

実際に歩いたコースとメンバーの感想

### ① 集合場所 スタート地点：敷島神社（田子山富士塚）

さすがに県指定文化財だけにメンバー全員、存在は知っていました。

明治2年10月から明治5年6月の2年8か月という短期間に築造されたこと、使われている溶岩（黒ボク）2千数百個は、富士山から運んで来たことを聞いて、驚くと共に改めて先人の努力に感謝！と同時に志木市の宝物であることを再認識しました。



図 4-3 敷島神社（田子山富士塚）

### ② 田子山富士塚下愛の泉



本町地区唯一の湧水、湧き水の存在に感激！メンバーのKさんが小学生のころは、沢蟹もいたとか…。  
「斜面林と湧水！」後世まで残しておきたい風景というのが、メンバー全員の思いでした。

図 4-4 田子山富士塚下愛の泉

### ③ 引又河岸跡

この場所から、米やいろいろな物が船で浅草の花川戸まで運ばれて、引又河岸は新河岸川筋の河岸場の中では、1、2を争う規模でした。田子山黒ボクもここから、運んだと聞いています。

川の流れも現在と違って舟運が盛んだったころは、現在の市役所の下辺りで



図 4-5 引又河岸跡

合流していました。

(現在は旧村山快哉堂の下で柳瀬川と新河岸川が合流しています。)

川の流<sup>ひきがえる</sup>れが蟻蛙の足の形に似ていたから「蟻股」さらに転じて「引き又」となった等興味深い話を聞きました。

#### ④ 大柵

明治31年に作られた煉瓦作りの大きな柵です。

野火止用水の水を宗岡に送るための物で、伏越工法というのだそうです。

その原理を聞いて、理科の授業を思い出しました。

この水のお蔭で、宗岡地区の米の生産高も増大したそうです。

宗岡地区は新河岸川と荒川に挟まれているのに、田んぼの水に困っていたって不思議な感じがしました。

鉄管の東京都のマークは何を意味しているのでしょうか？



図 4-6 大柵

#### ⑤ いろは樋ジオラマポケットパーク

史料に基づいて再現してあるジオラマだけあって、歴史好きメンバーは興味津々、Kさんがジオラマの中の小さな橋（石橋）が初代の「いろは橋」だと教えてくれました。



図 4-7 いろは樋ジオラマポケットパーク

初代の「いろは橋」のあった辺りは、昔は湿地帯で「カエルが小便しても水が出る」と言われる程の土地だったと聞き、昔の人の苦労に思いを馳せました。

説明板の説明もわかりやすいし、大人も子どもも楽しく志木市の歴史を学べる歴史入門必須場所です。

#### ⑥ 西川家潜り門

幕末に起きた武州一揆の時のノコギリ傷が残っている歴史の証人的な建築物です。

この潜り門のあったお宅（西川本家）の旧母屋の鴨居には刀傷も残っていたと聞いて一揆の恐ろしさを実感しました。



図 4-8 西川家潜り門

⑦ 市場跡

この場所に志木の発展を担った二七にしちの市が開かれていました。

戦前は、スリが出るほど近郷近在の人が訪れ賑わっていました。

メンバーのKさんが小学生低学年の頃までは結構にぎやかだったとか、今は面影もありませんが…。



図 4-9 市場跡

⑧ 横町よこちょう（寿町、本町一丁目）



メンバーKさんが志木の町で一番好きな場所と言っていました。

戦前まで埼玉県有数の肥料商だった家の風格ある佇まいに全員感動しました。ぜひ残して欲しい建物です。

また、その先の団子屋さんの暖簾になぜか懐かしさを感じました。

図 4-10 横町

⑨ いろは遊学館、市民会館前

志木市になる前の旧足立町役場があった場所です。

⑩ 本町六丁目裏通り（西町町内）

志木市出身の彫刻家関根信夫さん（市役所の駐車場に展示してある「空想」という彫刻の制作者で世界的に有名な彫刻家）の育った家や、「武蔵野S町」物語の作者長倉万治さんが育った家のあった辺り、御二方をよく知るメンバーIさんからの昔話を聞きながら案内をしてもらいました。

⑪ 志木駅前

駅前再開発のコンセプト等をメンバーIさんから説明してもらいました。

日頃、何気なく見過ごしていた物にいろいろな思いや意味が込められていたことを知って、目から鱗でした。

駅前の建物のロゴがフランス語でドゥセット、二（ドゥ）と七（セット）、志木



図 4-11 ペDESTロリアンデッキ

の発展の礎を築いた二七にしちの市から命名してあるなんて、メンバーで知って

いたのは、I さんだけでした。

ペDESTリアンデッキの池田要さんの切り絵、市歌の一節をモチーフにした花と雲の彫刻、ふるさと歌留多のタイルを埋め込んだ交番前広場、さすが志木市の玄関です。

#### ⑫ 大原ポンポコ公園

現在道路になっていますが、かつては野火止用水が流れていて水車もあったそうです。

ポンポコ公園は、マンションを建設する時に、市民・開発業者・行政の三者の話合いと協力によって誕生したそうです。

ちなみにポンポコ公園という名称は、マンションが出来前慶應志木高校の寮があり、寮として使われなくなり無人になっていた時期、タヌキがたくさん住んでいたことによるらしいです。

草刈や管理はボランティア団体の方が行っているとのこと。

これこそ、市民力です！

いつまでも、貴重な緑豊かな空間を残して欲しいです。

それにしてもタヌキ達は何処に消えたのでしょうか？ちょっと気になります。

#### ⑬ 谷津地

昭和三十年代まで、田んぼが広がっていて、所どころに「おかま」と呼ばれていた湧水があってコンコンときれいな水が湧いていたそうです。

冬には氷の張った田んぼで子ども達が長靴スケートを楽しんでいたそうです。現在は、住宅が建ち並び面影もありません。

谷底の様な地形のため、一昔前までは洪水の常襲地区だったそうです。

道路沿いの家の玄関が一段高くなっていたのは洪水対策だったようです。

現在は、調整池やポンプ等が整備されていて、その心配もなくなったようです。

#### ⑭ 御嶽神社

道路から少し入ったところにあるため、知らない人が多かったです。

歴史的には古い神社（天保2年創建）ですが、参拝する人もあまりいないために静かな場所でした。

「本町を知ろう！どんなまち？」と題したまち歩きは、ここで無事終了。メンバーそれぞれが新たな発見や驚きを体験した半日でした。

まち歩きの経験を今後の活動に活かして行くことをメンバー全員で確認して終了しました。

半日、行動を共にしたことで、一体感も生まれたような気がしました。



【本町地区まちあるきマップ】

「本町を知ろう！どんな町？」で実際に歩いた箇所

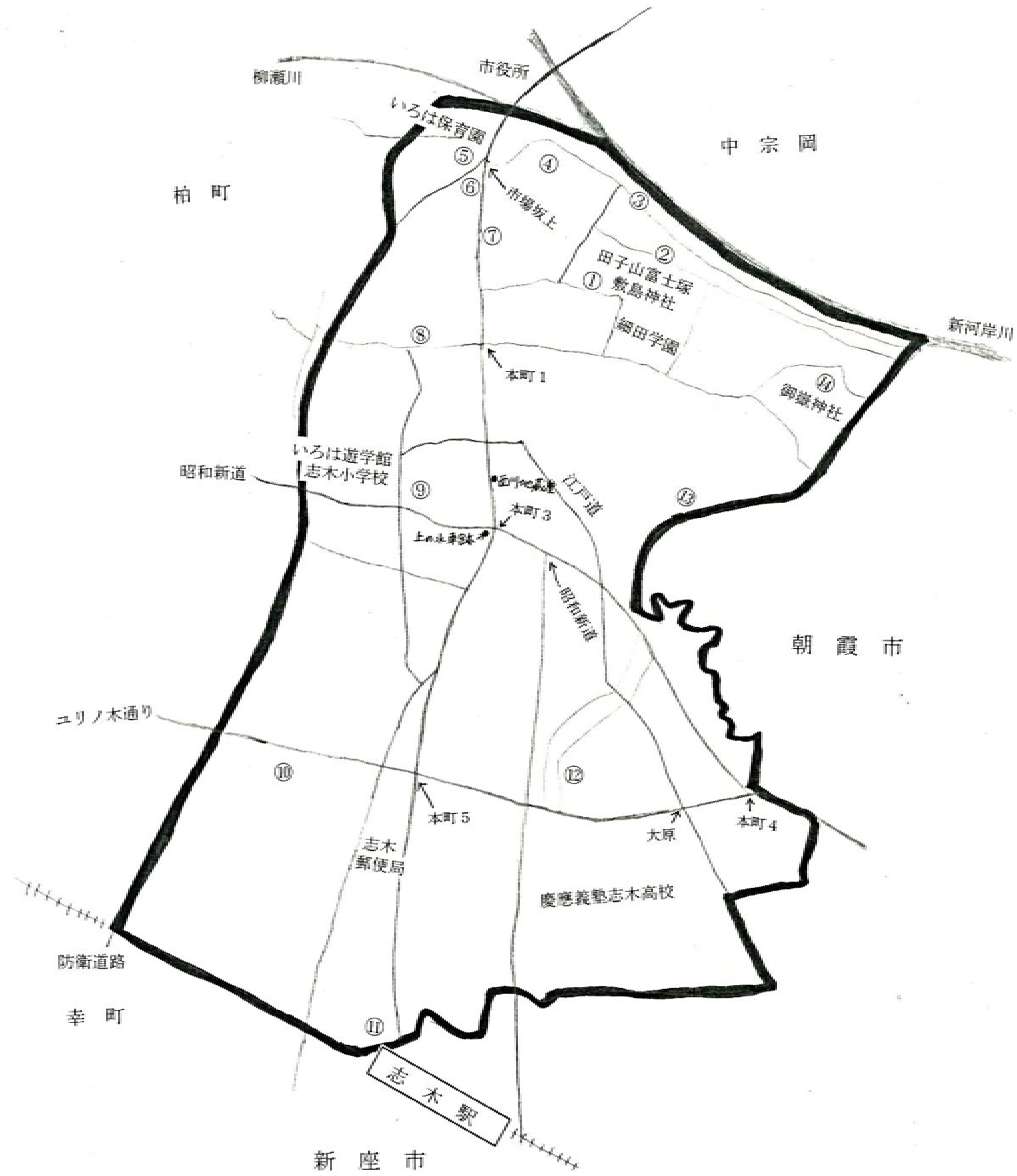


図 4-12 本町地区まちあるきマップ

(3) 本町地区の課題について

○ 本町がどんな「まち」なのか知らない

会議やまち歩きを実施していく中で、住民であっても本町地区について知らないことがたくさんあることに気付かされた。マンション等の建設が多く、移住者も多いため、本町がどういう「まち」なのか知らない住民が多い。地域について知らないということがさまざまな課題につながっている。

○ 歴史的価値ある「まち」に気付いていない

- ・志木市内でも歴史的に価値のある建造物や場所が多くあるが、長く住んでいる住民にも知られていないところが多々ある。
- ・過去に地域であった出来事について知っている人が少ない。  
→歴史を知ることにより、自分の住んでいる「まち」に対して愛着もわき、防災にもつながる。

○ 安心・安全な「まち」へ（防災意識の向上）

- ・地域のどこにどのような危険があるのか、また、避難場所や避難所がどこにあるのかわからない住民も多い。市のハザードマップはあるが、地域の細かな防災マップがない。
- ・災害時には地域での協力が不可欠であるが、新しく移住してきた住民も多く、隣に誰が住んでいるのかわからないという状況もある。
- ・過去に地域であった災害を知ることや防災に対する知識・技術を身に付けることがいざという時にために必要である。

○ 賑わいのある「まち」へ

- ・志木駅へ向かう人たちが通過するだけになっている状況がある。
- ・昔ながらの商店が減ってきている。
- ・憩いの場となる場所（公園や緑地）が少ない。
- ・住民同士が知り合い、交流できる機会や場所が必要である。

○ 子育てしやすい「まち」へ

- ・公園が少なく、子どもたちが安心して遊べる場所が少ない。
- ・交通量の多い道路が多く、登下校時の安全確保が必要。
- ・待機児童が多い。（市内全域の課題）

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

本町地区のまち歩きや話し合いを重ねる中で、本町にはたくさんの文化財などがあり、歴史的にたいへん魅力ある地区であることがわかり、本町地区の住

民はもとより、本町以外の地区の人にも、本町を単に通過するところではなく、本町に興味を持ってもらうことが重要ではないかという意見にたどりつきました。

また、もう一方で、本町には坂などの高低差がある地域があり、がけ崩れの可能性のある地域や、大雨時浸水する可能性のある地域もあることがわかりました。

こうしたことから、歴史と防災をテーマとしたイベントを開催し、本町の魅力を伝えると共に災害時に備えた訓練体験を行うことにしました。

会場については、本町地区の避難場所として指定されている志木小学校を会場として利用することで、改めて避難場所を知ってもらうことができます。また、志木市の中では一番古く歴史ある志木小学校を会場にすることで歴史的にも意味があるのではないかとこのことで、志木小学校をメイン会場としてイベント開催をすることにしました。

イベント実施には、市内在住の佐藤さんにドローン飛行への協力をいただいた他、ミニドローン操縦体験では志木小おやじの会、本町の歴史ブースでは志木のまち案内人の会や第1期本町地区まちづくり委員の方、防災のブースではマキ商会、防災訓練では志木消防署や志木市消防団の方々など、みなさまのご協力のもと開催をしました。

《本町フェスタの紹介》

実施日：平成29年11月26日（日）午前10時～午後2時30分

場 所：志木小学校及びいろは遊学館

来場者：約500人

○ まちあるきDVD上映

本町地区について、どういうまちなのかを発信すべく、まちの歴史や紹介をまとめたDVDを午前、午後1回上映しました。

また、休憩時間には屋外で行われたドローン撮影の放映も実施しました。

10:10～	ドローンライブ配信
10:20～	まちあるき上映 「しきの歴史散歩」 (その1) 志木駅東口交番前～本町三丁目「西川地蔵」 (その2) 本町一丁目「中の水車跡」～本町二丁目「敷島神社」
11:00～	ドローンライブ配信
11:10～	まちあるき上映 「しきの歴史散歩」 (その3) 本町二丁目「御岳神社」～本町二丁目市場坂上交差点下 「いろは樋の大樹」 (その4) 本町二丁目市場交差点脇「下の水車跡」～本町二丁目市場 通り「史跡、市場跡」
11:50～	ドローンライブ配信
12:00～	志木のドローン映像
13:00～	まちあるき上映 「しきの歴史散歩」 (その1) 志木駅東口交番前～本町三丁目「西川地蔵」 (その2) 本町一丁目「中の水車跡」～本町二丁目「敷島神社」
13:40～	ドローンライブ配信
13:50～	まちあるき上映 「しきの歴史散歩」 (その3) 本町二丁目「御岳神社」～本町二丁目市場坂上交差点下 「いろは樋の大樹」 (その4) 本町二丁目市場交差点脇「下の水車跡」～本町二丁目市場 通り「史跡、市場跡」

図 4-13 DVD・ドローンライブ配信スケジュール

#### ○ 防災・歴史の展示

展示エリアでは主に歴史関係と防災関係に区分けし、展示を行いました。

歴史関係では、本町今昔比較写真、旧村山快哉堂ジオラマ（市民による作成）、田子山富士塚ジオラマ（市民による作成）等の展示が行われ、当時を懐かしむ声が聞かれました。

防災関係では、災害時持出品や防災マップの展示をしました。また、ゲストとして、「ぶらり途中下車の旅」の平成29年8月19日放送で紹介された株式会社マキ商会にも参加してもらい、災害時にも活用できる携帯おしぼり「KURUMOMI」の紹介や販売も行われ、地元企業との交流を行うことができました。

そして、市役所産業観光課協力による四式ロボVR体験コーナーも設置され、最新技術をもって志木市をPRする場となりました。



図 4-14 「KURUMOMI」の紹介



図 4-15 防災グッズの紹介



図 4-17 志木の今昔パネル展示



図 4-16 田子山富士塚ジオラマ・旧村山快哉堂ジオラマ

#### ○ 防災訓練・体験コーナー

志木消防署や志木市消防団に協力をしてもらい、水消火器や煙体験、AED訓練、119番通報訓練を行いました。また、消防車の展示や防火衣を着ての記念写真など、盛りだくさんの内容でした。

特に煙体験では、想像以上に周囲が見えにくく火災発生時の避難の困難さを実感することができ好評でした。

また、AED訓練と119番通報訓練を共に行うことで、非常時にあわてず的確な指示を出すことや明確な役割分担の必要性を学ぶことが出来、より効果的に実施することができました。



図  
A  
訓  
4-  
体  
○  
ロ



4-  
E  
練  
19  
験  
ド  
ー

ンの模擬飛行・ミニドローン操縦体験

志木小おやじの会に協力してもらい、校庭に大きく「志木小」の文字を書き、その上をドローンが模擬飛行し、校庭に設置したスクリーンや視聴覚室モニター、スマホへのライブ配信を行いました。

実際にドローンが飛行している様子を見るのはめずらしく、多くの来場者が興味をもって見てくれました。

ミニドローンの操縦体験では、2時間で60人の参加者があり、見るとやるとは大違い、思った以上に思い通りにならないミニドローンに苦戦しながらも、楽しんでいました。



図 4-20 ドローンの模擬飛行



図 4-21 ミニドローン操縦体験



図 4-22 ドローンからの撮影その1



図 4-23 ドローンからの撮影その2

○ 炊出しの試食

防災に絡めてイベント時に備蓄食料であるアルファ米ときのご豚汁を提供しました。

アルファ米は災害時用の50人前のセットを使用し、きのご豚汁は志木小学校地下の備蓄倉庫に保管してある大きな釜をお借りし、志木の土曜市で販売されている地元の野菜、志木市と防災協定を締結している千葉県東<sup>とうのしょうまち</sup>庄町のSPF豚肉を使用して作りました。また、汁に入れた大根の葉っぱを使ったふりかけも作りました。

参加者からは、アルファ米を初めて食べたという声も多く聞かれ、美味しいと好評でした。



図 4-24 きのご豚汁



図 4-25 食べている様子

本町地区は志木小学校が備蓄場所となっており、備蓄食料としてアルファ米647箱(32,350食)、粉ミルク768缶、乾燥がゆ7,200食、ミネラルウォーター100箱が備蓄されています。

埼玉県には「いつでも、どこでも炊出訓練応援隊」という制度があることを今回の活動で知りました。市町村や自治会等が実施する炊出し訓練に、資器材の提供・技術指導・情報提供などができる方々を「炊出訓練応援隊」として登録し、地域の炊出し訓練を支援してくれます。また、地震等の災害が発生し、電気や都市ガスなどのライフラインが寸断された際には、避難所などで被災者自らが炊出しによる温かい食事を準備する必要があることもあるため、いざという時のために、日頃から防災訓練と併せて実践的な炊出し訓練を実施しておくことが重要であるとイベントを通じて実感する事ができました。

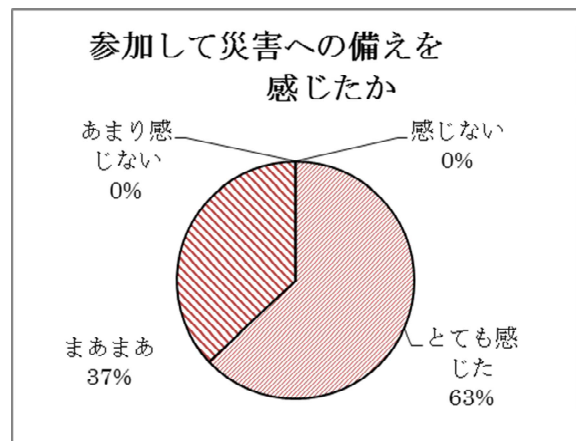
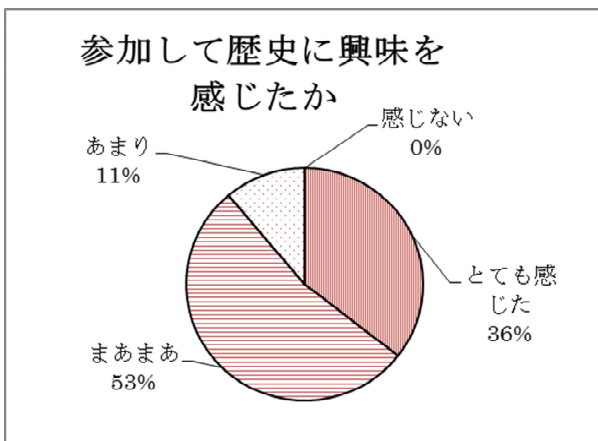
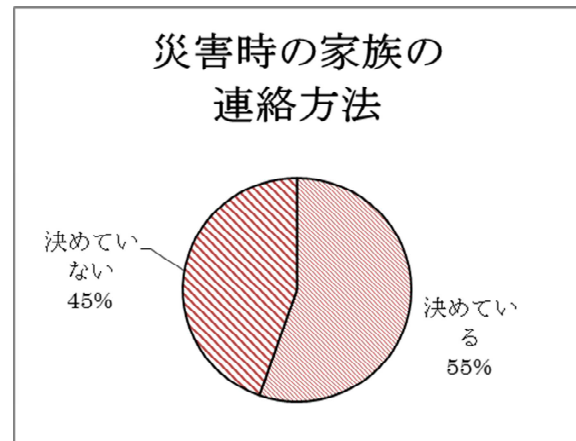
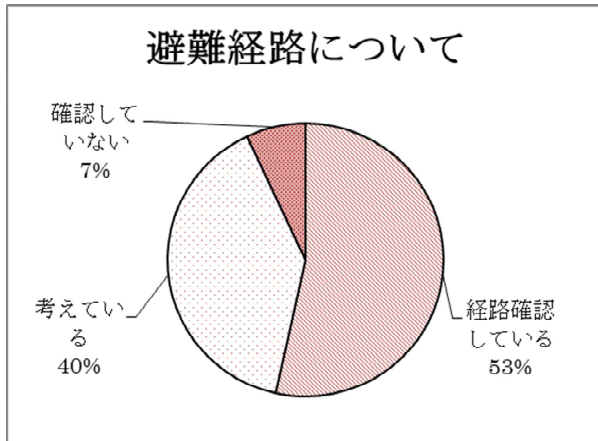
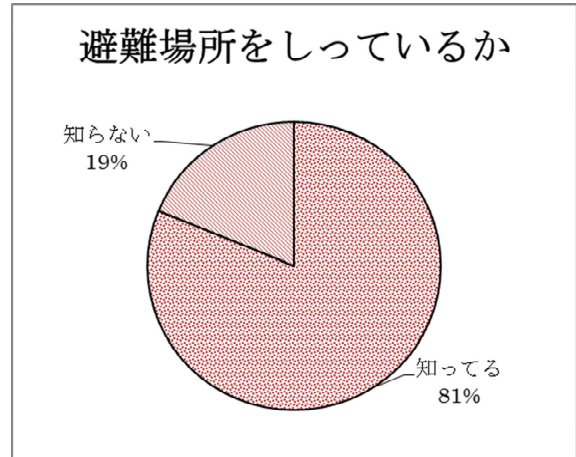
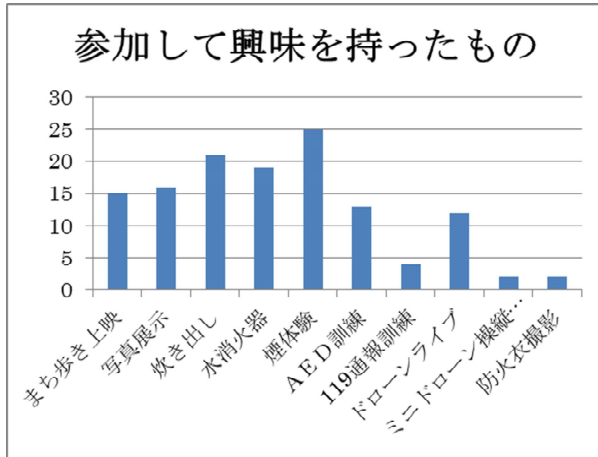


図 4-26 イベント時のアンケート結果 (一部抜粋)



(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

○ 安心・安全な「まち」へ（防災意識の向上）

ア 課題を解決に結び付ける方法や手法

市のハザードマップだけでは、具体的なイメージがしにくく、本町地区を歩くことで実際の様子を確認することが出来る。

本町地区の歴史を知ることは、本町の魅力を知ることにもなるが、本町の歴史を知るときに本町の過去の災害と一緒に知ること、災害への備えのきっかけともなる。

今回のイベントでのアンケート結果からは、誰もが災害への備えが必要であると感じている。しかし、実際の災害時への備えに関しては、避難場所を知っている人の割合は8割であったが、災害時の避難経路を確認している人や災害時の食料備蓄、家具の転倒防止対策をしている人は約半数で、わかっているにもかかわらず行動に移せない人が多くいる。

いつか必ず起こる災害に備え、防災意識を高く持ち、いざという時のために行動できるようになるため、継続的な避難訓練や防災訓練が必要であり、どのような形であれば実施可能なのか検討していきたい。

イ 期待できる効果

予測外の災害に備え、定期的に避難訓練・防災訓練を実施することで、災害時への防災意識が薄れることを防ぐことが出来、災害に対する備えやいざという時に正しい対応が出来るようになるという効果がある。

また、今回、本町地区まちづくりのメンバーで行ったような本町地区のまち歩きを本町地区の住民で実際に行うことで、本町地区の災害の特徴やより安全な避難経路を知ることができる。

さらに、定期的な避難訓練・防災訓練やまち歩きをすることにより、いざという時に助け合うことができる地域の輪を作ることができる。

ウ 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後の課題

新しい住民が多い本町地区では、この地域にどんな特徴があるのか知らない住民も多くいる。昔から本町地区で暮らしていて、地域のことをよく知っている住民と新しい住民が、訓練やまち歩きを通してお互いを知り、交流を持っていくことで、災害や防犯に強いまちになるだけでなく、より賑わい豊かなまちになっていくだろう。

ただ、普通の避難訓練・防災訓練を実施しても意識の高い住民は参加してくれるが、多くの住民はなかなか参加しないと思われる。そのため、いかに多くの人に興味を持ち、参加したいと思える訓練ができるか、今回のイベントのようにいろいろな観点からアプローチをしていく必要がある。

○ 賑わいのある「まち」へ

ア 課題を解決に結びつける方法や手法

志木市の鉄道の玄関口「志木駅」に隣接している本町地区は、地区内住民は徒歩や自転車で、宗岡地区や一部の柏町地区の住民はバスなどを利用して、「必ず通るエリア」である。

空き家や空き店舗を利用して、趣味や娯楽、図書や教育等のスペースとして、更地を利用して、モニュメントの設置や子どもの遊び場、軽い運動ができる広場として整備することで「必ず通る地域住民」が「ちょっと寄り道」をするスポットができる。また、すでにある歴史的な名勝やカッパの石像などもこのエリアには見どころ満載である。さらに、専門知識豊富な店主がいる商店など様々な職種の店舗が点在している。

そんな本町地区を中心とした、それぞれの視点から見た地図がすでに作られている。それらの地図を整理して駅や公共施設に常備し、本町地区の魅力をアピールする。さらにスタンプラリーなどを仕掛けて回遊性を持たせたい。

イ 期待できる効果

子どもの遊び場では、元気よく遊ぶ子どもたちを温かい目で見守る保護者同士のつながりが生まれ、子どもが成長しても自然とあいさつができるようになり、防犯にもつながる。

それぞれのスポットを利用することで「ふれあいの場」が増え、広場での運動は「健康増進」にもつながってくる。また、回遊性を持たせることで「ちょっとお店に寄ってみる」機会も増え、「商店の活性化」も期待でき、「まちの活性化」につながる。

ウ 将来の地区のあるべき姿のイメージなど（課題などもまとめて）

平日の昼間は親子連れや、ご年配の方々

平日の夕方には学校帰りの小中学生

古くから住んでいる人、新しく移り住んだ人が

まちにあるスポットにふらっと寄り、だんだん顔見知りになっていく。

そのまちに顔見知りが増えることにより挨拶しあう人が増え、それにより犯罪の少ない、安全でにぎやかな街になっていく。

まちに愛着がわき、ずっと住んでいたいまちになる。

長い年月をかけて、そんなまちに近づいていけたらいいのではないのでしょうか。

○ 安心・安全な「まち」・賑わいのある「まち」へ

今後のまちづくりにどのように生かすのか

今回の活動を通じてもっとも感じたのは、「知る」ということの大切さでした。

「人と人が知り合う」「歴史を知る・地域を知る」という事が、人と人のつなが

りを生み、本町地区を知ることが本町への愛着を生み、安心・安全なまちづくりや賑わいのあるまちづくりにつながると考えました。

今後のまちづくりでは、今回の体験をもとに本町の住民によるまち歩きを今後も継続し、もっとたくさんの人に本町のまちを知ってもらい、住民同士のつながりや賑わいの一助にして行くと共に、住民同士のつながりを築くことによって、災害時にも助け合う体制の基盤づくりを地道ながら行っていきたいと思っています。

本町の住民による本町の住民のためのまち歩き

## 「本町を知ろう！ どんなまち？」の継続的な実施

### (6) まとめ

#### ◆ 2年間の任期を振り返っての感想

##### ○ 山口

今後、永住の地になる志木市本町の「今と昔」を知ることが出来、とても良い経験にもなりました。

そして、まちづくり会議でしか関われないような事業、仲間に出会えたことに感謝しています。

ありがとうございました。

##### ○ 清田

この活動を通して、本町に詳しく、本町を大切に活動している方々がいらっしゃることを知りました。今まではただ「住んでいる町」、だったのが歴史的背景を知り、通り過ぎてしまっていた建物の存在を知ったり、改めて、本町は古くからの住民と新しい住民がいる町なのだと実感しました。

##### ○ 阿部

まちづくり会議に参加したことで、自分の街を知る良い機会になりました。魅力や課題を知ることによって愛着も沸き、より良い街にしたいという思いも沸きました。そうした思いをたくさんの人が感じてくれるような機会がこれから増えると嬉しいです。

##### ○ 伊得

町づくり……、究極には住んでいる人たちが縁あって、この志木で暮らしている。そのプロセスは十人十色（住人十色）であっても、あらためて志木を見つめた時、誇りたい志木、知りたい志木、考える志木学ぶ志木、遊ぶ志木、楽しむ志木、暮らしやすい志木。これらの一つひとつが今風に充実すると魅力ある志木となる。これが町づくりだと思う。この二年間でこんな事が頭を過ぎました。まだあるかな。

○ 小川

「本町まちづくり会議」の一員として二年間にわたり参加し、多くの仲間と出会いそして行動できたことに感謝いたします。

当初、私が考えていた事と大分道はそれでしたが皆さんとの協力で『本町フェスタ』が出来たことは意義ある事と思います。

しかし、今の本町地区の街を見た時には東京通勤圏のマンション群の増加。志木市民兼東京都民の傾向が強くなっています。また、志木市の玄関口にも関わらずに、バス通勤者の通過点の一つになっていることは、残念に思えてなりません。

志木市本町地区の街が活性化し、魅力・活力そして展望のある街づくりを改めて考えるいい機会でした。

今回も最終的には『フェスティバル』形態で終了いたしました。今回の事を通し、近隣・町内・そして行政を含めた活動で検討する課題が見えたと思います。

一人一人の思いは非常に小さく見えますが、大勢の仲間が力を合わせることで成果が出ます。

二年間の本活動を通して改めて参加した皆さん一人ひとりが住みよい、魅力ある街が出来る事を願っている想いを感じました。

○ 加藤

本町まちづくり会議に参加して、田子山富士に登り、本町を歩き、歴史を知り、今後本町の町をどうしていったらいいかを語り合い、皆さんの熱い想いに触れ、色々と考えさせられました。やりたいことはたくさんあってなかなか絞り込めず、ちょっと詰め込み過ぎた感はありましたが志木の皆さんに少しでも本町のことを知ってもらえる事ができたかなと、嬉しく思います。

皆さん、ご苦労様でした。ありがとうございました。

○ 神田

改めて振り返って見ると、年齢も経歴も違う18名がゼロから始まって約1年半の協働作業で何かを成し遂げると云うのは予想以上に大変でした。

①前向き且つ積極的に取り組む②お互いの考えを尊重し合う③投げ出さない。

此の思いが無ければ、為し得なかったと思います。

此れこそ町づくり、人との絆づくりの基本では無いでしょうか？

今後は、我が町志木の為に微力乍ら尽力して行きたいと思います。

○ 佐藤

本町地区まちづくり会議に参加させていただき、生まれ育ったこの志木市をこの地域を見つめ直し、あらためて身近なまちになりました。

同じ地域に住むメンバーの皆さんと出会え、まちづくりについて共に考え地域の課題を考えるなどよい経験になりました。リーダー初め、委員の皆様ありがとうございました。まちづくりの輪が市のかかげる市民力を生かし今後とも広がり続けていける地域でありますように。

○ 塩野

11月26日に行われたイベントにおきましては、たくさんのお子様たちを初め多くの参加者に来場していただいたことを心より嬉しく思います。

イベントでは、炊き出しを始め、まち歩きや写真ブース、ドローン体験、などなど、さまざまなブースを用意しました。

来場はお子様連れのご家族が多かったのですが、各ブースで多くの笑顔が見られたことから、楽しんでいただけたと思います。

まちづくり会議のみなさまと一致団結したことによりイベントは無事、成功に終わったことがなにより嬉しく思いました。

○ 須崎

「まちづくり」ってなんだろう？

漠然として未だになんとかわからない！ただ、意識を持った本町地区のメンバーが縁があって結集した。まさに老若男女がひとつの目的に向かって建設的な意見を出し合いイベントという形で答えを導きだした！！「賑わい」！？これが我々の答えだ！楽しい時間をありがとう！

○ 野原

仙台から移住し本町を終の棲家と決め2年になります。まち歩きに参加し、頭の中に本町のイメージが出来上がり、同時に歴史も少しばかり理解出来、とても勉強になりました。この町に愛着も感じました。

この体験を他の新住民の方々にもぜひ感じていただきたいと願っています。

○ 三浦

私は、本町に住んで37年になります。そのころは今と違い、古い建物も多く残っていました。今は面影もありませんが、商店もいろいろな業種があって、結構楽しかったことを覚えています。

この本町まちづくり会議に参加し、たくさんの方々から今まで知らなかった志木の町を教えてもらえたことで、あらためて志木を見直す機会が得られたことは、自分にとっての財産となりました。

新しい住民が多くなってきた今、もっともっと志木の良さを共有していければと思っています。

○ 杉田

まちづくり会議に参加し、本町を知ることができたことはもちろん素晴らしいことでしたが、それよりも2年間という短い期間でしたが苦楽を共にし、多くの新しい人たちと知り合うことが出来、新たなネットワークが構築できたことが最大の収穫だったと思っています。

これからも、お付き合いよろしく申し上げます。

○ 大熊

本町地区まちづくり会議に携わることができ、今はとてもよかったと思っています。大変だったこと、忙しく辛いこともありましたが、いろいろな方々と知り合えたこと、貴重な時間を共に過ごし悩み、考えながらひとつの事を成し遂げていった充実感。このすべてに、感謝しています。

人との出会いやつながりを大切に、これからにつなげていきたいと思っています。

○ 大野

本町地区まちづくり会議に参加しまして、本町の今まで見えなかった部分が見え、様々なことを知ることができました。この経験を生かし、本町の良いところをいろんな人に伝え、改めて志木市はこんな魅力があると認識してもらえればうれしいです。

○ 西出

今回志木の、特に本町について知らない事や興味深い所を探ったり、ぜひよくしたいと思い参加してみましたが、色々とお深いことが知ることが出来たり、市民の方と事業を進めるという未知の事を体験できたのが良かったです。

○ 森田

いつも自分が通る本町をよく知りたいと思い、今回のまちづくり会議に参加しました。会議メンバーでのまち歩きにより、本町の魅力に気づき、たくさんの方にその魅力を知ってほしいと思う事がイベントへのモチベーションとなりました。事業としては反省点も多かったですが、地域の方々と協力できた事は忘れられない経験となりました。

## 5 幸町地区まちづくり会議

### (1) 幸町地区まちづくり会議委員構成

表 5-1 委員名簿

NO.	選 出 区 分		氏 名	備 考
1	第1号委員	住民委員	臼田 孝史	リーダー
2			米倉 典孝	サブリーダー
3			田中 富士子	
4			原 隆之	
5			藤原 浩一	
6			三上 美穂	
7			宮原 優	
8			家亀 秀典	
9	第2号委員	職員委員	久保 久仁子	サブリーダー
10			伴 恭臣	
11			梅木 秀平	
12			樋口 直也	
13			風見 早紀	

住民委員として11人に辞令が交付され、8人で活動した

表 5-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選 出 区 分	人 数	男 性	女 性
第1号委員	8人	6人	2人
第2号委員	5人	3人	2人

### (2) 幸町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

#### (ア) 活動拠点

健康増進センター (幸町)

#### (イ) プロフィール及び特色

幸町まちづくり会議は、8人の住民委員と5人の職員委員、合計13人、幅広い世代で構成されています。健康増進センターを活動拠点に、「私たちの住む幸町がどんな街であればより住みやすく、心安らぐ街になるのか？」をテーマに2年間、33回に及ぶ話し合いを積み重ねてきました。その結果、「おたがいに顔見知りとなり“つながる街”、笑顔があふれる、あいさつが飛び交う、いつも元気な幸町」幸町がそういった街になればとの思いに至り、そのために私たちにできることがなにかを考えながら活動をしてきました。

### (3) 幸町地区の課題について

#### (ア) 幸町地区の特色

幸町地区は、志木駅と柳瀬川駅の間に位置するエリアで、大部分が土地区画整理事業により一体的に整備された地区です。地区内には、愛宕町、久保、大塚、福住、シーズクラブ、城ヶ丘の6つの町内会があります。

また、人口は増加傾向で、子育て世代も増加していることから、高齢化率は市内の他地区に比べて低く、年齢別の人口構成では20歳代後半から50歳代前半が多い状況にあります。

#### (イ) 幸町地区の課題

幸町の魅力や課題を洗い出すため、まずは、私たちが暮らす幸町を歩いてまわり、現状の確認をすることから始めました。その後、住民委員が実際に暮らして感じることや、街歩きをしてわかったことなどをもとに、会議を重ね、以下のような魅力や課題を抽出しました。

##### <魅力>

- 新しい家やマンションが続々と建設され、新しい住民も多い、若い世代が多い
- 区画整理が実施されたため、街自体が新しく暮らしやすい
- 志木駅と柳瀬川駅が使えるため、交通の利便性が高い
- 町内会活動など、地域の活動が活発に行われている地区もある
- 大学が近距離にあり学生なども多い

##### <課題>

- 子育て、高齢者の暮らし、健康に関してさまざまな団体が活動しているが、新規参加が少なく参加者が固定化する課題がある  
地域活動へまったく参加していないと回答する住民が半数を占めているとの調査結果もある(平成28年3月策定・志木市将来ビジョン(第五次志木市総合振興計画)より)
- 地域で行われている活動をはじめ、地域の“コト”や“ヒト”をまだよく知らない人が多い

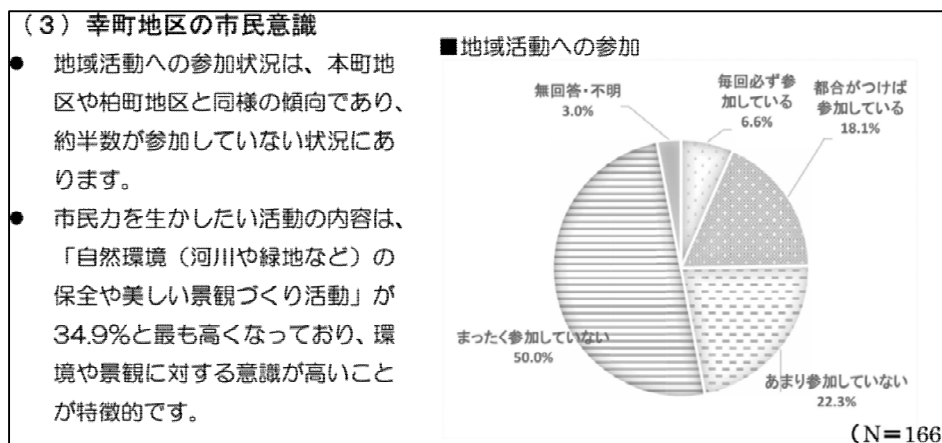
人口は増加しているが、町内会への加入者は減少し、近所を歩いてもあいさつを交わすことが少なく、人と人とのつながりが希薄化していると感じました。

このような現状を少しでも良くするために、幸町の魅力を活かし、新しい世代やこれまで地域の活動に参加していない人たちを巻き込みながら、地域のことをより知ってもらい、住民同士のつながりをつくることで、幸町が今よりも笑顔あふれる住みやすい街になるのではないかという考えに至りました。





図 5-1 地区まちづくり会議 第4回会議メモ



※出典：平成 28 年 3 月策定・志木市将来ビジョン（第五次志木市）

図 5-2 幸町地区の市民意識

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

ア 「ハッピータウンフェスティバル 2017」事業のコンセプト等

幸町に暮らす人たちが、「おたがいに顔見知りとなり“つながる街”笑顔があふれる、あいさつが飛び交う、いつも元気な幸町」幸町をそういった街にしていくためのきっかけづくりの第一歩として「ハッピータウンフェスティバル 2017」を開催することとしました。

<イベントコンセプト>

開催するにあたり、単なるイベントではなく課題解決のためのイベントとなるよう、3つのポイントを重視し、企画した。

『「繋」つながろう!』

幸町地区住民の約半数が地域活動に参加していないことから、地域で活動する団体やサークル、部活動などの紹介をし、地域に愛着を持ってもらうとともに、参加を促す取組みとして「繋」を企画した。

『「遊」あそぼう!』

子育て世代が増加している幸町地区において、子育て支援をしている団体による催し、幸町に住む子育て世代が集まる機会の創出と既存の住民との交流を目的とし、高齢世代も親しめる昔ながらの遊びを用いた「遊」を企画した。



図 5-3 ハッピータウンフェスティバル 2017 チラシ

『「食」たべよう!』

幸町の地区にある飲食店をはじめ、町内会や団体等を知ってもらうことで、地域に愛着を持ってもらうため「食」を企画した。

イ 事業内容（企画段階）

① メインイベント

(ア) ミニプラネタリウム&ワークショップ

小中学生を対象に、1回20分程度、各回40名、全12回の予定でミニプラネタリウムを上映するとともにワークショップを企画した。



図 5-4 ミニプラネタリウム



図 5-5 ワークショップ

② 「繋」つながろう！

(ア) 地域で活動するクラブ・団体・サークルの紹介

幸町を中心に周辺地域で活動する団体等を紹介することで、これまで参加していなかった人が地域の活動を知るきっかけとする。

(イ) 高齢者あんしん相談センター館・幸町出張相談会

高齢者やその家族を対象に暮らしの中のさまざまな悩みや心配ごとを相談できる機会を設ける。

(ウ) 志木第二中学校吹奏楽部による演奏

各種コンクールで入賞を果たすなどの活躍をしている志木第二中学校吹奏楽部による演奏を披露し、来場者が地元の中学校の活動を知るきっかけとする。

③ 「遊」あそぼう！

(ア) 子育て遊びコーナー

未就学児を対象にボールプールや手作りおもちゃなど、遊び場を提供し、幸町に住む子育て世代の親子と知り合う機会を設ける。

(イ) 遊び体験コーナー

小学生以上を対象に、プラトンゴやコマ回し、けん玉などの昔遊び、バルーンアートやよみきかせなど世代間が交流できる機会を設け、さらに、地元消防団の協力を得て、消防車両の展示や消防衣の着用体験も企画し、集客を図る。

④ 「食」たべよう！

地元のお店や食材、協力活動団体とのふれあいなど「食」を通して、地域とのつながりをつくる。

(ア) 地元グルメ

(イ) 愛宕町内会による「とん汁」

(ウ) 焼きそば、ポップコーン、わたあめ

(エ) 地元野菜の直売会

ウ 事業費

表 5-3 事業決算表

収 入 (単位 円)

項 目	当初予算額	収入済額	比 較	説 明
<b>1 補助金</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>	
1 市補助金	1,000,000	1,000,000	0	志木市夢のあるまちづくり事業費補助金
<b>2 繰越金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
1 繰越金	0	0	0	
<b>3 委託料</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
1 委託料	0	0	0	
<b>4 協賛金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
1 協賛金	0	0	0	
<b>5 参加者負担金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
1 参加者負担金	0	0	0	
2 出店者負担金	0	0	0	
<b>6 雑収入</b>	<b>0</b>	<b>64,201</b>	<b>64,201</b>	
1 雑収入	0	64,201	64,201	イベント売上・利息
<b>収 入 合 計</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,064,201</b>	<b>64,201</b>	

支 出 (単位 円)

項 目	予算現額	支出済額	不用額	説 明
<b>1 報償費</b>	<b>10,000</b>	<b>0</b>	<b>10,000</b>	
1 謝礼	10,000	0	10,000	
<b>2 需用費</b>	<b>170,000</b>	<b>220,567</b>	<b>△ 50,567</b>	
1 消耗品費	60,000	116,168	△ 56,168	イベント食材料費
2 食糧費	10,000	4,399	5,601	イベント協力者飲み物代
3 印刷費	100,000	100,000	0	イベントチラシ・金券印刷
<b>3 役務費</b>	<b>40,000</b>	<b>50,370</b>	<b>△ 10,370</b>	
1 保険料	5,000	25,530	△ 20,530	来場者、スタッフ保険代
2 手数料	35,000	24,840	10,160	チラシ配布
<b>4 使用料及び賃借料</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
1 使用料	0	0	0	
2 賃借料	0	0	0	
<b>5 委託料</b>	<b>770,000</b>	<b>784,263</b>	<b>△ 14,263</b>	
1 業務委託費	350,000	327,053	22,947	テント設営
2 事業委託費	420,000	457,210	△ 37,210	プラネタリウム事業委託 他
<b>6 負担金</b>	<b>10,000</b>	<b>1,000</b>	<b>9,000</b>	
1 参加者負担金	10,000	1,000	9,000	コミュニティ協議会負担金
<b>7 その他</b>	<b>0</b>	<b>8,001</b>	<b>△ 8,001</b>	
1 市民活動推進課返納金	0	8,001	△ 8,001	
<b>支 出 合 計</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,064,201</b>	<b>△ 64,201</b>	

エ 実施結

収入の部	支出の部	差引
1,064,201	1,064,201	0

果

① メインイベント

(ア) ミニプラネタリウム&ワークショップ

- ・上映回数：7回 観覧者：175人
- ・天候不良で参加者が予想より少なかったこと、来場した保護者等からの要望に応え、対象を限定せず実施したことで、親子や兄弟姉妹で観覧してもらうことができ、楽しかったという声を多数いただいた。
- ・上映回数を減らすし、1回あたりの時間を長くした。
- ・ワークショップでは、宇宙ステーションで実際に使われているロボットアームの技術を身近にある紙コップで体験してもらった。
- ・帰宅後も家族や友だちとの交流のきっかけとなるよう、ロボットアームキットを用意した。

② 「繋」つながろう！

(ア) 地域で活動するクラブ・団体・サークルの紹介

- ・これまで地域の活動に参加していなかった人へのきっかけづくりとして、幸町を中心に周辺の地域で活動する団体などの紹介をした。
- ・広報しきやコミュニティ掲示板に掲示されている団体などに声をかけるなどして、紹介団体を募った。
- ・休憩スペースの前に掲示することで、目に留まるように工夫した。
- ・活動を掲示することで自分たちの活動を知ってもらうよい機会となったという団体があった。

(イ) 高齢者あんしん相談センター館・幸町出張相談会

- ・高齢者やその家族からの相談への対応やセンターの活動のPRの機会としたが、天候不良のため相談者の参加は難しかった。

(ウ) 志木第二中学校吹奏楽部による演奏

- ・天候不良のため中止とした。

③ 「遊」あそぼう！

(ア) 子育て遊びコーナー

- ・NPO法人「ひろがる輪」による親子でのふれあいの機会を設けた。
- ・雨天の中、親子で遊ぶよい機会となり、幸町まちづくり会議の市民メンバーもいっしょに作った手作りおもちゃのプレゼントも好評でそれぞれ楽しい親子ふれあいの時間を過ごした。

(イ) 遊び体験コーナー

- ・「志木おやこ劇場」や「クラブしっきーず」の皆さんの協力を得て実施した。
- ・天候不良のため、消防車両の展示等を中止とした。
- ・「志木おやこ劇場」による「輪ゴムアート」の企画は、天候不良のため、室内2階へ会場を移動し実施した。
- ・「バルーンアート」や「遊び体験」は、駐輪場にブルーシートをかけたことで実施可能となり、楽しんでもらえた。

④ 「食」たべよう！

(ア) 地元グルメ

- ・幸町にお店を構える「Kitchen吉田」、「フードパラダイスエムエム」を地域の人に知ってもらえた。

(イ) 愛宕町町内会によるとん汁

- ・愛宕町町内会の協力により151食が完売となった。
- ・地元町内会やその活動の一端を知ってもらえた。

(ウ) 焼きそば、ポップコーン、わたあめ

- ・「志木2小&4小おやじクラブ」の協力により、239食を販売した。
- ・ポップコーンやわたあめはお代わり自由とし、それぞれ78食、90食を販売した。
- ・地域で活躍する団体を知ってもらえた。

(エ) 地元野菜の直売会

- ・「激団志木」の協力のもと「アグリシップしき」の一環として、幸町や柏町など地元の野菜をメインに販売した。
- ・近隣で野菜を作っていることを知ってもらえた。

オ 全体を通して

- ・来場者合計：650人
- ・天候不良で一部、実施内容の変更を行うなど、不測の事態も発生したが、臨機応変に対応できた。
- ・天候不良にもかかわらず、各団体の協力をいただき開催することができた。
- ・イベントを実施することにより、幸町にはさまざまな活動があり、また、そこで活動している方々の力を知ることができたと同時に、すでに幸町にはしっかりとしたつながりがあることを実感できた。
- ・今回イベントで生まれたつながりについて、イベント後のつなげ方が課題だと感じた。

カ イベントにご協力いただいた団体からの意見

① 志木市放課後子ども教室 志木りんくす

- ・当日は雨にもかかわらず、思った以上に来てくださる方がたくさんいて、良かったです。プラネタリウムを待つ時間にも、色水の輪投げや、たこづくり、お花かざり、こまなどの遊びが提供できて、小さなお子さんや小学生が遊びました。私自身も楽しめました。出店していた食べ物も、美味しかったのでお店に行きたくなり、知らなかった地域の情報も知ることができました。繋がり温かさを感じた1日でした。

- ・フェスティバル当日は朝からかなりの雨模様で、皆さん来てくれるか心配でしたが、得意気にけん玉をする男の子や、独楽回しに夢中になるお父さん、また、玉入れを競い合う女の子とお母さんなど、大勢の方が楽しんでいて下さいました。駐輪場をブルーシートで覆ってくださったので、どしゃ降りの雨でも広いスペースで遊ぶことが出来ました。
- ・雨の中ほとんど途切れることなく子ども達が遊びに来てくれました。そして、用意したものの全部遊んでくれました。いいおまつりでした！  
(追伸) テントのスープがおいしくて、お店にも行きました。

## ② 志木おやこ劇場

- ・おやこ劇場の輪ゴムアートには、プラネタリウムを見る親子がたくさん寄ってくれました。輪ゴムアートは時間かけて楽しむ子どもが多いので、室内にしていだだいて、参加者もスタッフもありがたかったです。
- ・バルーンアートの方の技術がすばらしく、と一緒に活動する機会を持ちたいと思いました。地域のいろいろな方と交流できるのが、お祭りの魅力ですね。

## ③ NPO 法人志木子育てネットワークひろがる輪

- ・残念ながら雨でしたが、地域の皆さんが楽しみにして来てくれた様子が見えました。地域づくりに参加でき良かったです。プラネタリウムは素晴らしく、また見たいです。
- ・牛乳パックのおもちゃ作りから地域の方と関わったので、お祭りへの親しみは倍増していました。
- ・まずは幸町住人としてお礼を申し上げます。ガラガラのプレゼント、とても素敵でした。すごく準備に手間暇かかったことと思います。お父さんとボールプールに入って遊ぶ姿など、ほんとうに嬉しそうでした。来てよかったね、たくさん遊べて良かったね、という声も耳にしました。工作は、シール貼りが好きな子などはとても楽しんでいたようです。

## ④ NPO 法人クラブしっきーず

- ・当日は3人と特別支援学級の高校生で参加しました。ホスピタリティをもって、みんなと一緒に楽しむ時間をすごせました。コマがあってよかった。自分の手の上でコマを回して、そのまま子どもの手のひらに移してあげた。その瞬間、子どもの顔がパッと笑顔になる。その場に立ち会えたことが幸せで、とても良かったです。しっきーずでは遊ぶときにはいつでも名前を明かして一緒に遊ぶ。名前で呼び合うことで、関係性ができ、また安心して遊べる。さらには顔と顔がつながれる関係を作っていける。イベントではそうするとよりよいと思っています。
- ・団体をPRする場を設けてくれて、とてもありがたかったです。子どもたちも一緒にスタッフとして参加することができて良かったです。そういうところからの広がりが嬉しかった。

## ⑤ 株式会社東急コミュニティー



- ・踊り場でやられていたワークショップも楽しくて、参加してみたかったです。
- ・ロボットアームのワークショップは、子どもたちだけでなく、保護者の方が、興味関心を持って楽しんでいただけたようでよかったです。
- ・プラネタリウムが初めてという子どもたちが多く、やりがいがありました。
- ・プラネタリウムを三回見に来た子どもがいました。心に残る機会を提供できたならば、こちらにとっても良い経験となりました。
- ・大型のドームだったので、皆さん寝転んでプラネタリウムを見ていただいて、志木ならではの、他ではできない体験をしていただけてよかったです。

## (5) 夢ある地区のまちづくりに向けた提言

### (ア) 現状や課題点

幸町の特徴として、若い世代を中心に、新しい家族の流入が多いこともあり、住民の中には「幸町という地域で誰がどんなことをやっているのか」幸町の“コト”や“ヒト”をよく知らない人が多いと思われまます。

そのため、人口は増えているにもかかわらず、町内会への加入者は減少し、近所を歩いていてもあいさつを交わすことが少ないなど、地域のつながりの希薄化につながっているのではないかとの結論に至りました。

### (イ) 課題を解決に結びつける方法や手法

そこで、第二期幸町地区まちづくり会議では、幸町に暮らす人たちが、おたがいに顔見知りとなり“つながる街”となることを目的に、「笑顔があふれる、あいさつが飛び交う、いつも元気な幸町」を実現するための“4つの仕掛け”を検討しました。

ア. フルーツ・シェアリングでつながりづくり

イ. 町内まるごとあいさつ作戦

ウ. ポールウォーキングで防犯パトロール

エ. 活気を生み出す出会いの場づくり

#### ① フルーツ・シェアリングでつながりづくり

住民相互の交流を図ることを目的に、住民同士のつながりをつくるきっかけとして、フルーツ・シェアリングを提案します。

庭先で果樹を育てている家庭がありますが、高木のため収穫が難しい、収穫する時間がない、収穫しても食べきれないなど、さまざまな理由により、収穫されることなく地面に落ちてしまっている果樹が多く見受けられます。「誰かの手があれば」という部分をつながりづくりに活用できないかと考えました。

(ア) 概要

家庭で育てている果樹の収穫を手伝ってほしい人や余っていて引き取ってほしい人と、収穫を体験したい人やフルーツを欲しいと思っている人をつなげ、地域住民同士の交流と協働のきっかけとなる事業を実施する。

(イ) 実施効果を高めるため、活動参加者を増やす仕掛け

- 地域の活動団体から有志を募り、フルーツ・シェアリング・グループを設立
- 果樹の栽培をしている家庭のうち、協力いただける家庭を調査し、フルーツの木MAPを作成
- 収穫の時期が異なるため、フルーツ・シェアリング・グループで、各家庭の収穫時期を集約し、市の広報紙やホームページをはじめとするインターネットやSNSなどで配信。収穫をしたい人にはグループに登録してもらい、手軽に収穫実施情報を取得可能とする
- そのままでは食べづらいもの（酸味が強いなど）については、はちみつ漬けやジャムの作り方などの調理方法をまとめたチラシを作成し、参加者に配布、ジャム作り教室なども併催する
- 収穫道具を貸し出し、気軽に参加可能

(ウ) 期待できる効果

- 住民同士が顔見知りとなる機会ができ、シェアすることで、地域で暮らす人と人が直接つながることができる
- 果樹の収穫が困難な家庭の手助けができると同時に、その家庭とつながることで孤立化を防ぐ
- 普段何気なく食べている果物が、実際どのように実っているのか体感でき、子どもの自然体験の機会となる
- 不要だけど捨てるにはもったいないような余剰の部分と、どこかにある需要の部分をつなげ、互いに得する関係ができる
- フルーツ狩りで、親子や他の家族とのコミュニケーションが増加し、笑顔のあふれる家庭が増える
- フルーツシェアをきっかけに、シェアリング意識が高まり、もったいないをなくすエコサイクルにもつながる

(エ) 将来の地区のあるべき姿のイメージ

シェアという言葉は、分かち合い・分配・共有することを意味します。地域との付き合いが減り、隣近所に住む人の顔さえ分からないことが多い昨今、フルーツをきっかけに、さまざまなものの分かち合い、地域コミュニティの情報共有といったシェアリング活動

が、人と人のつながりに結び付くと考えます。シェアリング体験で住民同士が顔見知りとなり、笑顔とあいさつのあふれる街が、幸町や志木市のあるべき姿と考えています。

## ② 町内まるごとあいさつ作戦

幸町地区の雰囲気明るくするとともに、地域活動へ意識を高める第一歩となる、「あいさつ」を増やす作戦を提案します。

あいさつを交わすことは防犯の視点から、また、円滑な人間関係を築く上で非常に重要だと言われています。しかし、いざ自分で積極的にあいさつをしようと心がけても、あいさつを返してもらえず、くじけたり、かえって逆効果になったりすることがあります。

そのため、幸町地区が一体となって、住民同士が自然にあいさつをすることができる環境を作ることが必要であると考えました。

### (ア) 概要

住民と市が一体となってあいさつの啓発活動を実施する。

### (イ) 実施効果を高めるため、活動参加者を増やす仕掛け

- 小・中学校で、あいさつの大切さを訴え、あいさつ運動を実施する（志木二中にて展開中）
- 市の広報紙・ホームページなどに、定期的にあいさつの普及啓発に関する取り組みについての記事を掲載する
- 小中学校の下校時、市の防災行政無線であいさつの奨励をアナウンスする
- 町内会に対し自主防犯パトロール実施時に通行人へのあいさつを依頼する
- あいさつ運動の参加者に、その意義や重要性を伝える研修を定期的実施し、くじけたり逆効果になつたりしないようにフォローする
- 相手が「あいさつしても良い人」だとわかると、あいさつをしやすくなるので、幸町に住む人があいさつしやすくなるよう、「あいさつバッジ」や「あいさつステッカー」を作って配布する

### (ウ) 期待できる効果

- 街ぐるみで取り組むことで、子どもが小さなときから、あいさつの習慣・意識づけができる
- コストをかけず地域の雰囲気を明るくできるとともに、その地域で暮らす“ヒト”を知ることができる

- あいさつを交わすことで、住民同士が顔見知りとなり、不審者を早期発見でき、犯罪を未然に防ぐことができる。その結果、地域の防犯力が高まる。同時に住民の孤立化を防ぐことができる
- 町内会の活動に目を向けるきっかけとなる

(エ) 将来の地区のあるべき姿のイメージ

あいさつの輪が幸町に広がることで、子どもと高齢者、昔から住んでいる住民と新たに転入してきた住民などさまざまな立場の違いを超えて、幸町が「つながる」足掛かりとなることが期待できます。

「あいさつをする」というほんの少しの勇気と行動が、幸町地区の雰囲気明るくするとともに、地域活動へ意識を高める第一歩となり、幸町地区のあるべき姿につながると考えます。

③ ポールウォーキングで防犯パトロール

幸町が「つながり」のある街になるために、志木市が健康づくり事業の一環として推進しているポールウォーキングを取り入れた新たな取り組みを提案します。

(ア) 概要

ポールウォーキングによる、児童・生徒の登下校時の見守り活動や夜間の防犯活動を実施する。

(イ) 実施効果を高めるため、活動参加者を増やす仕掛け

- カパルなど市の人気キャラクターを使用した、防犯ベストやポールを作成する
- 幸町の要所に、カパルの防犯灯を設置する
- 地域で活動しているサークルや団体、地域の中の友人同士、誰でも気軽に楽しく活動できるよう、夜間でも光るポールや防犯ベストを貸し出す
- すでに実施している町内会による自主防犯パトロールの際にも、上記アイテムを貸し出す

(ウ) 期待できる効果

- 安全への意識が高まり、自分たちの地域を自ら守り、安心して暮らせる環境を作ろうとする意識が生まれる
- 自分たちの街を良くしていこうという意欲が醸成され、さまざまな街の課題を発見し解決していこうという「つながり」が生まれる
- ポールウォーキングをしている仲間意識から、市民同士のつながりを作り出すことができる

- 地域ぐるみで防犯活動を実施することにより防犯意識の向上を図り、町内会で実施している自主防犯パトロールの充実も図ることが可能となる
- 町内会活動のPRにもなり、加入の促進につながる
- 地域の安全・安心と住民自身の健康につながる

(エ) 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後のまちづくりについて  
 多くの人が定期的なパトロールを実施することで、地域の見守り体制が構築され、安全・安心な街になります。同時に、みんなでポールウォーキングを行うことで楽しく運動が継続でき、健康寿命の延伸にもつながります。防犯や健康のモデル地域となれるよう取組を継続していくことが、幸町や志木市のあるべき姿につながると考えます。

#### ④ 活気を生み出す出会いの場づくり

さまざまな世代やさまざまな活動を行っている人たちが、互いに負担にならず、ほどよいつながりを生み出すことができるきっかけとなるよう、出会いの場づくりを提案します。

##### (ア) 概要

健康増進センターを幸町地区の出会いの場・憩いの場として、地域づくりの中核施設と位置付け、地域の人たちが交流できる場をつくる。

##### (イ) 実施効果を高めるため、活動参加者を増やす仕掛け

- 町内会をはじめとする、地域で活動する団体の皆さんの運営によるイベントを、増進センターを会場に定期的実施する
- 幸町のさまざまな情報が集まるウェブサイトの設立や、あえてアナログな方法として物理的な情報掲示板を設置するなど、さまざまな世代にあわせた情報発信を行う
- 現在、年1回のペースで開催している健康まつりに加え、市民との協働でミニ健康まつりを年に1回程度開き、幸町を志木市の健康づくりの先進モデル地域にする

##### (ウ) 期待できる効果

- 地域の人が集う場を整備することにより、そこに訪れる地域の人同士が顔見知りとなり、つながりが生まれるきっかけとなる
- 町内会のイベントの対象地域を幸町全体とすることで、参加者の増加が見込めることや、他の町内会のイベントに参加しやすくなり、幸町地区の住民同士の「ほどよいつながり」の広がりが期待できる

- 町内会等の市民団体と市役所の協働による健康まつりを複数回開催することにより、健康への関心がさらに高まり、他の地域への波及も期待できる
- 自分が生まれ育った街に愛着ができ、自分たちの街を良くしていこうという意欲が醸成される

(エ) 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後のまちづくりについて  
定期的にイベントなどについて話し合える場を持つことで、つながりができ、あいさつが生まれ、地域が活性化します。その結果、地域で孤立しそうな高齢者や子育て世代の見守りができます。さらに、災害時等非常時においては、地域のつながりを活かし、支えあうことができる街が幸町や志木市のあるべき姿と考えています。

(6) まとめ

2年間を振り返って

臼田 孝史 (リーダー)

「普通は中止だよな」というくらい半端ないどしゃぶりの雨の中、地域の人たちと市役所の人たちが力を合わせ、一生懸命準備をしたハッピータウンフェスティバル。激しい雨の中わざわざ足を運んでくれた来場者のみなさんは、子どもも大人もみな笑顔になり「楽しかったね」と言って帰っていきました。地域の人たちがつながることの力を垣間見た瞬間でした。

この2年間、はじめは遠慮がちに話をしていた「幸町地区まちづくり会議」メンバーも、何度も打ち合わせ、時にアルコールを入れ、語り、話し合い同じ目標に向かって歩いていくうちに、自然とつながりが生まれてきました。これこそが私たちが求める、この地域に根ざした、もっと増やしていきたい住民同士のつながりそのものだと思います。「志木に住む」というこのつながりを大切にして、その輪に一人でも多くの人に参加してもらえるように、提言書をまとめました。

「地区まちづくり会議」という場はこれで終わりますが、ここで得た「つながり」は続きます。というよりもむしろ、住民主体の自主的な街づくりはこれから本番で、今スタートラインに付いたばかりです。周りを見渡してみると、ハッピータウンフェスティバルにご協力いただいた団体の他、今年に入ってから新しくできた、柳瀬川図書館を中心に地元の人たちで活動する、「しき図書館パートナーズ」などもあり、地域でつながりたい人が多くいることを実感します。これまでの2年の経験を活かし、地域の人たちを結んでいく活動を今後もしていきたいと思います。2年間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

米倉 典孝 (サブリーダー)

志木に住んで早二十年、地域とのつながりはほとんどありませんでしたが、今回のまちづくり会議に参加して、住民と行政が一緒になって志木幸町を盛り上げて行く過程に参加出来たことは、大変貴重な経験でした。

今後も住民と行政が一体となって、素晴らしい志木へと変わっていくことを祈念しております。

幸町地区まちづくり会議第二期の皆さん、お疲れさまでした。

田中 富士子

地区まちづくり会議に参加させていただき、職員と住民が協働で「幸町」の事を話し合う機会は貴重な体験でした。自分の住んでいる「まち」の良さを感じ、これからも住み続けたいと思います。2年間ありがとうございました。

原 隆之

仕事や子育てに忙しい日々の中、子供たちの将来のことも考えつつ「地域ボランティアをちょっとお手伝い」のつもりで参加した「まちづくり会議」。

住民と行政が協力して「まちづくりを一から考える」作業に、微力ながら参加させて頂き、いろんな人たちと出会うことが出来ました。

幸町でもさまざまな団体・個人が地域活動を行っているを知りました。それをつなげていく「まちづくり」がもっと発展していくと良いですね。

藤原 浩一

いろいろなNPO法人等の皆さんが志木市で活躍されているのを知ることができいい経験になりました。ありがとうございました。

三上 美穂

生まれも育ちも幸町の私にとって、今回まちづくり会議に参加したことはとてもいい経験になりました。

参加する前までは、「幸町は新しい住民も多く、地域活動にはドライな人ばかりなんだろうな」という思い込みがありました。活動をしていく中で新しい発見もあり、住んでいる地域について掘り下げて考えるいい機会になりました。メンバーの皆さまの「幸町愛」もひしひしと伝わり、私自身も前より「幸町」が好きになりました。

今後はみんなの思う「理想の幸町」が実現出来るように、何かしらの形で地域活動に参加していけたらいいなと思っております。

宮原 優

幸町のことを改めて知る機会になり、また、メンバーをはじめ、いろいろな方々との新たな出会いの機会がたくさんあり、そしてなんとと言っても、故郷

「幸町」のことを熱く語り合うことができた貴重な2年間でした。任期は終わっても、この機会をスタートとして、今後もいろいろな形で幸町のまちづくりに関われればと思います。

久保 久仁子 (サブリーダー)

保健師として、健康課題、特にこころの健康や自殺対策を検討してきて、身近な人のサポートがあれば孤立を防ぐことを学びました。更に、まちづくり会議に参加し、この幸町のメンバーのつながろうという思いが人を呼び、この街での安心な暮らしにつながることに気付かされました。すでに地域で活動されている市民の皆さまの暖かい活動に触れ、職員としてかけがえのないものを学ぶことができました。職員、市民の立場を超え、会議の皆さまとの出会いに感謝します。



伴 恭臣

まずは、メンバーの皆さん二年間ありがとうございました。

会議を進めて行くうちに、意見が活発になり、バランスの取れた幸町チームだと思っています。

実際の活動でも、あいにくの大雨ではありましたが、地区の課題である「つながり」をテーマに、ハッピータウンフェスティバルを開催し、予想以上の盛り上がりとなり、たくさんのつながりを経験させていただきました。

私は、志木市で働きながらも、なかなか、志木市に恩返しができなかった思いがありましたが、第二期の地区まちづくりに参加し、少しでもまちをよくしていけたらと市民の皆さんと協働し、距離を縮め、ここでも、皆さんとのつながりができたことを実感しています。

この経験は必ず自分のプラスにしていきたいと思います。

最後に、今回協力していただいた皆さま、本当にありがとうございました。

梅木 秀平

地区まちづくり会議に参加して、これまでにない経験はもちろん、幸町地区の会議メンバーをはじめ、多くの皆さんとの出会いがありました。また、ハッピータウンフェスティバル2017の開催を通して、“繋がり”の大切さ、素晴らしさを改めて実感することができました。私にとって、貴重な財産となったこの2年間の出会いや経験を糧に、志木市がよりよくなるよう、さまざま業務に取り組んでいきたいです。本当にありがとうございました。

樋口 直也

2年間の地区まちづくり会議の中で、幸町地区を良くしたいという熱意をもった方々と知り合え、活動をできたことは、とても素晴らしい経験でした。なかでも職員・住民委員の方々、地域の活動団体・サークルの方々と力を合わせて開催したハッピータウンフェスティバル2017では、それぞれが持っている知識・特技を出し合い、素晴らしい成果物を作り上げることができました。今までにない気づき、学びを得ることができたとともに、達成感を感じることができました。この素晴らしい経験を志木市に還元するため、今後の業務に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

風見 早紀

二年間の地区まちづくり会議を通し、事業を行うこと、何も無いところから検討し形にしていくことの難しさを学びました。幸町地区委員の皆さまと一緒に、理想の街とその為に出来ることを模索し、地域の活動団体にもご協力いただきながら、大変貴重で楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

## 6 館地区まちづくり会議

### (1) 館地区まちづくり会議委員構成

表 6-1 委員名簿

No.	選出区分	氏名	備考	
1	第1号委員	住民委員	大野 和男	リーダー
2			渡辺 浩良	サブリーダー
3			川崎 和夫	
4			菊田 次郎	
5			鈴木 美央	
6			寺内 清高	
7			遠矢 厚久	
8			野村 琢美	
9			宮下 博	
10			和氣 敏夫	
11	第2号委員	職員委員	新井 直樹	サブリーダー
12			清水 陽子	
13			佐藤 潤子	
14			加藤 忠	
15			所 孝樹	

表 6-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	10	9	1
第2号委員	5	3	2

## (2) 館地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

- ◆ 活動拠点 ふれあい館「もくせい」活動スペース「ゆめ」・「みらい」  
(志木第四小学校・北校舎1階 志木市館1-4-1)

館地区のほとんどは、志木ニュータウンの集合住宅で占められており、1979年以降に入居を開始し、これまで計画的な街づくりを行ってきました。既に入居後29～38年程度経過をしており、当時入居した住民の多くは、いわゆる「団塊の世代」と呼ばれる人々です。

現在の館地区の特色としては、住民の高齢化率(65歳以上)がおおよそ40%となっており、志木市内の他地区のそれがおおよそ20%であることと比較しても、かなり高齢化が進んでおります。また、世帯数が殆んど変化しない中で、「団塊のジュニア世代」の流出により、人口がこの20年間でおよそ20%減少してきております。

志木ニュータウンも開発後かなりの年数が経過しました。これまで大規模修繕工事等適切な維持管理の実施により、良好な住環境を維持して参りました。しかし、住民の高齢化と共に建物、設備の経年に伴う課題も目立ち始めてきており、今後この良好な住環境の維持と新たな魅力づくりに向けて、住民自身による一層の努力が必要になってくると思われまます。

第2期の館地区まちづくり会議のメンバーは、住民委員10名、職員委員5名の15名でスタートしました。このような地域活動の経験者は少なかった(現、元を含め3名)ことから、全員で議論をし、理解を深めながら話し合いを進めました。そして、「志木ニュータウンまちづくり懇談会」の設立を目標として活動して参りました。併行して志木ニュータウン関連の情報提供手段としてのホームページ作成の為のワーキンググループを作り、議論を重ねてまいりました。

第2期の館地区まちづくり会議では、第1期の事業実績(住民のアンケート調査や街の未来を考えるシンポジウム)を参考にしながら、志木ニュータウンが抱える共通課題の抽出とそれを実施する組織づくり、住民が必要とする情報の提供やニュータウンの魅力を広く世間に伝える手段としてのホームページ作成といったことに取り組みました。



図 6-1 柳瀬川と志木ニュータウン

(3) 館地区の課題について

◆ 志木ニュータウン全体が抱える共通課題の抽出にあたっては、まちづくり会議第1期で実施した住民アンケート調査結果等を踏まえ、メンバー全員が、それぞれ何が課題として考えられるかを発表し、次のような視点から検討を行いました。

- ・この街の将来のために・・・・・・・・
- ・ニュータウン全体の資産価値の維持・向上のために・・・・・・・・
- ・活気あふれる街にするために、・・・・・・・・
- ・高齢者にも若い人にも住みよい街にするために、・・・・・・・・

1) 住み慣れた高齢者が引き続き志木ニュータウンに住み続けられるように

- ・今後増加が見込まれるデイサービス車両の駐車スペースの確保が必要  
(駐車区画の街区共用化等の施策検討)
- ・町全体のバリアフリー化(歩道段差、建物入口、視聴覚障がい者への配慮、他)
- ・高齢者への地域のフォロー:市の施策との連携(ふれあい館「もくせい」などのさらなる活用策)
- ・エレベーターのある住棟への住み替えが簡易にできる仕組みを考える
- ・高齢者が家に引きこもらず、外で活動できる場を増やす。そのために市からの新しい支援体制を構築する

[具体案の例] ~老人クラブ立上げプロジェクト~

高齢者が参加しやすい企画や団体を増やす。まずは、館地区で老人会を持っていない街区に設立時の支援事業を企画実施する。まだ、老人クラブがない4街区に既存街区が設立奨励する企画を関係団体と一緒に検討し、実施する。

2) 子供が少ない・・・若い世代に住みよい街：子育て世代の入居の推進

- ・若い世代に手頃感のある住宅中古価格で提供されている
- ・子育て環境(保育、教育、子供の安全な遊び場)が充実している
- ・若い人が魅力を感じるお店の誘致が必要
- ・志木ニュータウンを故郷と感じている第二世代の地域おこし活動に対する地域支援のしくみづくりが必要
- ・志木ニュータウンの魅力を外部へ情報発信し、新規需要層の掘り起こしが必要
- ・「小中一貫校」(小学校1年生から中学校3年生まで、9年間を一貫して教育する志木二中校区をモデルとする2016年に制度化された市の提案事業)に、地域組織「志木ニュータウンまちづくり懇談会」などが参画できる仕組みが必要
- ・民間開発ニュータウンの住民による再生モデルケースとして社会的注目を浴びれば、資産価値の維持・向上につながるのではないかと

- 3) 犯罪の抑止
- ・ニュータウン全体でのバランスの取れた防犯照度の確保（町内会の防犯パトロールと管理組合の外灯（防犯灯）施設計画の連携）
  - ・ニュータウン内犯罪情報（自転車の盗難など）の即時共有の仕組み
  - ・志木市の防犯カメラ設置を志木ニュータウンとして支援する
- 4) ペアモール商店街のシャッター通り化（店舗の撤退、空き店舗の増加、賑わいの喪失）
- ・ペアモール商店街を地域住民のコミュニティの拠点エリアにしてはどうか
    - 地域住民の作品の展示販売（棚ショップ）
    - 情報発信・提供（地域のチラシ・ポスター、HP発信）
    - イベント・小講座の開催
    - 地域フェスタの開催事務局
    - （出典資料：2016年3月の館地区まちづくり会議1期のシンポジウム資料より）
    - 既存の活動の発展：ペアモール商店街企画イベントとの連携や、「東上フォーラム」等のNPO法人、「スペースわ」等の市民活動との連携
  - ・将来、建て替え構想が現実的になってきた場合の意見交換の場（何を建てたいのか／何が建ってほしいのか）
- 5) 志木ニュータウン内道路の交通安全問題、自転車・歩行者マナー問題
- ・志木市が呼びかけた「市」「管理組合」「町内会」の意見交換の場（実績あり）の今後の継続
  - ・自転車交通に対する志木ニュータウン内統一ルール（遊歩道での乗車通行など）
  - ・公道の道路標識・横断歩道表示や路面の劣化に対する意思統一された行政への改善要求。（テーマに限らず、行政は統一された要求には動きがいい）
- 6) 柳瀬川氾濫や異常降雨時内水洪水による浸水の不安
- ・柳瀬川水位の上昇に対する志木ニュータウン全体の対策の具体化と行政への意思統一された要望
  - ・水害時避難指定場所（志木三小）への実際の避難ルートの実現性と課題に対する共通認識
  - ・敷地内冠水対策：日常の道路清掃（排水口の詰まり除去など）のボランティア活動（昔からの「町内会どぶ掃除当番」制度など）の設置。行政の目の届かないところは地元活動が優位。

- 7) 志木ニュータウン内の公共公園の整備と運用・活用
- ・館近隣公園（連合会主催「森の祭り」会場）の植栽整備に関しては、町内会連合会の呼びかけにより、「管理組合（一部）」「町内会」と「市」の定期的会合を開始（実績あり）
  - ・公園の近隣住民による清掃・高木以外の剪定などの簡易植栽整備を通じてのボランティア団体の形成。また、ボランティア活動を通じての学校・町内会・管理組合等のネットワークを構築する。
- (4) 課題を解決に結びつけるための事業について
- ◆ 志木ニュータウンが抱える前述の共通課題を解決するために、検討の結果次に掲げる二つの事業を実施することにしました。

1) 「SNT まちづくり懇談会」（仮称）（以下「懇談会」）の設立を目指す。

志木ニュータウンには、8つのそれぞれの街区に住民の代表である管理組合と地域共助の要である町会、町内会の組織があり、管理組合と町会、町内会が両輪となって活動していますが、全体16団体で構成する横断的な組織はこれまでありませんでした。

そこで、志木ニュータウン全体のこれからの共通課題への迅速な対応や、より安全、安心に暮らせる魅力あるまちづくりについて話し合う場である懇談会に参加をして頂くために、この16団体に対して、懇談会設立の趣旨について「別紙」により説明することから始めました。

その結果、先ず昨秋10月に懇談会準備会を立ち上げ、管理組合7団体、町会、町内会8団体の合計15団体に参加を頂き、懇談会準備会をスタートさせることが出来ました。この懇談会準備会では、懇談会設立のための議論を重ね、懇談会の形を作ることが出来ました。

以上の様な経過を踏まえ、この2月25日に「第1回 志木ニュータウンまちづくり懇談会」を設立、開催しました。

今後懇談会の運営にあたっては、第2期のまちづくり会議委員が、引き続き懇談会事務局として支えていくことになりました。



図 6-2 志木ニュータウンまちづくり懇談会

## SNTまちづくり懇談会（仮称）の設立趣意書（案）

館地区まちづくり会議第二期

この設立趣意書（案）は、館地区まちづくり会議（文末参照）が、SNTまちづくり懇談会（仮称）（以下「懇談会」）の主体となることを期待している志木ニュータウンの8管理組合、8町内会に提案の趣旨を説明するものです。

## 1. 目的

志木ニュータウン全体のこれからの共通の課題への迅速な対応や、より安全、安心に暮らせる魅力あるまちづくりについて話し合う場を設立します。

- ① 志木ニュータウンに関連する情報や各コミュニティの活動を発信するホームページを作成して、志木ニュータウンに住む人々に必要な情報を提供します。
- ② 高齢者が安心して生活を楽しめる環境整備を図ったり、地域で子育て支援が出来るような仕組みづくりを考えたり、大規模災害時における共助体制の組織化といった事について検討します。

## 2. 背景

志木ニュータウンは、1979年以降（昭和54年～昭和63年）に入居を開始し、これまで計画的な街づくりを行ってきており、既に入居後37～28年程度経過しています。65歳以上の方の割合は約35%で、60歳以上では約47%となっていて、10年後の65歳以上の方の割合は約53%と約半数の方が65歳以上となることが想定されています。

今後このまま推移していくと、自治の担い手が不足し、街全体の課題も解決されないまま活気が失われた街になるかもしれません。

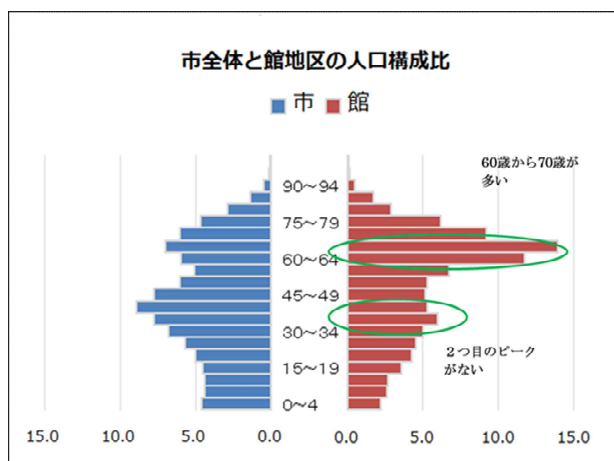


図 6-3 市全体と館地区の人口構成比

## 3. 組織

組織の主体は、あくまで志木ニュータウンにお住まいの方全員です。懇談会では、まずは住民の代表である各管理組合の代表と「地域共助」の要である町内会の代表を中心とした総会で、志木ニュータウン全体の共通の課題を話し合います。決定権はありませんから、総会で議論したことは各街区に持ち帰って頂き、各街区の



## 別紙

総会で検討して頂き賛成多数の場合、はじめて決定事項になります。総会の下部組織として、各課題の専門的な事項を調査・検討・諮問したり各街区からの相談を受け付ける常設部会や特別委員会を設置することができます。常設部会や特別委員会の委員には、各街区の住民の中からそれぞれ専門的知識を持った方を推薦して頂きます。

懇談会では、ホームページを立ち上げ志木ニュータウンに住む人に必要な情報を提供します。事務局は、懇談会の運営サポート、ホームページの管理などを行います。

事務局のメンバーも総会で決めていただきます。

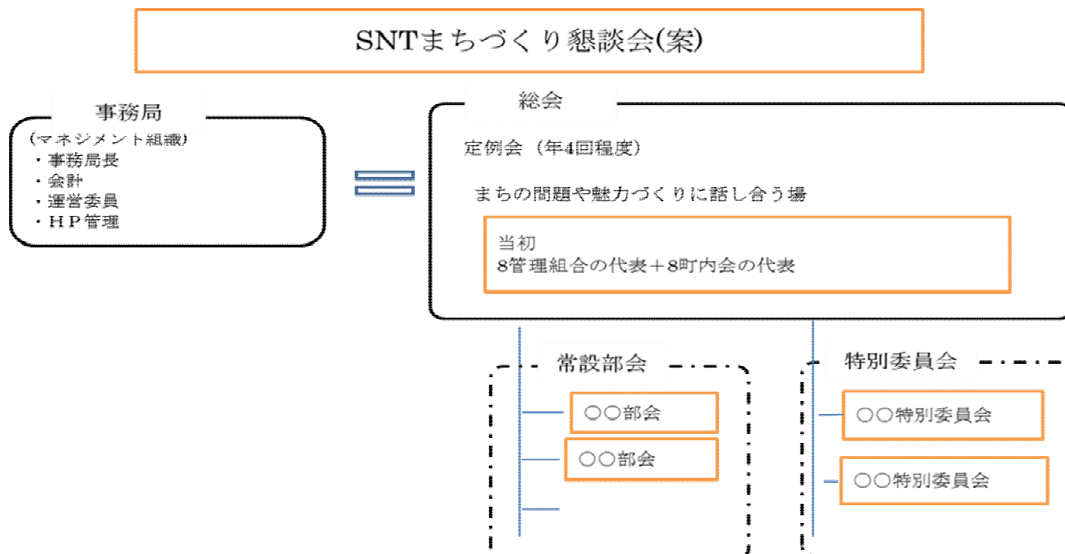


図 6-4 SNTまちづくり懇談会イメージ図

#### 4. 運営

運営は基本的にボランティア活動です。

#### 5. 館地区まちづくり会議の関わり

- ・ 8管理組合、8町内会への懇談会設立の働きかけ
- ・ 懇談会の仕組みづくりの協力支援（事務局の初期業務代行：平成30年6月まで）
- ・ ホームページの立ち上げ（館地区まちづくり会議に関わる事業費の活用）

#### 館地区まちづくり会議について

志木市では、平成26年度から『市民の声がしっかりと市役所に届く仕組み』を実現するため、市内を7地区【上宗岡・中宗岡・下宗岡・本町・幸町・館・柏町】に分け、市民の皆さんと市職員がいっしょにまちづくりを考え、進めるため、それぞれの地区に「地区まちづくり会議」を設置しています。平成26年度から平成27年度には、第一期の活動で住民アンケートやシンポジウムを行い、志木ニュータウンにお住まいの方の意見を広く集めました。その結果、このまちに可能な限り住み続けたいが、「将来、空家、空き店舗が増加し街に活気がなくなる」、「バリアフリー化してもらいたい」などの意見がでました。

平成28年度から始まった第二期（平成30年6月まで）では、これを受けて志木ニュータウンが今後とも魅力ある街であり続けるためにどのようにすればよいか、共通の課題について、これまで議論してまいりました。そして、「志木ニュータウンまちづくり懇談会（仮称）」の設立を提案することにいたしました。

2) 志木ニュータウン全体の各種情報交換の場として、ホームページを立ち上げる。

志木ニュータウンに生活する人々にとって、必要な情報や各コミュニティの活動についての情報を発信し、さらに志木ニュータウンの魅力を外部に積極的に発信するホームページを作成、必要な情報を提供します。このことにより、各街区間での各種情報を共有出来ることになり、志木ニュータウン全体の一体感の醸成に寄与出来ると共に子育て世代を中心とした若い住民の誘致が出来ると思っております。

そこで、まちづくり会議の中に、ホームページ作成のワーキンググループを作り、先ずは作成の為にコンサルタントの選定から始めました。

次に、提供する情報内容、「まちづくり」、「子育て」、「シニア」、「防災」等といった必要な情報の整理をしました。

その後、コンサルタントと協議を重ねホームページ「志木ニュータウンLife」を立ち上げることが出来ました。今後ホームページの維持管理にあたっては、懇談会事務局が実行していくことにしております。



図 6-5 「志木ニュータウンLife」のトップページ

また、ホームページには「志木ニュータウンの魅力とは？ 今と、これからを語る座談会」と題して街の人に志木ニュータウンの魅力について語っていただいたものを掲載しています。



図 6-6 座談会の様子

### 3) 事業予算

当初予算額：1,000,000 円 執行額：639,632 円 不用額：360,368 円

〈 支出内訳 〉

・消耗品費	20,122 円	・印刷費他	350 円
・使用料及び賃借料	11,920 円	・食糧費	3,851 円
・委託料	602,424 円	・通信運搬費	965 円

### 4) 事業を終えての感想

・懇談会設立に向けて、先ず懇談会準備会を立ち上げました。16 団体（8 管理組合、8 町内会）全てにご案内を出し、各委員が手分けをして説明にお邪魔しました。その結果、15 団体の方々にご参加を頂きました。今後引き続き残り 1 団体についてもご参加頂けるように努力をしていきたいと思ひます。

今期の活動を通して、この志木ニュータウンには、いろいろな知識知見をお持ちの方々が沢山お住まいだということが分かりました。今後は、お住まいになっておられる皆さんの知識知見を有効に活用出来るような懇談会の運営を目指して行きたいと思ひます。

## (5) 夢のある地区まちづくりに向けた提言

館まちづくり会議(第1期)は、あるべき姿について住民の意見を聞いてみることであり、アンケートとシンポジウム&ワークショップをふまえて提言を記されました。第2期は、その提言をベースとして、「志木ニュータウンまちづくり懇談会(当初は協議会)の設立」をメインテーマとして活動してきました。

そのなかで、第1期からのやり残しも含め、次の5点を提言します。

### 1) 懇談会と志木市との間に情報交換のチャンネルを構築

#### ① 課題を解決に結びつける方法や手法

街区という垣根を超えて、志木ニュータウンに居住する人々全員で、今後の共通課題等に対応していく懇談会という組織を作ることが出来ました。また、ここ志木ニュータウンに住まう人々の情報交換のツールとして、ホームページを立ち上げることが出来ました。

この懇談会を通して、共通課題解決の為に検討を行い、その結果を実施していく。また、その検討過程等については、ホームページ等を通じて住民の皆様へ情報提供をしていくことにより、より迅速な対応が可能になると思います。

これらのことから、志木ニュータウンに居住する全員の方が、同じような問題意識を共有出来るようになり、その結果この街をより良くしていこうと思う一体感の醸成に寄与するものと思います。

我々の生活は、志木市の行政サービスと密接なつながりをもっております。今後は、志木市と懇談会を通して連携を取りながら、必要な情報収集を行い、住民の皆様へ提供していくことが出来ると思っております。さらには、懇談会を通して志木市と志木ニュータウンとの情報交換や行政サービス提供の支援も出来るのではと思っております。

今後、まちづくり会議が終了した後も、懇談会と志木市との間に情報交換のチャンネルを構築したいと思っております。お互いにとって必要な情報の交換をしながら、志木ニュータウンが子育て、教育、高齢者、防災等といったことについて、地域の核になるような機能を発揮できるように、志木市と懇談会が適切な連携を取りながら、共通課題等の解決に向けて努力をしていきたいと思っております。

#### ② 期待できる効果

これまで市は、住民のニーズを完全に把握することが難しく、また解決策についても平等性を重視するあまり地域性に配慮することが難しい状況にありました。また、住民側にとっても課題を解決するための行政側の知識などが乏しく、その手法についても手探りで進めていかなければならず非常に時間のかかるものとなっていました。

今回、懇談会で取り扱う共通課題について、志木市の関連部署の職員の方と情報交換をし、場合によっては懇談会に市の職員が参加してもらうことによって課題解決の内容がより住民のニーズに合ったものになり、課題

解決までのスピードアップが期待できます。

2) 館地区高齢化対策として ” 高齢者対応相互協力のしくみ ” をつくる。

① 課題を解決に結びつける方法や手法

市内の他地区に比べて一段と高齢化がすすむ館地区においては、介護の必要な状態になることを予防する施策が早急に求められています。高齢者が家からでて話をし、地域の方と一緒に活動することは、心身の健康維持に重要です。ニュータウンではいろは百歳体操の通いの場が4カ所発足し、活動しています。また、老人会活動、サロン活動や同好会が活発に行われていますが、街区によるばらつきも見られます。団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年を迎える前にニュータウン全体として高齢化対策の基盤を作っておかなければなりません。

発足した「志木ニュータウンまちづくり懇談会」において、先進的な活動をしている地域や志木ニュータウン街区の事例を水平展開し、また、HP「志木ニュータウンLife」に作った「シニア」のページにより、高齢者の皆さんに老人会活動やサロン活動を紹介して参加を呼びかけると共に、介護が必要になった場合の対応についても判り易い情報発信を行います。

② 期待できる効果

志木ニュータウンの建物や敷地に共通したバリアフリー化の推進などのハード面の改善による住環境の質の向上と共に、高齢者が世代間交流も含めた安全で楽しく過ごせる地域コミュニティの強化によって高齢者自身の生活の質の維持向上を図る事により長寿社会を享受出来るように、一方、志木市にとっては高齢化社会のモデル地区として、今後の高齢化社会に関する行政サービス内容の検討に資すると共に、介護保険をはじめとする高齢化対策経費の削減が期待できます。

3) 若い世代に魅力をもってもらうための地域全体での子育てを支援する。

① 課題を解決に結びつける方法や手法

志木市は、教育に熱心な街として有名であり、特に志木ニュータウン地区は、保護者の教育意識の高さや、優れた学校運営とも相俟って教育環境に優れた街との評判が高いとされています。しかしながら、近年は何処のニュータウンでも同じ問題を抱えています。高齢者の増加に反比例して子供が減少傾向にあり、街の活力が失われつつあります。

そこで、若い世代が、このニュータウンで生活をしたい、子育てをしたいと思って貰えるような魅力を持った街にするためにどうしたら良いか、例えば、このニュータウンには、経験豊かで知識の豊富な方がたくさんおられます。この人達を、地域の財産として生かしていくために、分野別の人材登録制度を立ち上げてはどうかとおもいます。

志木市では、新たな教育制度の実施に向けて色々と検討を始めていますので、その検討の際に併せて教育実施機関での市民力の活用についても検

討してはどうかと思います。

② 期待できる効果

小中学校のカリキュラムを編成する時に、登録して頂いた分野に沿った科目の中に住民講師の時間を入れて貰い、普段生徒達が経験することの出来ない知識を得ることにより、将来の進路検討の一助となるのではと思います。

また、人によっては、部活のお手伝いを出来るような方もおられるでしょうから、この場合には、先生方の時間的な面での負担を減らしてあげられると思います。

4) 公園を活用した子育て世代の居場所づくり

① 課題を解決に結びつける方法や手法

地域内に子育て支援センターや児童館がなく、子連れで行くことができる商業施設や飲食店が少なく、子育て世代からは居場所の少なさが指摘されている。一方で、館地区は公園が多い。また、公園に来ている親にアンケート調査を行なったところ、公園でコミュニティが形成されることが分かった。大規模なハード整備は大きな投資を必要とするが、公園の快適性を高めることで、公園を地域の親子の居場所とすることができる。可動式の椅子の設置(例・東遊園地、神戸市・ブライアントパーク、ニューヨーク市)、樹木やパラソルによる日陰の確保、机と椅子のセットの設置を行う。デザイン性、機能性の高い什器を戦略的に配置することで、公園から地域のイメージを一新することができる(例・南池袋公園、豊島区)。

また、コミュニティ形成の場としての公園は、幼児から高齢者、障がい者までが利用できるようなバリアフリー化も同時に実施することにより、その機能を十二分に発揮することになる。

② 期待できる効果

公園を地域の居場所とし、公園でのコミュニティ形成を促進する。公園が多い、館地区ならではの魅力が形成され、住民が誇り持つまちになる。

志木市が進めている公園のバリアフリー化事業と合わせて、多機能化することにより、ソーシャルミックスが可能な公園事業が展開できる。

5) 館近隣公園の植栽に関する市と地域の共同管理

① 課題を解決に結びつける方法や手法

館近隣公園は市内で大きな公園に属し、その緑は志木ニュータウンの景観を形成する大きな要素のひとつである。市は定期的に清掃・草刈等の日常管理を行っておりそれなりに良好な状態は維持されている。しかし、大規模公園故に高木も多く隣接する街区の住棟や街区の植栽に影響を与え、景観を維持しながら同時に適切な剪定が必要である。平成28年3月に志木ニュータウン町内会連合会と隣接管理組合は市の担当課に要望書を提出し、相互協力を申し合わせている(本報告書(3)7)項を参照)が、安定的に継続した活動に至っていない。近隣には、個人的に草むしりや低木の剪定をするボラ

ンティアも在住する。今回発足した「志木ニュータウンまちづくり懇談会」の下部組織として、有志住民による植栽管理団体を形成し、市の担当課との協働で公園の植栽を管理する組織を作る。軌道に乗れば域内の他の公園にも拡大する。

② 期待できる効果

地元の意見を反映した植栽管理が安定的に継続して行わる。単年度の管理ではなく長期的な観点を持った管理計画が重要である。活動は、地元住民特に高齢者のコミュニケーションの場になる。市にとっては、日常的清掃などの経常予算を削減でき、あるいは、定期的な高木整備予算の投資効果を最大化できる。

(6) まとめ

◆ 2年間の任期を振り返っての感想

(順不同で、委員一人一人が2年間の任期を振り返っての感想を掲載)

- 町内会、管理組合などで地域活動された方が少なかった。その方々が、このまちづくり会議に参加されたことで、今後の町内会、管理組合に理解を深められ、活動することを大いに期待します。第1期では、まちづくり会議活動を通じ、幸町まちづくりのメンバーと四小「もくせい」運営団体ができました。今回も、これを契機に地域のための活動ができればいいなと思います。
- 各街区から集まった10名の住民委員は、志木ニュータウンが好きな人ばかりでした。5名の職員委員と共に、志木ニュータウンの未来について熱い議論を重ね、懇談会の設立に至ったのは大変大きな成果であると思っています。今後もこの仲間たちのとのつながりを大切にしたいと思っています。
- 志木ニュータウンの将来をデッサンしていく上で、また行政との連携を深める上で、ニュータウンの全体レベルで管理組合と町内会が同じテーブルで議論できる環境を創設できた意義は大きいと思います。  
地域活動の素人ではあったが、他委員の皆様の忍耐と寛容に支えられ、まちづくり会議に参画できたことに御礼申し上げます。今後のまちづくり懇談会盛会のためには、地域活動の経験が豊富な方々が更に参画下さることを希望します。
- 今後の志木ニュータウンの人口構成をみると、日本の縮図ともいえる高齢化と少子化が進みます。その時代背景に潜む課題の解決にあたっては、各街区単位の理事会・町内会対応では、限界があるとおもいます。特に防災、防犯対策、街区のバリアフリー化は、志木ニュータウン全体で取り組まなければ、効果的な対策は実施できません。  
今度、立ち上がった街区横断的な「志木ニュータウンまちづくり懇談会」は、時機を得たものです。今後は、志木ニュータウンが抱える身近な課題の解決に微力を尽くしたいと思っています。
- 第1期、第2期まちづくり会議の活動が、志木ニュータウン全体の住民活動として発展できそうなところまでできています。地域の特徴をとらえたまちづくりが継続して進められるように今後も協力していきたいと思っています。
- 志木ニュータウンに住んでおよそ30年になりますが、地域との関わりを持ちながら生活をしたのは初めてです。これまでのまちづくりへの関わりについての経験の殆どは第三者的な立場でしたが、今回は当事者としての関わりになりました。誰しも自分の住んでいる住宅、街を良くしたいと思う気持ちは同じとの思いでこの2年間参加しました。折角出来た懇談会です、みんなで大事に育てていきたいと思っています。
- 地区の課題解決に向け委員の一人一人の熱い地域愛、また、委員以外の方々と接する機会ができたことで、地区の新たな発見もできました。この2年間、貴重な経験をさせていただき感謝いたします。ありがとうございました。



- 担当した当初は長いと感じていましたが、研修から始まり、会議を重ねていく間の時間の流れは早かったようにも思います。  
その中で館地区独特の地域性や志木ニュータウンへの思いを知っていくうちに、市民の声を聴く機会を与えられたことは貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- 2年間みなさんと一緒にまちづくり会議に参加し、とても貴重な経験をさせていただきました。まちづくりに対するみなさんの熱い思いを身近で感じ、また様々な分野で活躍されているみなさんの幅広い知識に学ばせていただくことが多くありました。みなさんとの出会いと今回の経験を活かし、今後の業務に役立てていきたいです。2年間ありがとうございました。
- 私は、このまちづくり会議でHPの作成に携わりましたが、館という町をより知ってもらえるように工夫されたHPを見て、館に住んでいる方々の地域愛を感じることができました。ここで得た知識・経験を市での業務にも役立てていきたいと思えます。
- 館地区は、団地を管理する管理組合や町内会あるいは町会等があり、当初はそこから勉強しました。会議の中で、その管理組合と町内会（町会）との情報交換の場として、懇談会をつくりたいというのは、画期的と思いつつも、各代表の調整が大変になるだろうと思っていました。その中で、様々な意見を集約して形にできたのは、委員皆様の力添えの賜物と実感しております。ありがとうございました。
- いろいろな世代の方や考え方の違う方などとも議論ができて楽しかったです。懇談会で知り合った方などとも街で見かけるとあいさつをしたり、自分の幅を広げることができました。ありがとうございました。
- プロジェクトの内容、予算の執行をコンセプトから細部まで委員たちに委ねたまちづくり会議は、よくある形だけの住民参加とは全く違う、素晴らしい取り組みだと思います。各地区の特色が現れたことに加え、委員が責任を持って活動する中で、委員同士の信頼関係が生まれ、その人との繋がりこそが地域活動において重要な意味を持つと思います。私自身にとってもそれが何よりの収穫でした。
- 志木ニュータウンには38年間居住しておりますが、管理組合委員、町内会役員等をそれぞれ1回経験したものの順番での持ち回りでもあり個人として中々参画することが難しい状況でした。今回委員に委嘱され各街区の専門性の高い皆さんと共通のテーマを検討・議論することができ、志木ニュータウンの一住民として漠然と抱いていた課題がより明確になり、今後更に課題解決に向けた取り組みが必要と感ずることができました。今回設立された懇談会をどう機能させるか、運営して行くかまだまだ課題があるかと思っておりますので、志木ニュータウンの発展、より住みやすい環境整備に向けて微力ながらも活動して行きたいと思っております。

## 7 柏町地区まちづくり会議

### (1) 柏町地区まちづくり会議 委員構成

表 7-1 委員名簿

No.	選 出 区 分		氏 名	備 考
1	第1号委員	住民委員	國分 学	リーダー
2			尾上 元彦	サブリーダー
3			小泉 昭次	
4			佐藤 麻世香	
5			嶋田 和彦	
6			竹前 栄二	
7			鳥海 正徳	
8			林 啓介	
9			林 靖人	
10			山口 美智江	
11	第2号委員	職員委員	桜谷 玲子	サブリーダー
12			柳下 豊	
13			福島 楓	
14			竹原 潤	

表 7-2 委員の構成 (選出区分別、人数、男女別人数)

選 出 区 分	人 数	男 性	女 性
第1号委員	10人	8人	2人
第2号委員	4人	2人	2人

(2) 柏町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

① 柏町地区の特色

柏町は志木市の西側に位置する住宅街です。町の北側には柳瀬川が流れており、その土手沿いでは春になると木々に美しい桜の花が咲きほこる自然豊かな環境です。また志木市の中でも歴史的文化財が多く残されています。近年は大型マンションが建設され、住民が増加しています。



図 7-1 柳瀬川土手沿いの桜と宝幢時

② 柏町地区まちづくり委員構成及び、活動概要（開催場所・開催頻度）

a 柏町地区まちづくり委員構成

柏町地区まちづくり会議は、委員の年齢層が幅広く 20代から 80代までの 14人の委員で構成されています。

表 7-3 柏町地区まちづくり委員 年齢構成（平成 30 年 5 月時点）

	年齢							合計
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	
委員数	2	1	3	4	0	3	1	14

b 活動概要（開催場所・開催頻度）

➤ 開催場所

定例会議は主に市役所の会議室にて実施しました。

➤ 開催頻度

定例会議は月に 1 回、奇数月は日曜日の午前、偶数月は水曜日の夜間に実施しました。幅広い年齢の委員が集まりやすいように開催時間を工夫しました。

また、会議は「原則 2 時間以内で終わるようにすること」と、「他の委員の言うことを否定しない」をルールとして実施しました。

### (3) 柏町地区の課題について

#### ① 柏町の現状把握と課題抽出

##### ➤ 全体研修会

「地区まちづくり会議」委員全体研修会において、市民主導・参加型のまちづくりの手法として「協働」によるまちづくりについて学びました。

理想とするまちの「あるべき姿」と「現状」のギャップを「課題」として抽出し、項目ごとに分類しました。これら分類された課題に対して、現時点で既に行われている取り組みを各委員にて出しました。

表 7-4 全体研修での現状把握と課題抽出結果（一部抜粋）

テーマ	交流	防災・防犯	近所の人を知らない	観光	場所・施設
課題要素数	17	7	7	6	6
取り組み数	4	1	2	6	2

柏町の課題として住民同士の「交流」が少ない、「近所の人を知らない」というコミュニケーションが希薄であるという点が多く指摘されました。また様々な課題が指摘されたなかで、いろいろと取り組みが実施されているものの「観光」に関して資源（歴史・自然遺産）をうまく利用できていないという意見が出ました。



図 7-2 全体会議での様子

##### ➤ 定例会議

定例会議において、まず柏町の現状や課題について共通認識をもてるよう、委員皆で柏町内を練り歩きました。まち歩きを実施することで、全体研修で挙がっていた点を再確認するとともに、新たな気づきも得ることができました。また、共通認識がもてたことで、その後の定例会議でも話し合いをスムーズに進めることができました。

「全体研修会」、「定例会議」及び「まち歩き」を通して共有した「柏町の現状と課題」は次ページのとおりです。

#### <柏町の現状と課題>

- 多数の大型マンションが立ち並び、住民が急激に増加している。
- 特に旧住民と新住民との交流がなく、近所に住んでいても顔さえ知らない。
- 歴史・文化スポットが多数存在するが、その存在はあまり知られていない。
- 自然豊かな環境である。
- 川が近く、水害が発生する可能性がある。
- 一部地域（特に戸建て）で空き家が増加し、防犯面での悪化が懸念される。
- 住宅街のため、人が集う場所・施設が少ない（特に子供向け施設）。

「柏町の現状と課題」を確認したところで、委員が理想とするまちの在り方について、定例会議にて議論しました。

#### <理想のまちについて>

- 旧住民と新住民が交流し、お互いの顔がわかる。
- 歴史・文化スポットがあることを認識し、住民が町の理解を深める。
- 自然豊かな環境を利用し、豊かな生活を行う。
- 犯罪や自然災害がなく、安心して暮らせる。
- 人が集う場所が多く、住民の交流が活発である。

#### ② 具体的取り組み

具体的な取り組みとして、まず「まちづくり委員自身が柏町への理解を深めること」及び、まちづくりの成功事例を参考とするために「他の市町村への取り組みの視察」の2つを実施しました。

#### ◆ 取り組み（その1）

「まち歩き」にて確認した柏町の「歴史・文化遺産」について、各委員が文献等により調査した結果を持ち寄り、委員全体で歴史・文化遺産への理解を深めました。

表 7-5 柏町の歴史・文化遺産の一覧

歴史・文化遺産名称		
千手堂	チョウショウインハタザクラ	宝幢時
行屋稲荷	埋蔵文化財保管センター	城山貝塚
舘氷川神社	柏の城跡	-

◆ 取り組み（その2）

新住民の増加の課題に取り組んでいる他の市町村の取り組みを学ぶため、定住化に向けた市の取り組みが盛んである流山市を視察しました。

視察では、流山市職員から流山市の取り組みについて説明・質疑応答をさせて頂く機会を頂きました。また市民ボランティアによる市内ガイドツアーに参加し、流山市内を視察しました。

表 7-6 流山市の取り組みと視察で学んだこと

流山市の取り組み	視察で学んだこと
「母になるなら、流山市」というキャッチフレーズを設定。定住人口を増やすため、「子育て世代の共働きから選ばれる街を目指し、若い女性をターゲットに人気の観光情報誌「ことりっぷ」とタイアップし、観光ガイド冊子を作成	誰に対して働きかけるかターゲットを明確にする。その世代にあったアプローチが有効であることを認識
市民ボランティアによる市内ガイドツアーを実施。ボランティアの方々が自主的に流山市の事を学びツアーに利用している状況を視察	市民参加型のまちづくりの重要性を再認識
蔵をカフェとして再利用している現場を視察	文化財を活用した取り組みの有効性を認識



図 7-3 流山市視察



図 7-4 流山市視察風景

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

事業名：「歩いて知ろう！柏町カップ伝説ツアー」

① 事業コンセプト

増加している新住民をターゲットとして、歴史・自然遺産を通して柏町の魅力を知ってもらうこと、また旧住民と新住民の交流を促すことをコンセプトにしたまち歩きイベント「歩いて知ろう！柏町カップ伝説ツアー」を事業として行うことに決定しました。

表 7-7 事業コンセプト

項目	概要
対象	新住民がメインターゲット
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 柏町の魅力を知ってもらう</li> <li>- 旧・新住民の交流を図る（地域交流の活性化）</li> </ul>
手法	歴史・自然遺産を利用した参加型のイベントを開催
参加人数	100名程度（柏町在住者限定）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 「地元野菜とお米の詰め合わせ」を参加賞として設定</li> <li>- まち歩き後、柏町住民の交流会を設定</li> </ul>

② イベントに向けた準備

まずイベント開催に向けて、イベントをいくつかの要素に分割し、委員を複数の班に分けて担当する委員を決めました。各班が事前に検討した結果を定例会議にて報告・再検討していく形式をとりました。会議を増やし、委員1人ひとりの負担が増えることがないように配慮しました。

表 7-8 イベント準備内容と役割分担

項番	内容	担当委員（敬称略）
1	募集チラシ・まち歩きマップ作成	嶋田、林靖、林啓、福島
2	イベント告知方法検討	山口、竹原、（桜谷）
3	コース検討	小泉、柳下
4	ゴール地点企画検討	佐藤、尾上、（國分）
5	受付・募集	鳥海、桜谷、竹原
6	外部組織への調整等	竹前、國分、（山口・桜谷）

- 項番1：募集チラシ・まち歩きマップ作成  
イベント募集チラシ及び、まち歩きマップを作成しました。

➤ 募集チラシ

委員がデザインしたカップのมาสコットを利用するなどし、見て楽しく参加したくなるようなチラシを作成しました。特に応募方法についてわかりやすくなることを意識しました（実際に作成したมาสコットとチラシについては、「図4 委員がデザインしたมาสコットとチラシ」を参照）。



図 7-5 委員がデザインしたมาสコットとチラシ

➤ まち歩きマップ

まち歩きの際に利用するマップは、「具体的取り組み（その1）」にて各委員が文献にて調査した各歴史・文化遺産に関する調査結果をベースに作成しました。更にコンパクトに折りたためる形状とし、用紙サイズや文字サイズを選定しました。（実際に作成したまち歩きマップは、「図5 まち歩きマップ（表・裏）」を参照）。





図 7-6 まち歩きマップ (表・裏)

● 項番 2 : イベント告知方法検討

作成したチラシを多くの方に見て頂くために配布・告知方法の検討をおこないました。配布・告知方法は、「広報しきへの掲載」、「かしわなホットプレスへの掲載」、「新聞の折り込みチラシ」、「市内各施設での配布」としました。

● 項番 3 : コース検討

コース検討にあたり、参加人数 100 名と想定し、集合出発地点を 2 か所、合計 4 班に参加者を編成する形としました。ゴール地点を「クラブ中野」と定め、異なるスタート地点から別のコースをたどりつつも、最終的にはほぼ同時に到着するよう、ルート（距離）、時間配分について検討しました。

まず、事前のルート検討では、実際に国土地理院の正確な縮尺地図を求め、コースの距離を計算しました。次に想定通りの時間で各目的地を移動することが可能か、実際に歩いて確認しました。その際の歩く速度は、高齢者やベビーカーの利用者がいる事を考慮しました。最終的に、参加者の方々に柏町の歴史・自然遺産を満喫してもらうこと、また安全にまち歩きするためのコースを選定しました。

● 項番 4 : ゴール地点企画検討

ゴール地点にて柏町の住民同士がコミュニケーションを図れるよう「交流会」を企画しました。

小さい子供やからだの不自由な方に配慮して、まち歩きに参加できない人も参加可能とし、以下 3 つのイベントを実施しました。

1 つ目の企画として、まち歩き参加者に「非常食用炊き込みご飯・地元野菜をつかった豚汁」、ゴール地点イベントのみの参加者を含めたすべての参加者を対象に「綿菓子・ポップコーン」を提供しました。

2 つ目の企画として、「志木市・柏町に関するクイズ大会」を開催しました。

クイズ大会では、まち歩きにて訪れた「歴史・自然遺産に関する内容」や「志木市に関する内容」を題材にしたクイズ40問を事前に用意し、柏町に店舗を構えるお店にて提供されている商品を景品としました（はたさくらまんじゅう、どき土器クッキー、カレーパン、カッピーラスク等）。クイズ大会の上位5名を成績優秀者「柏町マイスター」として表彰しました。

3つ目の企画として、子供たちも楽しめるよう志木市商工会の方々にご協力頂き、「ゆるキャラ」の「カッピー」と「あらちゃん」に触れ合える場を用意しました。

● 項番5：受付・募集

イベント応募方法の検討・イベント参加者からの応募の集計を実施しました。

応募者からの受付方法については、「メール」と「はがき」とし、募集対象者は志木市柏町在住の100名を対象としました。今回100名の募集に対して、100名の応募がありました。

● 項番6：外部組織への調整

イベント実施にあたり、外部組織の方々による多数のご協力を頂きました。それら外部組織への協力依頼・調整等を実施しました。

<イベントにご協力頂いた方々>

- 近隣町内会
- 志木のまち案内人の会
- 志木市商工会
- 埋蔵文化財保管センター
- JA あさか野
- 市内のボランティア

③ 事業予算

今回の事業予算内訳を以下に報告します。

(ただし、定例会議の「施設使用料」及び「消耗品等」の支出は含まれておりません)

表 7-9 事業決算表

A) 収入

科目	説明	金額
事業費補助	志木市夢のあるまちづくり事業費補助金	¥1,000,000

B) 支出

科目	説明	金額
イベント報償費	協力団体への謝礼(町内会、志木のまち案内人の会、他)	¥14,724
消耗品	炊き出し用品(使い捨て椀他)、事務用品	¥10,852
食糧費	イベント参加者お茶(ペットボトル)120名分	¥20,000
施設使用料	クラブ中野利用料	¥3,800
印刷代	イベントチラシ(9,000枚)マップ(200枚)	¥79,026
役務費	イベント参加者傷害保険・切手・コミ協会費	¥10,802
委託料	ごみ処理料・テント設営・チラシ折り込み費用	¥56,218
材料費	参加賞・炊き出し用野菜他(アルファ米150食含む)	¥237,286
被服費	スタッフジャンパー17枚(メンバー14枚、応援3枚)	¥99,602
合計		¥532,310

C) 差引

収入額	¥1,000,000
支出額	¥532,310
差引額	¥467,690

#### ④ イベント実施

イベントは、2017年11月26日（日）晴天に恵まれた中で実施しました。

当日は、事前に応募のあった100名のうち、90名の方々に参加して頂きました。

参加者を4班に分け、まち歩きイベント集合場所を「柳瀬川駅前」と「柏の杜公園」の2か所に設定しました。

参加頂いた90名の方々は、柏町にある文化財・自然遺産11か所を約2時間半かけて、まち歩きしながら見学し、柏町の魅力を再認識してもらいました。文化財・自然遺産の説明にあたっては、「志木のまち案内人の会」にご協力頂き、文化財・自然遺産などの歴史や由来などを詳しく学ぶことができました。

参加者からは、「普段知り合うことのできない同じ地区に住む方々とまち歩きをしながら話ができ、大変いい機会を頂いた」、「今度は自分たちでまち歩きをしてみたい」などの感想をいただき、大好評でした。



図 7-7 まち歩き風景

ゴール地点のクラブ中野では、まち歩きツアー参加者及び、地域の住民の方々と交流会を実施しました。まち歩き参加者には地元野菜を使った豚汁や、非常食用炊き込みご飯を召し上がって頂きました。

その後、「志木市・柏町に関するクイズ大会」を実施し、5名の成績優秀者である「柏町マイスター」が誕生して会場を盛り上げました。またお子さん連れの参加者からは、「大好きなカップーやあらちゃんと会えてよかった」などの感想を頂き、小さなお子様にも満足頂けるイベントとなりました。



図 7-8 交流会 (あいさつ・クイズ大会)



図 7-9 委員・参加者全員での集合写真

⑤ 事後アンケートの実施

実施した事業について効果測定をおこなうために、応募時に代表者として登録頂いたグループの代表者40名にアンケートを送り、35名からの回答が得られました。アンケート回答率は「87.5%」でした。なお、アンケートは原文のまま掲載しています。

表 7-10 アンケート回答者の年齢区分

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	
回答者人数	1	0	4	3	3	9	9	7	35

質問1： 今回のイベントを何で知りましたか？

No	回答候補	回答数
1	広報しき	27
2	自宅に投函されたチラシを見た	5
3	自宅以外でチラシを見た	1
4	友人から誘いを受けた	1
5	その他	1

質問2： 今回のイベントに参加して頂けた理由はなんですか？（複数回答可）

No	回答候補	回答数
1	柏町のことをもっと知りたいと思ったから	32
2	まち歩き（散歩）が好きだから	18
3	歴史に興味があったから	14
4	参加賞が魅力的だったから	11
5	友人に誘われたから	1
6	その他	1

質問3： 事前に配布した募集チラシはわかりやすい内容でしたでしょうか？

No	回答候補	回答数
1	わかりやすかった	24
2	普通	8
3	わかりにくい	1
4	募集チラシを見ていない	2

質問4：質問3で「c. わかりにくい」と回答頂いた方にお聞きします。どのような点が「わかりにくい」と感じましたか？わかりにくいと感じたポイントを記載ください。

▶ わかりにくいと感じたポイント

- 集合場所の地図が欲しかった。
- 集合時間の他にスタート時間を明記して欲しかった。

質問5：まち歩きのコース距離は適切だったでしょうか？

No	回答候補	回答数
1	適切だった	23
2	長かった	1
3	短かった	5

質問6：まち歩きのマップ（パンフレット）についてお聞きします。文字の大きさはいかがでしたか？

No	回答候補	回答数
1	大きかった	0
2	ちょうどよかった	26
3	小さかった	2

質問7：まち歩きのマップ（パンフレット）についてお聞きします。地図はわかりやすいものでしたでしょうか？

No	回答候補	回答数
1	わかりやすかった	24
2	わかりにくかった	2

質問8：まち歩きのマップ（パンフレット）についてお聞きします。各ポイントの説明文はいかがでしたか？

No	回答候補	回答数
1	細かい	3
2	ちょうどいい	24
3	簡単すぎる	3

▶ まち歩きマップについてその他の意見

- デザインが素敵で分かりやすかった。イベント自体がしっかり準備したものという印象だった。
- 難しい読みにはフリガナが欲しかった。
- 柳瀬川スタート組は①から順番ではないので迷ってしまう。
- 再訪用に、そして他地域の知人を誘っていく場合にも役立つ楽しい内容・レイアウトでした。

質問9： まち歩きのコース内で印象に残った箇所はどこですか？（複数回答可）

No	回答候補	回答数
1	宝幢寺	11
2	埋蔵文化財保管センター	15
3	行屋稲荷	6
4	館ノ氷川神社	3
5	千手堂	14
6	柏町ふれあいの森	2
7	いこいの小径	0
8	柏の城跡	3
9	チョウショウインハタサクラ	3
10	城山貝塚	2
11	かっぱの流ちゃん	3

質問10： 交流会のクイズは楽しめましたか？

No	回答候補	回答数
1	楽しめた	15
2	普通	8
3	楽しめなかった	2

質問11： イベントの参加賞（新米とお野菜詰め合わせ）はいかがでしたでしょうか。

No	回答候補	回答数
1	満足	31
2	普通	2
3	不満足	0

質問12： イベントの感想

① 今回のイベントの全体的な感想をお聞かせください。（回答は一つのみ）

a. 満足： 21名

- 和気あいあいとして楽しかった。
- 係りの人が親切だった。
- 年齢層が広く、ふだん話さない方と会話ができて楽しかった。
- 4歳の子どもも楽しくゴールできたのが嬉しかった。大好きなカップーやあらちゃんと会えて子どもも大人も楽しい1日だった。
- 文化財保管センターにて、縄文時代の土器などが展示されていてびっくりした。
- 柏の城跡や城山貝塚などを見ることができてよかった。
- 柏町をもっと知りたいという意欲のある方がたくさんいた。



b. まあまあ満足：14名

- 地元の歴史を知れたが、時間配分が悪かった。出発の時間は守って欲しい。
- 今まで知らなかった場所・魅力を知ることができた。
- 案内が分かりやすく丁寧だった。
- 子どもが少なかったので、子供も楽しめるイベントを取り入れたらと感じた。
- 豚汁等おいしかった。地元野菜にも満足だった。
- 宝幢寺や千手堂の本堂内を見学できたらよかった。
- クイズが難しかった（子ども）

c. 少し不満 0名

d. 不満 0名

② これからも柏町に住み続けたいと思いますか？その理由もお聞かせください。

a. はい：32名

- 長年住んでいる。近所の人がいい人で安心できる。
- 柏町で育ち、慣れ親しんでいる。
- 地域交流、学習ができる。
- 町内会の行事が多い。
- 自然に囲まれつつも利便性が高い。
- 住み続けるが水害が心配。
- これからももっと歩いて見聞を広めたい。
- ウォーキングに適したコースがある。
- 年齢的に移住は考えていない。
- 近年は駐車場が住宅に変わっていき、空が狭くなって寂しい。
- かしわなほっとふれすが楽しみ。他地域の知人からはうらやましがられている。
- 学校が近いから

b. いいえ：2名

- 道が混雑していて、外出が億劫になる。
- 水害が心配。

③ その他、ご意見・感想があればご記入ください。

- また同様のイベントがあれば参加したい。近所との交流があまりなかったのが、貴重な時間だった。
- 柏町以外の志木市内を知るイベントがあれば参加したい。
- スタート時間を早めて、ゆっくり歩きたかった。
- 若い人が少なく、少しさびしかった。
- あらちゃんやカッピーに会えてうれしかった。
- クイズに景品が出たり、参加賞も豪華でびっくりした。
- 川が汚れていたり、犬の糞があるなどしたので、マナーを確立して欲しい。

- アンケートは当日回収の方がよかった。切手代が無駄になってしまう。
- 参加賞を出すのであれば、税金という性質上、費用を徴収すべきだったのではないか。
- 移動時は年代差を考え、間が空かないように歩くよう助言していただきたい。
- 道の横断時に車のドライバーへ会釈するとよい。
- アンケートの商品の発送をいつごろ予定か記載してほしい。
- ウォークイベントの7地区特選コースなどと、市、まちづくり会議、まち歩き案内人の会のお宝発見講座、昔を語れる方のお宝情報、市史書籍の抜粋、商工会（郷土産物のオリジナル商品化の発展）などのコラボで、全世代、ハンデのあるなしに関わらず交流したり、観光化への発展につながると良いと思う。
- 子どもたちがたくさん参加できるようにスタンプラリー形式やチェックポイントでお菓子を配るのはどうか。
- 子どもはカレーパンがおいしかったと言っていた。親は豚汁がおいしかった。
- 埋蔵文化財保管センターは休日も空いていると大人が見ることができる。
- もっと柏町にある「すごい物」「すごい人」を知りたい。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

➤ 提言：「空き家を利用した多世代交流の場の創出」

柏町の一部地域では、特に戸建ての空き家が増加し、防犯面の悪化が懸念されています。これら空き家となっている家は比較的古い家が多く、1軒辺りの面積が大きいといった特徴がみられます。これらの広い面積の1軒屋を地域の多世代交流可能な施設として、市が持ち主から借り上げ、地域交流の「場」として市民に提供することを提言します。

住民間の交流が盛んとなり、また空き家が減ることで防犯面の悪化も改善が期待されます。

表 7-11 提言内容

項目	詳細
内容	空き家を利用した多世代交流の場の創出
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>- 空き家を減らし、防犯面の悪化を減らす</li><li>- 住民が交流を図ることで住人同士が顔を認識し、安心安全な地域になる</li><li>- 多世代交流の場とすることで、世代を超えた地域支えあい活動の拠点となる</li></ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>- 空き家を提供する住民側には賃料を支払う、または税制面の補助等、「貸し出す」側にもメリットとなる工夫が必要（Win-Winの関係）</li><li>- 空き家はリノベーションを実施し、多世代交流が可能なスペースに間取りの変更などを許可してもらえるように交渉する</li><li>- 利用者は会員登録必須とする</li><li>- 施設には管理責任者をおく</li><li>- 施設利用後には、利用者本人が清掃を行い、管理者がチェックする</li><li>- 施設の維持管理は、住民にて構成された団体によって行われる</li><li>- 施設は飲食可（アルコールを含む）とする</li></ul>

① 利用方法（案）の検討

多世代交流の施設の利用方法について、委員にて案を出し合いました。

提案された利用方法については、以下「表9 多世代交流の場 利用方法（案）」のとおりです。

表 7-12 多世代交流の場 利用方法 (案)

対象	用途
高齢者の集い	お茶のみ会、高齢者向け教室等
趣味の集い	絵画教室、編み物教室、料理教室、囲碁・将棋・健康マージャン教室等
子育て世代の集い	保育施設（乳児・低学年一時預かり可）、子育ての情報交換会、保健師さんによる各種教室の開催、子供の誕生会、クリスマスパーティー等
小学生の集い	学童施設（ランドセル来館可）、子供向け日替り教室開催、土日のカードゲーム大会開催等
家族交流の集い	パパ会・ママ会の開催、ご近所の家族との交流（通常の飲食に加えて、アルコールも許可とする）等
カフェ (飲食提供)	お茶や軽食の提供、ブランチ Café、仕出しお弁当をとることも可
レンタルルーム	レンタルオフィス（Wi-Fi 無償）、図書館（漫画喫茶）、自習スペース

特に子育て中の委員からは、提案された利用方法を組み合わせた新しいタイプの施設の案が出ました。若い世代に喜ばれる施設利用方法を提供し、それらと呼び水として施設利用を促進することで、より多くの住民の交流が生まれると考えております。

● 組み合わせ例

➤ 保育施設＋レンタルオフィス

⇒働きながら、子供のそばにいれる施設（目を離しても安心、自営業やテレワークに最適！）

➤ 保育施設（又は学童施設）＋カフェ（飲食提供）

⇒子供を引き取りに行くタイミングで、子供と一緒にご飯を食べることができる施設

② 施設利用シミュレーション

実際に2階建て、庭付きの空き家を多世代交流の場とした場合の1週間の利用イメージを次ページに記載します。

1階は利用用途を制限しないコミュニケーションに利用する「コミュニケーションエリア」としております。2階は「レンタルオフィス」＋「図書館」を組み合わせ、利用用途を制限したスペース「サイレントエリア」としております。庭は屋外コミュニケーションに利用しますが、常時は利用しない想定です。

➤ 1階：コミュニケーションエリア（利用用途の制限なし）

多世代交流のメインの場、戸建てであれば、庭に直接出るような環境も可能

- ▶ 2階：サイレントエリア（利用用途を制限あり）  
オフィススペース（Wi-Fi、電源、FAX・コピー機の提供）、本・漫画の図書スペース、学生の自習室としても利用可



図 7-10 1階コミュニケーションエリアイメージ（左図）、2階サイレントエリアイメージ（右図）

表 7-13 空き家対策住民集いの場 利用イメージ (※)

		A	B	C	D
曜日	場所	9:00～11:00	11:00～14:00	14:00～18:00	18:00～21:00
月	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	シニアタイム 「ボケない麻雀教室」	ママ友タイム 「大先輩からアドバイス乳児教室」	児童館タイム (学童+英語教室)	—
火	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	シニアタイム 「ボケない麻雀教室」	ママ友タイム (保育ありヨガ教室)	児童館タイム (学童+懐かしい遊びベーゴマ教室)	—
水	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	シニアタイム (茶話会)	ママ友タイム (ケーキバイキング)	児童館タイム (学童+志木の昔話)	パパ・ママタイム (家族交流会)
木	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	シニアタイム (ピカソ養成 絵画教室)	ママ友タイム (アロマ教室)	児童館タイム (学童+鉄棒さかあがり出来るゾ教室)	—
金	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	シニアタイム (志木市生活 相談会)	ママ友タイム (保健師さん相談会)	児童館タイム (学童+紙芝居)	パパ・ママタイム (家族交流会)
土	庭	地域交流タイム (世代関係なく参加の交流会、もちつき・花見季節のイベント等)			—
	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	フリータイム (カードゲーム大会開催!)	ランチ café (優雅にランチ)	パパタイム 「男だらけの料理教室&飲み会」	
日	庭	ママ・パパタイム (ご近所交流! 家族でBBQ 大会)			—
	2F	サイレントエリア (まんが図書館、レンタルスペース、レンタルオフィス)			
	1F	フリータイム (多世代交流)	ランチ café (優雅にランチ)	—	—

※ 利用者が想定される時間帯から各時間枠を「～タイム」と記載しておりますが、それ以外の利用者・内容を制限するものではありません。

(6) まとめ

2年の任期を振り返り、各委員からの感想を記載します。

<國分 学 委員>

初の市役所デビューでリーダーという大役を任せていただきありがとうございました。

2年前、会議で初めて会う方が今では地域の仲間。私の今後の人生にもつながっていきます。今後も行政と一緒に柏町、そして志木市をよりよい街にすることに協力できればと思います。貴重な経験をさせていただき「まちづくり会議」を考えた方に感謝しています。

<尾上 元彦 委員>

まちづくり会議を楽しませて頂きました。市民と職員の行動変容につながる大変有意義な活動だと思いました。ありがとうございました。

<小泉 昭次 委員>

我が街「柏町」に移り住んで53年、二人の子供も思い出いっぱいに巣立ちました。そんな自然にあふれた、歴史遺産豊富なこの街もマンションや戸建住宅が増え、人口が5倍近くに増えました。新しい住民の誰もが「この街に住んで良かった」とふるさと意識を持っていただけるような活動に少しでも役立てたなら幸せです。

<佐藤 麻世香 委員>

私は志木市とは縁も所縁もない新住民なので、志木のことをもっと知りたいという想いで参加しました。会議や食事会には子連れでの参加でしたが、同じ柏町に住む様々な方々と家族共に仲良くしていただきとても感謝しております。柏町のことを真剣に考えて事業と提言をできたことは本当に貴重な経験となりました。

<嶋田 和彦 委員>

市役所の職員、地域の方々とともに柏町のセールスポイントを検討し、また地域めぐりの企画を実現することができました。私自身も柏町で生活する方々と交流ができ、大変、有意義な時間を過ごすことができました。

<竹前 栄二 委員>

私が「まちづくり会議」で活動するきっかけは、町内活動が次第にマンネリ化し、活性化を模索したが名案が無く息詰まっていた。異業種の集まりである、まちづくりメンバーは色々な考え方を持っている方々が集まっており、ヒントになるものがあるのではとの思いで活動に参加した。活動している中で、思いもよらない考え方、行動を学びました。今後の活動に生かし、より良い町内会にしていきたいと思います。

<鳥海 正徳 委員>

私達の住む志木市が、住民にとって心豊かに生活できる町づくりをめざし、行政と地

域住民が一緒になって考えてゆく企画に賛同して参加させて頂きました。2年間の活動を通し、年齢や職業が違う人たちとの交流、行政の方の考え方など参考になり大変意義のある活動でした。ご一緒に頂いた皆様に感謝申し上げます。

<林 啓介 委員>

私自身が事業のターゲットである柏町の新住民です。今回主催者側の立場で柏町の魅力を知ることができたのはとても貴重な経験でした。また様々な世代の委員の方々と、私たちの住む町の課題について一緒に頭を悩ませ、共に時間を過ごせたことは貴重な経験となりました。

<林 靖人 委員>

地元を良くするために自分が行動しなければ。そういう意気込みでやったまちづくりでしたが、想像以上に複雑でした。でも、それを成し遂げる事が出来たという事は、次の町づくりへ繋がると信じています。

<山口 美智江 委員>

リーダーのリーダーシップで市民と職員がお互いを知り、又人間関係もでき、それぞれの持っているノウハウが生かされ、柏町まち歩き事業が大成功で終わり楽しいまちづくり会議でした。

<桜谷 玲子 委員>

この2年間、皆様とともに職員と市民という立場を超えて、一丸となって日々話し合い、事業を実施できたことは、私にとって一生の財産だと思っています。改めて感謝しています。

<柳下 豊 委員>

中宗岡在住でありながら柏町地区のまちづくり会議担当となり、どうなることかと心配しましたが、幸いにしてメンバーにも恵まれ、活動を終えることができました。皆さん本当にありがとうございました。

<福島 楓 委員>

委員になった当初は長く感じていた2年間という任期ですが、実際はあっという間でした。柏町地区は様々な視点から意見が出ることもあり、会議は毎回大盛り上がりでした。貴重な経験ができたことに大変感謝しております。

<竹原 潤 委員>

長いようで短い2年間でした。最初は柏町についてほとんど何も分からない状況からの参加で不安もありましたが、委員の方たちと共に学び、事業も成功させることができました。柏町のまちづくり会議に参加できて本当によかったと思っています。ありがとうございました。

以上



### Ⅲ 資料編

#### 1 各地区まちづくり会議開催状況

##### (1) 上宗岡地区まちづくり会議開催状況

表 1-1 上宗岡地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月30日(木)	リーダー・サブリーダーの選出について
2	平成28年9月17日(土)	会議のルールについて、全体研修会の振り返りについて、テーマについて
3	平成28年10月15日(土)	まち歩きについて
4	平成28年11月6日(日)	まち歩き
5	平成28年11月12日(土)	今後のスケジュール(案)について、まち歩きの感想について
6	平成28年12月17日(土)	上宗岡地区の課題について
7	平成29年1月21日(木)	上宗岡地区の課題と解決について
8	平成29年2月11日(土)	上宗岡地区の課題と解決について
9	平成29年3月11日(木)	イベントの内容について
10	平成29年4月8日(土)	イベントの開催日について
11	平成29年4月29日(土)	イベントについて
12	平成29年5月20日(土)	イベントについて
13	平成29年6月3日(土)	イベントについて(グループ別作業)
14	平成29年6月17日(土)	イベントについて、中間報告会について
15	平成29年7月1日(土)	イベントについて、
16	平成29年7月30日(土)	イベントについて、
17	平成29年8月19日(土)	イベントについて
18	平成29年9月9日(土)	イベントについて、イベント当日の流れについて
19	平成29年9月30日(土)	イベントについて
20	平成29年10月7日(土)	イベントについて
21	平成29年10月14日(土)	イベントの台本について、懸念事項の共有について
22	平成29年10月20日(金)	イベントの準備について
23	平成29年10月22日(日)	イベントの片付けについて
24	平成29年12月9日(土)	イベントの成果、会計報告について、提言について
25	平成30年1月13日(土)	今後のスケジュールについて、提言について、報告書の割り振りについて
26	平成30年3月10日(土)	報告書の進捗状況について、提言について
27	平成30年3月31日(土)	報告書の進捗状況について、提言について
28	平成30年4月14日(土)	報告書の精査について、今後の流れについて
29	平成30年6月9日(土)	報告会の発表内容について

## (2) 中宗岡地区まちづくり会議開催状況

表 1-2 中宗岡地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月13日(水)	リーダー・サブリーダーの選出について、スケジュールについて
2	平成28年8月19日(金)	意見交換について
3	平成28年9月16日(金)	全体研修会のおさらいについて、課題について、フィールドワークにつて
4	平成28年10月21日(金)	課題の抽出について、フィールドワークについて
5	平成28年11月13日(日)	フィールドワーク
6	平成28年11月18日(金)	フィールドワークの感想について
7	平成28年12月16日(金)	公園について(都市計画課職員から説明)
8	平成29年2月3日(金)	事業費予算について、ドッグラン&昔遊びの開催について
9	平成29年2月17日(金)	事業テーマについて、事業スケジュールについて
10	平成29年3月17日(金)	まちづくりに関する意見交換会について(株DMC 青木氏講師)
11	平成29年4月21日(金)	コンセプトの設定について、イベントについて
12	平成29年5月12日(金)	イベントについて
13	平成29年5月24日(水)	チラシの配布について
14	平成29年6月9日(金)	イベントについて
15	平成29年7月28日(金)	イベントの感想・反省について、次回のイベント開催日について
16	平成29年8月18日(金)	イベント内容の決定について
17	平成29年9月3日(日)	ウォークラリーの下見について、マップについて
18	平成29年9月15日(金)	ウォークラリー下見の結果について
19	平成29年9月22日(金)	イベントについて
20	平成29年9月29日(金)	イベントについて
21	平成29年10月6日(金)	イベントについて
22	平成29年10月13日(金)	イベントについて
23	平成29年10月20日(金)	イベントについて
24	平成29年10月27日(金)	イベントについて
25	平成29年11月10日(金)	イベントについて、チラシの内容精査について
26	平成29年11月24日(金)	イベントについてリハーサルについて、マップの作成について
27	平成29年12月1日(金)	イベントについて、記者発表について、
28	平成29年12月8日(金)	イベントについて
29	平成30年2月16日(金)	今後のスケジュールについて、報告書の作成について
30	平成30年2月19日(月)	報告書の作成について
31	平成30年4月20日(金)	報告書の作成について、
32	平成30年5月18日(金)	報告書の作成について
33	平成30年6月15日(金)	報告会発表リハーサル

(3) 下宗岡地区まちづくり会議開催状況

表 1-3 下宗岡地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月21日(木)	リーダー・サブリーダーの選出について、まち歩きについて
2	平成28年8月27日(土)	まち歩き
3	平成28年9月15日(木)	まち歩き、全体研修会の結果報告について、会議の進め方について
4	平成28年10月20日(木)	まちづくり会議の意義及び目的について
5	平成28年11月17日(木)	今後の進め方について
6	平成28年12月15日(木)	スローガンについて
7	平成29年1月19日(木)	地区まちづくり会議活動の周知について
8	平成29年2月16日(木)	チラシ作成について、イベントに向けた話し合いについて
9	平成29年3月16日(木)	リーダーの交代について、花壇、ラジオ体操の継続について
10	平成29年4月11日(火)	イベントについて
11	平成29年5月15日(月)	イベントについて
12	平成29年6月14日(水)	イベントについて
13	平成29年6月28日(水)	イベントについて、中間報告会について
14	平成29年7月13日(木)	花壇について、中間報告会について、キャンドルナイトについて
15	平成29年7月24日(月)	チラシ案について、イベントについて
16	平成29年8月7日(月)	チラシの印刷について、花植えボランティアポスターについて、
17	平成29年8月22日(火)	イベントについて、役割分担について
18	平成29年9月7日(木)	イベントについて(グループ討議)、
19	平成29年9月25日(月)	各担当からの報告について
20	平成29年10月4日(水)	イベントについて
21	平成29年10月11日(水)	イベントについて、チラシ・ポスターの依頼について
22	平成29年10月16日(月)	イベントについて
23	平成29年10月23日(月)	イベントについて、チラシ分けについて、キャンドルの試験点灯
24	平成29年11月1日(水)	イベントについて
25	平成29年11月6日(月)	イベントについて
26	平成29年11月14日(火)	イベントについて(ヤセ騎士氏参加)
27	平成30年2月2日(金)	今後のスケジュールについて、活動実践報告書について、花壇の対応について
28	平成30年2月19日(月)	提言書の作成について、花壇の対応について
29	平成30年3月12日(月)	提言書の作成について。花植えについて
30	平成30年4月19日(木)	事業費の精算完了について、報告書の作成について、花壇の整備について
31	平成30年5月14日(月)	報告書の校正について、提言について
32	平成30年5月28日(月)	報告会発表資料について、提言について、花壇の草刈りについて
33	平成30年6月13日(水)	報告会発表資料について、提言書について

## (4) 本町地区まちづくり会議開催状況

表 1-4 本町地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月31日(日)	リーダー・サブリーダーの選出について
2	平成28年8月24日(水)	まち歩きについて、本町地区の目指す方向性について
3	平成28年9月28日(水)	まち歩きについて、全体研修会について
4	平成28年9月11日(日)	まち歩き
5	平成28年9月28日(水)	全体研修会について
6	平成28年10月26日(水)	開催したいイベントについて
7	平成28年11月30日(水)	今後の活動について
8	平成29年1月25日(水)	ウォークラリーにおける骨子について、イベント会場での骨子について
9	平成29年2月22日(水)	イベントの検討について(ワークショップ形式)
10	平成29年3月9日(木)	事業のコンセプトについて、イベントの検討について
11	平成29年3月23日(木)	事業内容について
12	平成29年4月6日(木)	事業実施日の変更について、イベントの実施内容について
13	平成29年4月20日(木)	イベントの実施内容について
14	平成29年5月10日(水)	まちあるきのビデオについて(鑑賞)、イベントの実施内容について
15	平成29年5月24日(水)	イベントの実施内容について、イベントの費用について
16	平成29年6月7日(水)	イベントの実施内容について、ドローンの使用について
17	平成29年6月21日(水)	イベントの実施内容について、ドローンの使用方法の説明について
18	平成29年7月12日(水)	イベントの担当割について、担当毎の報告について
19	平成29年7月27日(木)	イベントの実施内容について
20	平成29年8月24日(木)	イベントの実施内容について
21	平成29年9月7日(木)	イベントの実施内容について
22	平成29年10月5日(木)	イベントの実施内容について
23	平成29年10月19日(木)	イベントの実施内容について
24	平成29年10月26日(木)	イベントの実施内容について
25	平成29年11月2日(木)	チラシの作成について、担当毎の報告について
26	平成29年11月9日(木)	イベントの実施内容について、担当毎の報告について
27	平成29年11月16日(木)	イベントの実施内容について、雨天時の対応について
28	平成30年2月15日(木)	イベントの報告・感想について、提言について
29	平成30年3月7日(水)	活動実践報告書について、提言について
30	平成30年3月22日(木)	活動実践報告書について、提言について
31	平成30年4月5日(木)	活動実践報告書について、提言について
32	平成30年4月19日(木)	活動実践報告書について、提言について
33	平成30年5月10日(木)	活動実践報告書について、提言について
34	平成30年5月24日(木)	活動実践報告書について、提言について
35	平成30年6月7日(木)	活動実践報告書について、提言について

(5) 幸町地区まちづくり会議開催状況

表 1-5 幸町地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月11日(月)	リーダー及びサブリーダーの選出について
2	平成28年8月6日(土)	幸町まちあるき
3	平成28年9月14日(水)	リーダー会議・全体研修会の振り返りについて
4	平成28年10月12日(水)	幸町地区の理想の姿や想いの共有について、現状の確認と課題の抽出について
5	平成28年11月16日(水)	幸町のあるべき姿について
6	平成28年12月14日(水)	会議の情報発信について、まちづくりの方向性について
7	平成29年1月11日(水)	情報発信について、具体的な取組案の共有・意見交換について
8	平成29年2月8日(水)	施策案のアイデアのグルーピングについて
9	平成29年3月8日(水)	施策案のアイデア出しについて
10	平成29年4月5日(水)	イベント案からのディスカッションについて
11	平成29年5月10日(水)	イベントのディスカッションについて
12	平成29年5月24日(水)	イベント案の具体化、絞り込みについて、中間報告会について
13	平成29年6月7日(水)	イベント内容について、作業の分担について
14	平成29年6月21日(水)	イベント内容について
15	平成29年7月5日(水)	イベント内容について、担当の割り振りについて
16	平成29年7月19日(水)	イベント内容の詳細について、
17	平成29年8月2日(水)	イベント会場の使用方法について、近隣町内会の協力について
18	平成29年8月23日(水)	イベントの進捗状況について
19	平成29年9月6日(水)	イベントの進捗状況について、チラシの作成について
20	平成29年9月20日(水)	イベントの進捗状況について
21	平成29年10月4日(水)	イベントの進捗状況について
22	平成29年10月11日(水)	イベントの進捗状況について、バルーンアート講習会
23	平成29年10月18日(水)	イベントの進捗状況について、人員の配置、予算の確認について
24	平成29年10月25日(水)	イベントの進捗状況について、雨天・荒天の場合の対応について
25	平成29年11月8日(水)	イベント後の感想について、収支の確認について、今後の流れについて
26	平成29年12月6日(水)	協力団体からの感想について、提言作成の概要について
27	平成30年1月10日(水)	実践報告書作成の分担について、提言の検討について
28	平成30年2月7日(水)	提言の検討について
29	平成30年2月21日(水)	提言の検討について
30	平成30年3月7日(水)	提言の検討について
31	平成30年3月22日(水)	提言の検討について
32	平成30年4月11日(水)	提言の検討について
33	平成30年6月14日(木)	活動実践報告会について

## (6) 館地区まちづくり会議開催状況

表 1-6 館地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月24日(日)	リーダー・サブリーダーの選出について
2	平成28年9月19日(月)	活動の方向性について
3	平成28年10月30日(日)	第1期地区まちづくり会議のおさらいと第2期への検討について
4	平成28年11月23日(水)	第2期の方向性について
5	平成28年12月23日(金)	各委員が実施したい事業について
6	平成29年1月8日(日)	事業計画(案)について
7	平成29年1月15日(日)	SNT協議会【仮称】作成の必要事項について
8	平成29年2月5日(日)	SNT協議会【仮称】目的・テーマについて
9	平成29年3月5日(日)	各団体へのアプローチについて
10	平成29年4月8日(土)	趣意書について
11	平成29年5月6日(土)	趣意書について
12	平成29年6月18日(日)	中間報告会について、今後のまちづくり会議の流れについて
13	平成29年7月23日(日)	中間報告会について、懇談会設立に向けた行動計画表について
14	平成29年8月27日(日)	管理組合、町内会との調整状況について
15	平成29年9月16日(土)	準備会の参加状況について、HP作成業者の選定について
16	平成29年9月24日(日)	「(仮称)志木ニュータウン懇談会設立準備会(第1回)」について
17	平成29年10月22日(日)	第1回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会
18	平成29年11月3日(金)	第1回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
19	平成29年11月16日(木)	第2回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
20	平成29年11月19日(日)	第2回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会
21	平成29年11月29日(水)	第3回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
22	平成29年12月7日(木)	第3回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
23	平成29年12月10日(水)	第3回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会
24	平成29年12月17日(日)	第4回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
25	平成30年1月14日(日)	第4回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会について
26	平成30年1月21日(日)	第4回(仮称)まちづくり懇談会設立準備会
27	平成30年2月12日(月)	志木ニュータウンまちづくり懇談会の設立について
28	平成30年2月25日(日)	志木ニュータウンまちづくり懇談会事務局の活動について
29	平成30年3月18日(日)	活動実践報告書について、志木ニュータウンまちづくり懇談会の課題について
30	平成30年4月8日(日)	活動実践報告書について

## (7) 柏町地区まちづくり会議開催状況

表 1-7 柏町地区まちづくり会議開催状況

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年7月31日(日)	リーダー、サブリーダーの選出について、今後の活動について
2	平成28年9月14日(水)	柏町まちあるきについて
3	平成28年10月2日(日)	柏町まちあるき
4	平成28年10月19日(水)	まちあるきの感想について、第1期地区まちづくり会議の報告内容について
5	平成28年11月13日(日)	まちあるきの感想について、事業のテーマについて
6	平成28年12月14日(水)	各自が実施したい事業について
7	平成29年1月15日(日)	事業テーマ及び提言について(発表)
8	平成29年2月15日(水)	事業テーマ及び提言について(発表)、視察研修について
9	平成29年3月5日(日)	視察研修(千葉県流山市)
10	平成29年4月19日(水)	事業テーマについて、提言について
11	平成29年5月28日(日)	事業テーマについて、提言について
12	平成29年6月21日(水)	事業テーマについて、中間発表会について
13	平成29年7月9日(日)	事業日程について、役割分担について
14	平成29年8月9日(水)	事業の進捗状況について
15	平成29年9月10日(日)	事業の進捗状況について
16	平成29年10月18日(水)	パンフレットの作成について、
17	平成29年11月19日(日)	スタッフジャンパーについて、各進捗状況について
18	平成29年12月13日(金)	事業報告について、提言について(社会福祉協議会、長寿応援課職員同席)、
19	平成29年12月13日(水)	事業報告について、提言の進め方について
20	平成30年2月21日(水)	今後の会議日程について、提言について、活動実践報告書の分担について
21	平成30年3月11日(日)	提言について
22	平成30年4月18日(水)	提言について、活動実践報告会について
23	平成30年5月12日(土)	提言について
24	平成30年5月23日(水)	活動実践報告書について
25	平成29年6月6日(水)	活動実践報告会について

## 2 地区まちづくり会議推進本部会議開催状況

全3回開催し、地区まちづくり会議の進捗状況・課題を解決する事業・提言について、情報共有を行った。

対象者：市長、他執行部

表 2-1 推進本部会議開催一覧

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成29年6月13日(火)	地区まちづくり会議の進捗状況について
2	平成29年10月3日(火)	地区まちづくり会議の課題解決事業について
3	平成30年8月1日(水)	地区まちづくり会議の提言について

## 3 地区まちづくり会議リーダー会議開催状況

全4回開催し、地区まちづくり会議の課題・事業について情報共有を行った。

対象者：各地区リーダー、サブリーダー

表 3-1 リーダー会議開催一覧

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年8月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー会議の概要について</li> <li>・地区まちづくり会議任期中のスケジュール等について</li> <li>・地区まちづくり会議全体研修会について</li> </ul>
2	平成29年3月21日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度、市関連事業イベントカレンダーについて</li> <li>・地区まちづくり会議事業費の取扱いについて</li> <li>・地区まちづくり会議中間報告会について</li> <li>・各地区の進捗状況等について</li> <li>・今後のリーダー会議について</li> </ul>
3	平成30年1月31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスケジュールについて</li> <li>・活動実践報告書の作成について</li> <li>・地区まちづくり会議委員全体懇親会について</li> </ul>
4	平成30年5月17日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動実践報告会について</li> <li>・活動実践報告書の作成について</li> <li>・慰労会について</li> </ul>



#### 4 地区担当長連絡会議開催状況

全10回開催し、市職員委員・市民との円滑な運営及び課題に対する情報共有を行った。  
対象者：地区担当長（職員サブリーダー）

表 4-1 地区担当長連絡会議開催一覧

回数	期 日	内 容 ・ 議 題
1	平成28年4月6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区まちづくり会議の事業・役割・運営について</li> <li>・任期開始までの住民委員の応募活動について</li> <li>・職員委員研修会について</li> </ul>
2	平成28年6月30日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区まちづくり会議スタート式について</li> <li>・地区まちづくり会議運営費補助金について</li> <li>・会議等の開催について</li> </ul>
3	平成28年6月30日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー会議について</li> <li>・地区まちづくり会議運営費補助金について</li> <li>・会議の運営について</li> <li>・全体研修会について</li> </ul>
4	平成28年10月19日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期「地区まちづくり会議」活動実践報告書について</li> <li>・毎月の会計報告について</li> <li>・会議の進捗について</li> </ul>
5	平成29年1月11日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の進捗について</li> <li>・町内会に対する地区まちづくり会議の周知について</li> <li>・平成29年度のスケジュールについて</li> </ul>
6	平成29年4月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費補助金について</li> <li>・職員の人事異動における影響について</li> <li>・平成29年度のスケジュールについて</li> <li>・中間報告会について</li> </ul>
7	平成29年5月17日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会について</li> <li>・各地区の事業スケジュールについて</li> </ul>
8	平成29年9月22日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の進捗状況について</li> <li>・平成30年度の予算措置について</li> </ul>
9	平成29年12月22日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の事業実施状況について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> <li>・活動実践報告書の提出について</li> </ul>
10	平成30年4月13日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費補助金の精算について</li> <li>・活動実践報告会について</li> <li>・報告書の作成状況について</li> </ul>

## 5 研修会等の開催状況

円滑な運営を図るために、職員委員、市民委員に対し研修会を開催した。

対象者：職員委員

表 5-1 地区まちづくり会議職員委員研修会

回数	期 日	研 修 内 容	講 師
1	平成28年5月20日（金）	・「現場ラウンドテーブル」のご提案 ・協働重要性確認ワークショップ	りそな総合研究所 藤原 明
2	平成28年6月29日（水）	・「現場ラウンドテーブル」のご提案	りそな総合研究所 藤原 明

対象者：市民委員・職員委員

表 5-2 地区まちづくり会議委員全体研修会

回数	期 日	研 修 内 容	講 師
1	平成28年9月4日（日）	・協働によるまちづくりセミナー	りそな総合研究所 藤原 明

## 6 地区まちづくり会議スタート式・中間報告会・活動実践報告会

### (1) 地区まちづくり会議スタート式

地区まちづくり会議の運用開始にあたり、その動機付けと関係者が事業内容等を理解・認識するとともに、7地区住民委員への委嘱状交付及び関係者の顔合せ等を目的とし、スタート式を開催した。

表 6-1 地区まちづくり会議スタート式

回数	期 日	内 容	参 加 者
1	平成28年7月3日（日）	・住民委員への委嘱状交付 ・地区まちづくり会議の概要説明 ・地区まちづくり会議第1期リーダーからの説明 ・地区委員同士の紹介及び懇親	・まちづくり会議住民委員・職員委員 ・市長、市役所職員 合計123名

## (2) 地区まちづくり会議中間報告会

発足から1年を迎え、各地区のこれまでの経過や進捗状況、今後の方向性などを発表・報告することを目的とし、中間報告会を開催した。

表 6-2 地区まちづくり会議中間報告会

回数	期 日	内 容	参 加 者
1	平成29年7月2日(日)	・進捗状況、今後の方向性などを地区毎に発表(入退場、発表、質疑応答を含み15分) 発表の順番は上宗岡、中宗岡、下宗岡、本町、幸町、館、柏町の順番で実施	・まちづくり会議住民委員・職員委員 ・市長、市役所職員、市民 合計135名

## (3) 地区まちづくり会議活動実践報告会

各地区まちづくり会議のこれまでの成果として、活動経過や実施事業、また、夢のあるまちづくりに結びつくための提言等が盛り込まれた、活動実践報告書を提出していただき、

併せて、パワーポイントを活用して、各地区それぞれが活動実践の報告を行うことを目的とし、活動実践報告会を開催した。

表 6-3 地区まちづくり活動実践報告会

回数	期 日	内 容	参 加 者
1	平成30年6月30日(土)	・活動経過、実施事業、提言の発表 発表の順番は上宗岡、館、中宗岡、柏町、 下宗岡、本町、幸町の順番で実施	・まちづくり会議住民委員・職員委員 ・市長、市役所職員、市民 合計136名

## 7 要綱・規程

### (1) 志木市地区まちづくり会議設置要綱

#### (設置)

第1条 市民と市の職員がまちづくりの推進のための課題を共有し、市民協働により当該課題の解決を図るため、地区ごとに、地区住民及び地区担当職員によって構成するまちづくりの推進のための会議（以下「地区まちづくり会議」という。）を設置する。

#### (定義)

第2条 この要綱において使用する用語は、志木市地区担当職員設置規程（平成26年志木市訓令第4号）において使用する用語の例による。

#### (所掌事項)

第3条 地区まちづくり会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地区におけるまちづくりの課題の発見及び解決に関すること。
- (2) 地区におけるまちづくりの計画の策定に関すること。
- (3) 市民協働によるまちづくり事業の実施に関すること。
- (4) 地域の振興に資する人材の発見及び活用に関すること。
- (5) 市政に関する意見及び提言に関すること。
- (6) その他設置の目的を達成するために必要な事項に関すること。

#### (組織等)

第4条 地区まちづくり会議は、地区ごとに、おおむね20人の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

- (1) 公募による地区住民
- (2) 地区担当職員

3 前項第1号に規定する公募に応募しようとする地区住民は、別に定める応募票を市長に提出するものとする。

#### (任期)

第5条 委員の任期は、2年以内とする。

(リーダー及びサブリーダー)

第6条 地区まちづくり会議に、リーダー1人及びサブリーダー2人を置く。

2 リーダーは、第4条第2項第1号に掲げる者のうちから、サブリーダーは、同項各号に掲げる者のうちからそれぞれ1人ずつ選出する。

3 リーダーは、会務を総理し、地区まちづくり会議を代表する。

4 サブリーダーは、リーダーを補佐し、リーダーに事故があるとき、又はリーダーが欠けたときは、あらかじめリーダーが指定したサブリーダーがその職務を代理する。

(会議)

第7条 地区まちづくり会議は、リーダーが招集し、その議長となる。

2 リーダーは、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は助言、資料の提出その他の協力を求めることができる。

(市の責務)

第8条 市は、地区まちづくり会議から意見及び提言が提出されたときは、これを尊重し、必要があると認めるときは、適切な措置を講じなければならない。

(地区住民の責務)

第9条 地区住民は、地区まちづくり会議において当該地区のまちづくりの計画を策定したときは、これを尊重し、地区住民自らによるまちづくりの推進に努めなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第10条 委員への報酬及び会議出席等に係る費用弁償は、これを支出しないものとする。

(リーダー会議)

第11条 地区におけるまちづくりに関する情報交換を行うため、リーダー会議を設けるものとする。

2 リーダー会議は、各地区のリーダー及びサブリーダーをもって組織する。

(会議の記録等)

第12条 リーダーは、地区まちづくり会議の経過及び結果を記録し、地域推進室へ報告しなければならない。

2 地域推進室長は、地区まちづくり会議及びリーダー会議の経過及び結果を記録し、保管しておかなければならない。

3 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第13条 地区まちづくり会議の庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、地区まちづくり会議の運営に関し、必要な事項は、地区ごとにリーダーが別に定める。

附 則

この告示は、平成26年7月1日から施行する。

この告示は、平成26年10月10日から施行する。

## (2) 志木市地区担当職員設置規程

(趣旨)

第1条 この規程は、広聴及び広報に関する活動並びにまちづくりの担い手として、地区（上宗岡、中宗岡、下宗岡、本町、幸町、館及び柏町のそれぞれ全域をいう。以下同じ。）におけるまちづくりを担当する職員（以下「地区担当職員」という。）を設置することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 市は、各地区に地区担当職員を置く。

2 地区担当職員は、次に掲げる職員のうちから市長が任命する。

- (1) 公募に係る応募をした職員
- (2) 部局長が推薦し、市長が指名する職員

3 地区担当職員の人数は、1の地区ごとに、次の表の左欄に掲げる職名の区分に応じ、同表の右欄に定める人数とする。

職名	人数
主幹又は専任主幹	1人
主査	1人
主任、主事、主事補、技師、技師補、栄養士、保育士又は保健師	3人

4 1の地区に担当長1人を置き、主幹又は専任主幹の職にある職員をもって充てる。

5 1の地区に副担当長1人を置き、主査の職にある職員をもって充てる。

(職務)

第3条 地区担当職員は、自己の職務に支障のない限り、次に掲げる職務を行う。

- (1) 市政に関する情報提供に関すること。
- (2) 地区住民及び地区担当職員によって構成するまちづくりの推進のための会議の調整に関すること。
- (3) 地区におけるまちづくり事業に対する支援に関すること。
- (4) 地区におけるまちづくりの計画の策定に対する助言に関すること。

(5) 地区住民からの市に対する意見、要望等の聴取に関すること。

(6) その他設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 担当長は、当該担当長の所属する地区における地区担当職員の事務を掌理し、その事務を処理するため、地区担当職員を指揮監督する。

3 副担当長は、担当長を補佐し、担当長に事故があるとき、又は担当長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第4条 地区担当職員の任期は、2年以内とする。

(報告)

第5条 担当長は、地区担当職員が第3条第1項各号に掲げる職務を行ったときは、地区担当職員活動報告書（別記様式）により当該職務を行った日から14日以内に市長に報告しなければならない。

2 市長は、前項の規定による報告に基づき、地区担当職員及び関係職員に対し、必要な指示を与えることができる。

(会議)

第6条 地区におけるまちづくりの推進のための課題の把握及び情報交換を行うため、地区担当長連絡会議及び地区担当職員連絡会議を設けるものとする。

2 地区担当長連絡会議は、各地区の担当長をもって組織する。

3 地区担当職員連絡会議は、各地区の地区担当職員をもって組織する。

(会議の記録等)

第7条 地域推進室長は、地区担当長連絡会議及び地区担当職員連絡会議の経過及び結果を記録し、保管しておかななければならない。

2 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第8条 地区担当職員に関する庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、地区担当職員に関し必要な事項は、市



長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この訓令は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この訓令は、平成26年10月10日から施行する。

(任期の特例等)

- 3 この訓令の施行の日後最初に任命する地区担当職員の任期は、第4条の規定にかかわらず、任命の日から平成28年6月30日までとする。
- 4 地区担当職員の任期中に職名の変更があったときは、当該地区担当職員の任期が満了する日までの間において、引き続き任命された日の職名の区分に応じて職務を行うものとする。

### (3) 志木市地区まちづくり推進本部設置規程

#### (設置)

第1条 社会経済情勢の変化に伴い多様化する市民の需要に的確に対応する仕組みを実現するとともに、市民協働によるまちづくりを推進するため、志木市地区まちづくり推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

#### (所掌事務)

第2条 本部は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 地区担当職員（志木市地区担当職員設置規程（平成26年志木市訓令第4号。以下「職員規程」という。）第1条に規定する地区担当職員をいう。）に関すること。
- (2) 地区まちづくり会議（志木市地区まちづくり会議設置要綱（平成26年志木市告示第27号）第1条に規定する地区まちづくり会議をいう。）に関すること。
- (3) 市民協働による地区（職員規程第1条に規定する地区をいう。）におけるまちづくりの推進に関すること。

#### (構成)

第3条 本部に、本部長、副本部長及び本部員を置く。

- 2 本部長は、市長をもって充て、副本部長は副市長及び教育長をもって充てる。
- 3 本部員は、部長、会計管理者及び議会事務局長をもって充てる。

#### (本部長及び副本部長)

第4条 本部長は、本部を統括する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、あらかじめ本部長の指名した副本部長がその職務を代理する。

#### (会議)

第5条 本部の会議（以下「会議」という。）は、本部長が招集する。

- 2 会議の議事進行は、市民生活部長が行う。
- 3 本部長は、必要があると認めるときは、会議に、当該会議の議題に係る職員を出席させることができる。

(会議の記録等)

第6条 地域推進室長は、会議の経過及び結果を記録し、保管しておかなければならない。

2 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第7条 本部の庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第8条 この訓令に定めるもののほか、本部の運営について必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成26年4月1日から施行する。

この訓令は、平成26年10月10日から施行する。

担当 志木市  
地域推進室  
(市民活動推進課内)